



ダッシュボードの作成

Version 2023.1
2024-01-02

ダッシュボードの作成

InterSystems IRIS Data Platform Version 2023.1 2024-01-02

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

1 ダッシュボードの概要	1
1.1 Business Intelligence ダッシュボードの表示	1
1.2 ダッシュボードについて	3
1.3 ダッシュボード定義の場所	4
2 ダッシュボードの作成と変更	7
2.1 自動保存機能の概要	7
2.2 ダッシュボードの作成	7
2.3 ダッシュボードの設定の変更	8
2.4 ダッシュボードへのウィジェットの追加	13
2.5 ウィジェットのタイプの概要	14
2.5.1 ウィジェットのタイプとサブタイプ	14
2.5.2 ウィジェット・タイプの比較	14
2.6 ウィジェットの再構成	15
2.6.1 ツールバーの設定	16
2.6.2 サイドバーの設定	17
2.7 ウィジェットのデータ・ソースの指定	18
2.7.1 データ・ソースの名前	19
2.7.2 データ・ソースの種類	19
2.7.3 リンク・ウィジェット	19
2.8 ウィジェット・カタログへのウィジェットの保存	20
2.9 ダッシュボードからのウィジェットの削除	20
2.10 ダッシュボードの自動保存状態のクリア	21
2.11 ダッシュボードの保存	21
2.12 ダッシュボードのコピー	22
2.13 ダッシュボードの削除	22
2.13.1 ユーザ・ポータルでのダッシュボードの削除	22
3 共通のウィジェット・オプションの指定	23
3.1 ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ	23
3.1.1 印刷の要件	24
3.1.2 タイトルおよびサブタイトルの特別なオプション	24
3.1.3 リスト設定	24
3.1.4 フィルタ設定	24
3.2 ウィジェット・プロパティの追加	25
3.3 ウィジェット・プロパティの管理	26
3.4 数値形式文字列の指定	27
3.4.1 形式文字列の選択	27
3.4.2 数値形式文字列の入力	27
3.4.3 数値区切り文字のローカリゼーション	28
3.5 テーブルのテキスト・スタイルの指定	31
3.6 グラフのテキスト・スタイルの指定	32
3.7 線のスタイルの指定	32
4 ピボット・テーブル・ウィジェットの追加	35
4.1 ピボット・テーブル・ウィジェットの追加	35
4.2 ピボット・テーブル・ウィジェットのウィジェット設定の指定	36
4.3 列のカスタマイズ (KPI が表示されている場合)	37
4.4 ピボット・テーブル・ウィジェットでのリストの表示	37

4.5	ピボット・テーブルの外観のカスタマイズ	37
4.5.1	サイズと外観のオプション	38
4.5.2	色とスタイルのオプション	40
4.6	ピボット・テーブルの再定義の削除	42
5	グラフ・ウィジェットの追加	43
5.1	グラフ・ウィジェットの追加	43
5.2	グラフ・タイプのカスタマイズ	44
5.3	グラフの要件	44
5.4	使用可能なグラフ・タイプ	44
5.4.1	棒グラフと列グラフ	45
5.4.2	折れ線グラフと面グラフ	45
5.4.3	コンボ・グラフ	46
5.4.4	高低グラフ	49
5.4.5	円グラフ	51
5.4.6	X/Y グラフ	52
5.4.7	バブル・グラフ	54
5.4.8	時間グラフ	55
5.4.9	ツリー・マップ	56
5.4.10	ブルズアイ・グラフ	57
5.4.11	スワール・グラフ	58
5.5	プロダクション・ビジネス・メトリックの表示	60
6	グラフ・ウィジェットの外観のカスタマイズ	63
6.1	サイズと外観のオプション	63
6.2	タイトルとラベルのオプション	69
6.3	データなしの警告	74
6.4	色とスタイルのオプション	75
6.5	x 軸のオプション	81
6.6	1 つまたは複数の y 軸のオプション	84
6.7	系列の詳細のオプション	84
6.8	グラフの凡例のオプション	85
7	メータ・ウィジェットの追加	87
7.1	メータ・ウィジェットの追加	87
7.1.1	データ・ソース、プロパティ、メータ	88
7.2	メータのウィジェット設定の指定	88
7.3	メータ・タイプ	89
7.4	基本的なメータ・オプション	92
7.5	速度計のカスタマイズ	93
7.6	テキスト・メータのカスタマイズ	98
7.7	燃料計のカスタマイズ	99
7.8	信号機のカスタマイズ	100
7.9	ライト・バーのカスタマイズ	101
7.10	スマイリーのカスタマイズ	103
8	スコアカード・ウィジェットの追加	105
8.1	スコアカードの概要	105
8.1.1	スコアカードにおけるメジャーが 1 つのピボット・テーブル	105
8.2	スコアカード・ウィジェットの追加	106
8.3	スコアカードのウィジェット設定の指定	106
8.4	列の追加	107
8.5	スコアカードの列の構成	108

8.6	スコアカードの数式の指定	110
8.7	行番号の列の構成	111
8.8	行ラベルの列の構成	111
8.9	値の列の構成	111
8.10	トレンド・ラインとトレンド・バーの構成	112
8.11	プロット・ボックスの構成	113
8.12	矢印の構成	115
8.13	ランプの構成	116
8.14	スコアカード・ウィジェットの外観のカスタマイズ	117
8.14.1	サイズと外観のオプション	117
8.14.2	タイトルのオプション	118
8.14.3	色とスタイルのオプション	118
9	その他のウィジェットの追加	125
9.1	カレンダー・ウィジェットの追加	125
9.2	マップ・ウィジェットの追加	125
9.2.1	infoWindow ポップアップの構成	127
9.3	ポートレットを使用するウィジェットの追加	127
9.4	コントロール・ウィジェットの追加	127
10	テーマの定義と使用	129
10.1	テーマの概要	129
10.2	新しいテーマ定義の作成	130
10.3	テーマへのスタイル情報の追加	130
10.4	テーマの適用	130
10.5	テーマの削除	131
11	ウィジェット・コントロールの追加	133
11.1	コントロールの追加	133
11.2	コントロールの再構成	135
11.3	明示的なフィルタ・コントロールの追加	136
11.3.1	既定値の指定	136
11.4	OnClick フィルタ・コントロールの追加	137
11.4.1	例：OnClick フィルタを使用したリスト	138
11.5	更新コントロールの追加	139
11.6	ダッシュボードを印刷するコントロールの追加	139
11.7	ダッシュボードを再ロードするコントロールの追加	140
11.8	表示タイプを変更するコントロールの追加	140
11.9	行や列の並べ替えを変更するコントロールの追加	141
11.10	行や列の数を変更するコントロールの追加	142
11.11	行や列の仕様を変更するコントロールの追加	142
11.11.1	バリエーション：選択肢リストの提供	143
11.12	ピボット変数を設定するためのコントロールの追加	143
11.13	他のピボット・テーブルを表示するコントロールの追加	144
11.13.1	バリエーション：選択肢リストの提供	144
11.14	リストを表示するコントロールの追加	145
11.15	[ピボット分析] ウィンドウを表示するコントロールの追加	145
11.16	別のダッシュボードを表示するコントロールの追加	146
11.16.1	値を渡す方法	146
11.17	Web ページを表示するコントロールの追加	147
11.18	カスタム・アクションを実行するコントロールの追加	147
11.18.1	行の値の指定	148

11.19 コントロールの非表示	148
------------------------	-----

1

ダッシュボードの概要

ここでは、InterSystems IRIS® [Business Intelligence](#) のダッシュボードの概要を示します。

“[BI サンプルのアクセス方法](#)” も参照してください。

1.1 Business Intelligence ダッシュボードの表示

管理ポータルから Business Intelligence ダッシュボードにアクセスするには、[Analytics] をクリックしてから [ユーザ・ポータル] をクリックします。

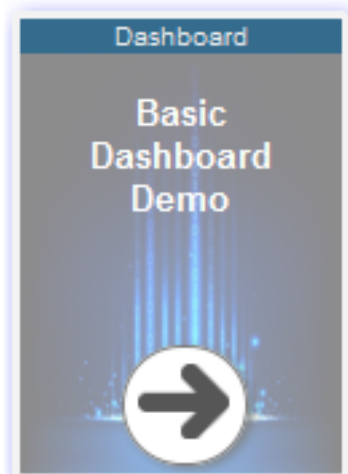
または、サポート対象のブラウザ (“サポート対象 Web ブラウザ” を参照) を使用して、以下の URL にアクセスします。

```
http://localhost:52773/csp/samples/_DeepSee.UserPortal.Home.zen
```

どちらの場合でも、右側の領域に、このネームスペース内の使用可能なダッシュボードがリストされます。この領域には、最初に以下のようにカバー・ビューで項目が表示されます。



カバーの上にカーソルを置くと、以下のようにカバーに矢印が表示されます。

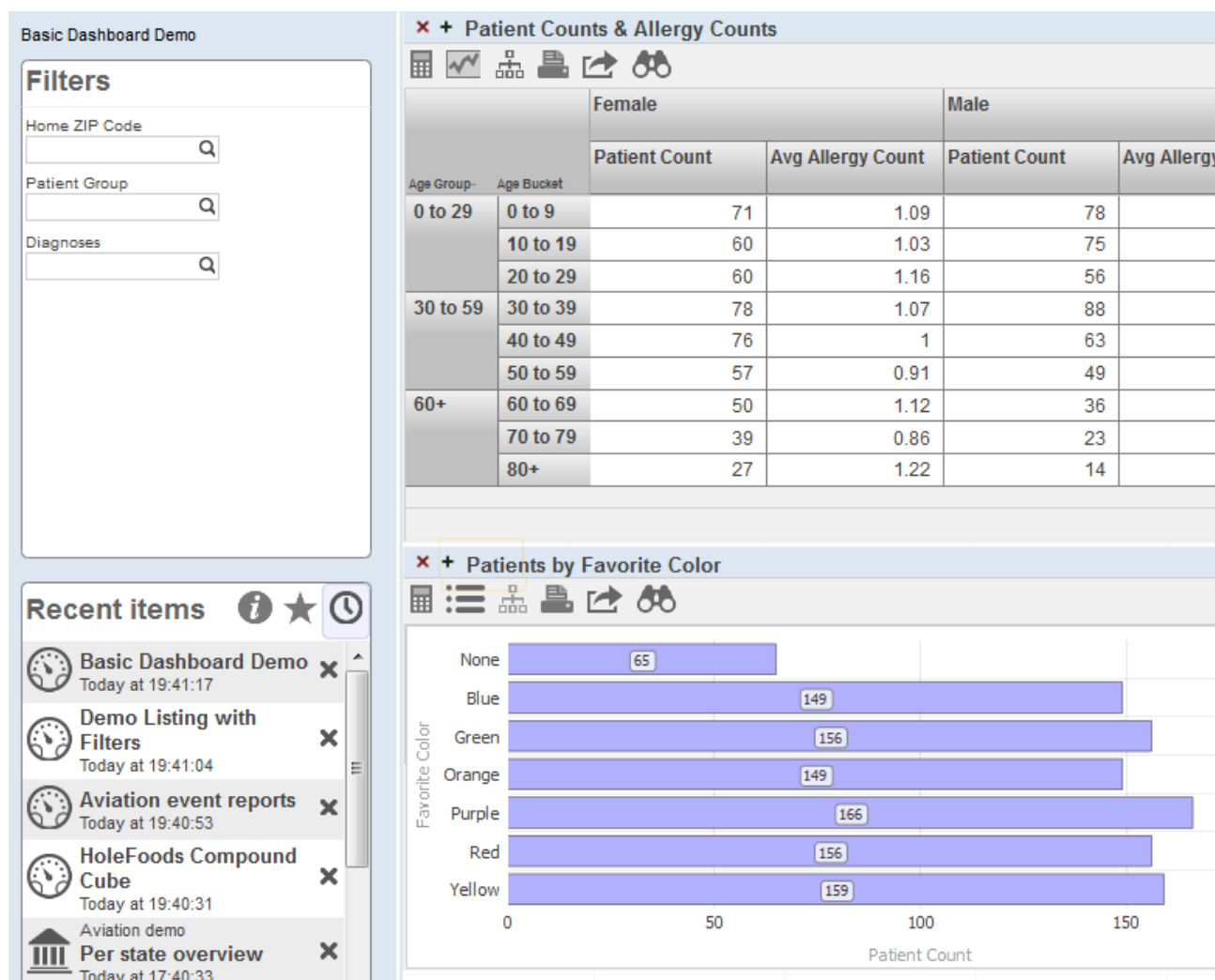


カバーの矢印をクリックすると、ダッシュボードが表示されます。ダッシュボードを編集する権限がある場合は、ダッシュボードを編集できます。

ユーザ・ポータルの使用法の詳細は、“[ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法](#)”を参照してください。

1.2 ダッシュボードについて

一般に、ダッシュボードには複数のウィジェットとコントロールがあります。以下に例を示します。

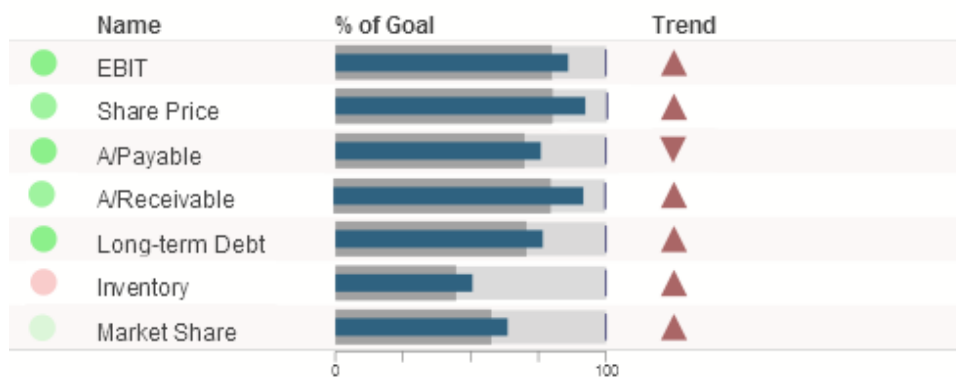


ダッシュボードの左の領域には 2 つのワークリストが表示されます。これらのワークリストは構成可能な領域で、これらの領域を使用してコントロール（上部のワークリストに示されている [フィルタ] など）やその他の有用な項目（下部のワークリストに示されている [最近の項目] リストなど）を表示できます。（ワークリストの使用法の詳細は、“[ダッシュボードとユーザ・ポータル](#)の使用法”を参照してください。ワークリストの構成の詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。）

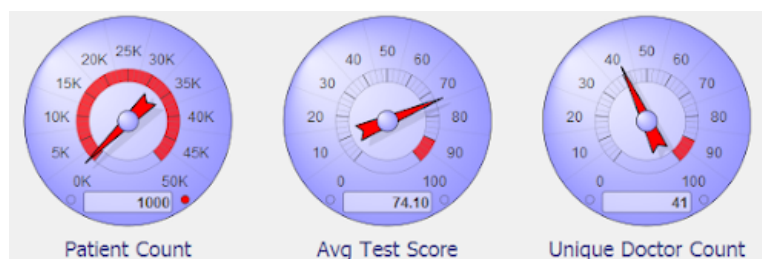
このダッシュボードの例には、2 つのウィジェット（どちらもピボット・テーブル・ウィジェット）も含まれています。ピボット・テーブル・ウィジェットでは、あらゆる種類の[データ・ソース](#)を表示できます。

ダッシュボードには、メータやスコアカードなど、他の種類のウィジェットを含めることができます。スコアカードには、複数のデータ行がテーブル形式で表示され、値に依存するランプや矢印などの機能も含まれます。以下はその例です。

Corporate Benchmarks

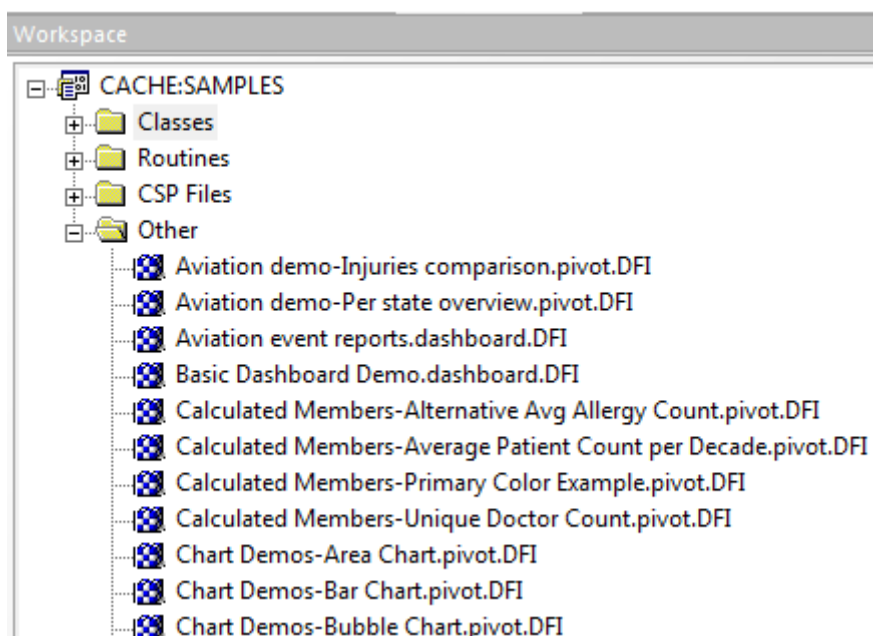


メータには、以下のようにグラフィカル・オブジェクトに 1 つ以上の値が表示されます。



1.3 ダッシュボード定義の場所

ダッシュボードを作成するには、その定義がスタジオの [ワークスペース] ウィンドウの [その他] フォルダ内に表示されます。このフォルダには、.dashboard.DFI という拡張子が付いた項目名でダッシュボード定義が表示されています。例えば、以下のように表示されます。



このフォルダには、ピボット・テーブル定義やその他の Business Intelligence フォルダ項目もリストされます。

これらの定義はクラス定義ではありませんが、配置を容易にするために、コピーして特殊なコンテナ・クラスに貼り付けることができます。詳細は、“InterSystems Business Intelligence の実装”の[“クラスへの Business Intelligence 要素のパッケージ化”](#)を参照してください。

2

ダッシュボードの作成と変更

ここでは、[Business Intelligence](#) [ダッシュボード](#)の作成および編集方法を説明します。

ダッシュボードのカバーのカスタマイズの詳細は、"[ダッシュボードとユーザ・ポータル](#)の[使用法](#)"を参照してください。

2.1 自動保存機能の概要

システムに用意されているオプションの自動保存機能を使用すると、ダッシュボードごとに各ユーザのユーザ・ポータルの状態を自動的に保存できます。この自動保存機能をユーザ・ポータルについて有効にすると、以下のようになります。


- ・ ユーザ・ポータルにアクセスすると、そのユーザ・インタフェースが最後に表示されたときと同じ状態で表示されます。
- ・ ダッシュボードを表示すると、そのダッシュボードが最後に表示されたときと同じ状態で表示されます。

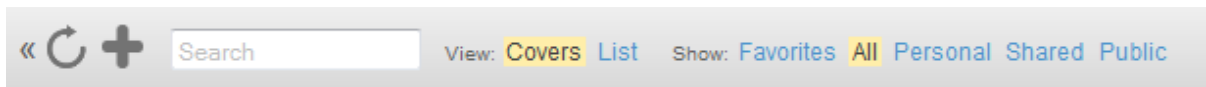
このオプションの詳細は、"InterSystems Business Intelligence の実装"の"[基本設定の指定](#)"を参照してください。アナライザ用の別個の自動保存機能が用意されています。

2.2 ダッシュボードの作成

ダッシュボードを作成するには、以下の一般的なプロセスを使用します。

1. [前述](#)したように、目的のネームスペースでユーザ・ポータルにログインします。
2. [メニュー]→[新しいダッシュボード] をクリックします。

または、以下のようにダッシュボードのリストの上にある[追加] ボタン  をクリックします。



次に、[ダッシュボードの追加] をクリックします。

または、ユーザ・ポータルの左側にある[<] ボタンをクリックし、[追加] をクリックしてから、[ダッシュボードの追加] をクリックします。

いずれの場合も、新しいダッシュボードに関する基本情報の入力を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。

3. [フォルダ] で、必要に応じて、フォルダ名を入力するか、または既存のフォルダを選択します。

“InterSystems Business Intelligence の実装” の “[フォルダ項目のローカリゼーションの準備](#)” も参照してください。

4. [ダッシュボード名] に、ダッシュボードの名前を入力します。

“InterSystems Business Intelligence の実装” の “[フォルダ項目のローカリゼーションの準備](#)” も参照してください。

この名前はダッシュボードの論理名として ([フォルダ] と共に) 使用されることに注意してください。例えば、[名前を付けて保存] オプションの使用時に、この論理名が表示されます。

5. 必要に応じて、[次のセクション](#)で説明するように、その他のオプションの値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

ダッシュボードの作成、保存、および表示が行われます。ダッシュボードは最初は空です。

7. ダッシュボードを構成するには、以下のツールの組み合わせを使用します。

- ・ [ダッシュボード・エディタ](#)。概要は、“[ダッシュボードの設定の変更](#)” を参照してください。
- ・ [メニュー](#)。概要は、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)” を参照してください。

2.3 ダッシュボードの設定の変更

ダッシュボードまたはダッシュボードにあるウィジェットの設定を変更するには、以下の手順を実行します。

1. “[Business Intelligence ダッシュボードへのアクセス](#)” の説明に従って、ダッシュボードを表示します。
2. ダッシュボードの左にある [>] ボタンをクリックします。(このボタンが表示されていない場合は、そのダッシュボードが編集不可であるか、ユーザにそのダッシュボードを編集する権限がありません。)以下に例を示します。

Basic Dashboard Demo

Filters

Home ZIP Code

Patient Group

Diagnoses

Recent items

- Basic Dashboard Demo Today at 16:30:43
- D2DASH/Charts XYChart Today at 16:34:05

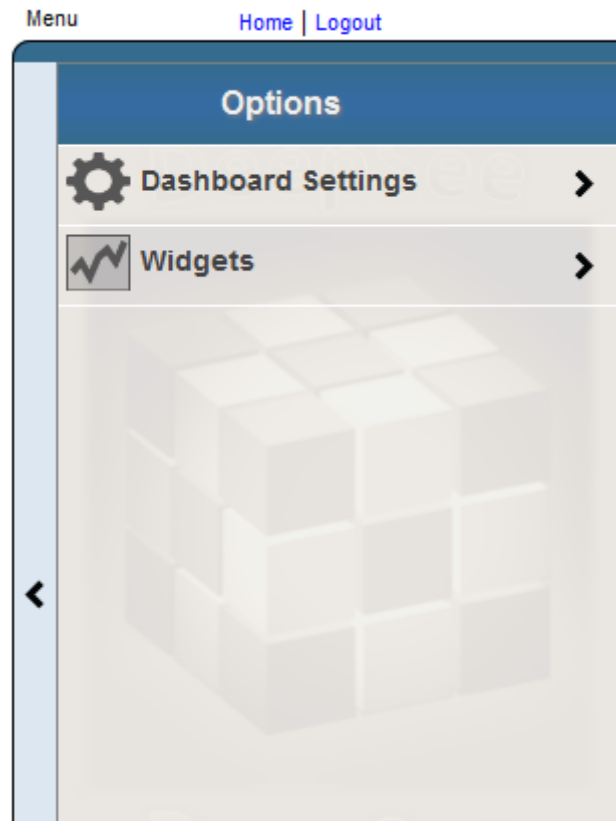
+ Patient Counts & Allergy Counts

		Female	
		Patient Count	Avg Allergy
Age Group-	Age Bucket		
	0 to 9	69	
	10 to 19	64	
	20 to 29	53	
30 to 59	30 to 39	80	
	40 to 49	84	
	50 to 59	54	
60+	60 to 69	51	
	70 to 79	23	
	80+	20	

+ Patients by Favorite Color

Color	
None	
Blue	
Green	

以下のようにダッシュボード・エディタが展開されます。



ダッシュボード・エディタを非表示にするには、[<] ボタンをクリックします。

3. [ダッシュボードの設定] をクリックします。
4. 必要に応じて以下のいずれかのオプションを指定します。
 - ・ [ロックされています] – このオプションを選択すると、このダッシュボードが一時的に変更できなくなります。このオプションを選択した場合、最初に [ロックされています] オプションのチェックを外さないと、ダッシュボードを再び編集することはできません。
 - ・ [パブリック] – このオプションを選択して、このダッシュボードをユーザ・ポータルに表示するかどうかを制御します。

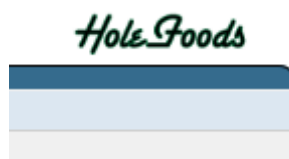
重要 このオプションでは、ダッシュボードへのアクセスは制御されません。このリストで後述するように、アクセスの制御には [所有者] オプションと [リソース] オプションを使用します。

ダッシュボードがパブリックとして指定されていなくても、[メイン]→[開く] でダッシュボードにアクセスできます。また、[検索] オプションを使用することで、ユーザ・ポータルでこれを検索できます。“[ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法](#)”を参照してください。

- ・ [ページ設定]→[会社名] – 右上隅に表示する名前を指定します。例えば、以下のように表示されます。



- ・ [ページ設定]→[会社のロゴ] – 右上隅に表示するイメージを選択します。例えば、以下のように表示されます。



このオプションを指定した場合、[ページ設定]→[会社名]は無視されます。

- ・ **[タイトル]** – ダッシュボードのタイトルを指定します。
 タイトルを指定すると、ユーザ・ポータル主要領域には、ダッシュボードのタイトルが表示されます。タイトルを指定しないと、ダッシュボード名が表示されます。
 “InterSystems Business Intelligence の実装” の “[フォルダ項目のローカリゼーションの準備](#)” も参照してください。
- ・ **[所有者]** – このダッシュボードを所有する InterSystems IRIS® ユーザを指定します。ダッシュボードに所有者が存在する場合、所有者のみがダッシュボードの **[リソース]** オプションを指定できます。次の項目を参照してください。
- ・ **[リソース]** – このダッシュボードへのアクセスの制御に使用するリソースを指定します。“ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法” の “ポータルの機能の使用法” の章の “[フォルダおよびフォルダ項目の可視性](#)” を参照してください。
- ・ **[カテゴリ]** – このダッシュボードが属するカテゴリを指定します。ユーザ・ポータルでは、カテゴリを使用して [カバールビュー](#) の項目をグループ化します。“[ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法](#)” を参照してください。
- ・ **[説明]** – ダッシュボードを簡単に説明します。
- ・ **[キーワード]** – このダッシュボードを後で検索できるようにするためのキーワードまたは語句をリストします。キーワードまたは語句のコンマ区切りリストを指定します。
 これらのキーワードは、ユーザ・ポータルで表示されます。
- ・ **[サイズ変更]** – このオプションを選択して、ダッシュボード上のウィジェットの移動やサイズ変更を可能にするかどうかを制御します。
- ・ **[変更]** – このオプションを選択して、ダッシュボード上のウィジェットを変更できるかどうかを制御します。
- ・ **[タイトル・バー]** – このサブメニューを使用して、このダッシュボード上のウィジェットのタイトル・バーの表示を制御します。これらの外観をカスタマイズすることもできます。このサブメニューには、以下のオプションがあります。
 - **[タイトル・バー]** – **[オン]** または **[オフ]** を選択します。
 - **[タイトル・バーの色]** – タイトル・バーで使用する既定の色を選択します。
 - **[タイトル・バーの不透明度]** – 既定で使用するタイトル・バーの不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
 - **[テキスト色]** – 既定で使用するタイトル・バーのテキスト色を選択します。
 - **[選択時の色]** – ウィジェットが選択されているときに使用するタイトル・バーの色を選択します。
 - **[選択時の不透明度]** – ウィジェットが選択されているときに使用するタイトル・バーの不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
 - **[選択時のテキスト色]** – ウィジェットが選択されているときに使用するタイトル・バーのテキスト色を選択します。
 - **[フォント]** – タイトル・バーのテキストの書体を選択します。
- ・ **[ウィジェットの境界線]** – このオプションを使用して、すべてのウィジェットの境界線を表示または非表示にします。

- ・ **[ワーク・リスト]** – ダッシュボード内のワークリスト数を指定します。既定値は次のとおりです。
 - ワークリストが 2 個のダッシュボードでは、既定で、上部のワークリストは **[フィルタ]** ボックスになり、下部のワークリストは **[お気に入り/最近使用]** 項目ボックスになります。
 - ワークリストが 1 個のダッシュボードでは、既定で、ワークリストは **[フィルタ]** ボックスになります。
- ・ **[バックグラウンド]** – このサブメニューを使用して、ダッシュボードの背景を指定します。このサブメニューには、以下のオプションがあります。
 - **[背景色]** – 背景色を選択します。この色が使用されるのは、以下の場合のみです。
 - **[背景イメージ]** – オプションの背景イメージを選択します。イメージを選択した場合は、**[背景色]** オプションは無視されます。
 - **[背景の不透明度]** – 背景色または背景イメージ (これらのうち使用されている方) の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
- ・ **[スケーラブル・グリッド]**、**[グリッド行]**、**[グリッド列]** – これらのオプションを使用して、サイズ変更可能なグリッドを基準として、すべてのウィジェットの相対位置と相対サイズを指定できます。

[スケーラブル・グリッド] オプションを有効にした場合、ウィジェットを移動すると、その左上角が最も近いグリッド点に合うようにウィジェットが配置されます。同様に、ウィジェットのサイズを変更すると、右下角が最も近いグリッド点に合うようにサイズが決まります。**[グリッド行]** オプションと **[グリッド列]** オプションを使用して、グリッドを指定します。グリッド自体は表示されません。

ダッシュボードのサイズを変更すると、すべてのウィジェットのサイズが自動で変更されます。**[スケーラブル・グリッド]** は、このサイズ変更動作をサポートする唯一のオプションです。
- ・ **[ここにはめ込む]** – このオプションを使用して、ウィジェットをダッシュボードに配置する方法を制御します。このオプションのチェックを外すと、互いに重なり合っても自由にダッシュボードのどこにでもウィジェットを配置できます。このオプションを選択すると、システムにより互いの隣か下にウィジェットが自動で揃えられます。

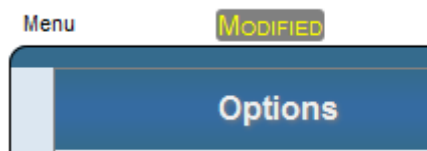
このオプションは、**[スケーラブル・グリッド]** オプションのチェックを外している場合にのみ使用できます。

ダッシュボード・エディタのその他の部分の詳細は、以下の項目を参照してください。

- ・ [ピボット・テーブル・ウィジェットの追加](#)
- ・ [グラフ・ウィジェットの追加](#)
- ・ [メータ・ウィジェットの追加](#)
- ・ [スコアカード・ウィジェットの追加](#)
- ・ [その他のウィジェットの追加](#)
- ・ [ウィジェット・コントロールの追加](#)

変更内容が自動的に保存されることがあります。

一方で、変更内容が自動的に保存されない状況もあります。その場合は、以下のようなインジケータがリマインダーとして表示されます。



その場合は、“[ダッシュボードの保存](#)”の説明に従って、ダッシュボードを保存します。

2.4 ダッシュボードへのウィジェットの追加

ウィジェットをダッシュボードに追加するには、以下の一般的な手順を使用します。

1. “[Business Intelligence ダッシュボードの表示](#)”の説明に従って、ダッシュボードを表示します。
2. ダッシュボードに無関係の変更を加えた場合に、それらの変更内容を維持するには、それらの変更内容を保存します。

ウィジェットを追加すると、ダッシュボード・デザイナーにより新規追加されたウィジェットと共にダッシュボードが保存されますが、他の未保存の変更内容は破棄されます。

3. 以下のいずれかを行います。
 - ・ [\[メニュー\]→\[新規ウィジェット追加...\]](#) をクリックします – 構成の詳細が含まれていない新しいウィジェットを追加する場合は、このオプションを使用します。
 - ・ [\[メニュー\]→\[カタログからウィジェットを追加...\]](#) をクリックします – 以前にウィジェット・カタログに保存した構成済みのウィジェットを再利用する場合は、このオプションを使用します。
必要に応じて、このウィジェットを再構成できます。ウィジェットの[タイプ](#)以外のすべての詳細を変更できます。ただし、ニーズに対して一般的な方法ですでに構成されているウィジェットを保存してある場合は、通常、このオプションを使用します。
 - ・ [ダッシュボード・エディタ](#)を表示して、[\[ウィジェット\]](#) をクリックし、プラス記号ボタンをクリックします。

これにより、ウィジェットを選択して基本情報を指定するウィザードが表示されます。

4. ウィジェットの[タイプ](#)とサブタイプ（該当する場合）に移動します。
5. (ほとんどのタイプのウィジェットの場合) 必要に応じて、以下の項目を指定します。
 - ・ [\[データソース\]](#) – このウィジェットのデータ・ソースを選択します。“[データ・ソースの名前](#)”と“[データ・ソースの種類](#)”を参照してください。
 - ・ [\[リンク先\]](#) – ソースとして使用するこのダッシュボードにある別のウィジェットを選択します。“[リンク・ウィジェット](#)”を参照してください。

または、“[ウィジェットのデータ・ソースの指定](#)”の説明に従って、後でデータ・ソースを指定します。

6. [\[ウィジェット名\]](#) で名前を指定します。それぞれのダッシュボードには名前が必要であることに注意してください。
7. [\[OK\]](#) をクリックして、ウィジェットをダッシュボードに追加します。
8. 必要に応じて、ウィジェットを[構成](#)します。個々のタイプのウィジェットの詳細は、以下の項目を参照してください。
 - ・ [ピボット・テーブル・ウィジェットの追加](#)
 - ・ [グラフ・ウィジェットの追加](#)
 - ・ [メータ・ウィジェットの追加](#)
 - ・ [スコアカード・ウィジェットの追加](#)
 - ・ [その他のウィジェットの追加](#)
9. 必要に応じて、ウィジェットにコントロールを追加します。“[ウィジェット・コントロールの追加](#)”を参照してください。

2.5 ウィジェットのタイプの概要

このセクションでは、ウィジェットのタイプについて概説します。

2.5.1 ウィジェットのタイプとサブタイプ

追加したウィジェットは、タイプの変更以外の方法で再構成できます。サブタイプがある場合、サブタイプの変更は可能です。以下のウィジェットのタイプとサブタイプが用意されています。

- ・ **ピボット・テーブル**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには、テーブル・サブタイプと多数のグラフ・サブタイプがあります。
非常に多くのグラフ・オプションがあるため、**グラフ**については**テーブル**とは別に説明します。
- ・ **メータ**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには多数のメータ・サブタイプがあります。
- ・ **スコアカード**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには、2 つのサブタイプ（標準と大型）があります。
- ・ **カレンダー**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには 1 つのサブタイプがあります。
- ・ **マップ**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには 1 つのサブタイプがあります。
- ・ **ポートレット**・ウィジェット。サブタイプには、ユーザが定義するポートレットがあります。
- ・ **コントロール**・ウィジェット。このタイプのウィジェットには、2 つのサブタイプ（水平と垂直）があります。

2.5.2 ウィジェット・タイプの比較

参考のために、さまざまなウィジェット・タイプの主な機能を比較して、以下の表にまとめます。

ウィジェットのタイプ	可能なデータ・ソース	印刷オプション	Excel へのエクスポート・オプション	ミニ・アナライザ・オプション	ドリルダウン・オプション
ピボット・テーブル・ウィジェット	ピボット・テーブル、KPI、またはプロダクション・ビジネス・メトリック	はい	はい	あり*	あり*
メータ	ピボット・テーブル、KPI、またはプロダクション・ビジネス・メトリック	あり	いいえ	あり*	なし
スコアカード	ピボット・テーブル、KPI、またはプロダクション・ビジネス・メトリック	はい	いいえ	あり*	なし
カレンダー	なし	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
マップ	ピボット・テーブル、KPI、プロダクション・ビジネス・メトリック、またはデータ・ソースなし	なし	いいえ	あり*	なし
コントロール ・ウィジェット	ピボット・テーブル、KPI、プロダクション・ビジネス・メトリック、またはデータ・ソースなし	なし	いいえ	いいえ	いいえ

*このオプションは、データ・ソースがピボット・テーブルの場合にのみ使用できます。

ポートレットの場合は、これらの全詳細は実装によって異なります。

2.6 ウィジェットの再構成

このウィジェットを再構成する場合は、ウィジェットの**タイプ**以外のすべての詳細を変更できます。特定のダッシュボード上のウィジェットを再構成するには、次の手順に従います。

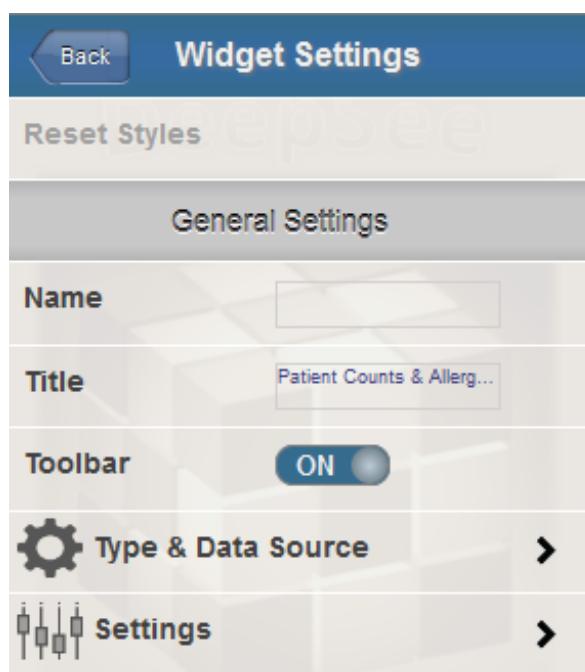
1. “[Business Intelligence ダッシュボードの表示](#)”の説明に従って、ダッシュボードを表示します。
2. [ダッシュボード・エディタ](#)を表示します。
3. [ウィジェット] をクリックします。

ダッシュボード内のウィジェットのリストが表示されます。



4. このリストで、ウィジェットの名前をクリックします。この操作によって、ウィジェットを選択します。

変更できる設定のリストが表示されます。ほとんどの場合、このリストにはサブメニューが示されています。以下は、部分的な例です。



5. 必要に応じて、以下の設定を指定します。これらの設定はすべてのウィジェットに用意されています。

- ・ **[名前]** – このダッシュボードの内部で使用する名前を指定します。ウィジェットが他のウィジェットを参照できます (例えば、別のウィジェットをフィルタ処理するなど)。これらの名前では便宜上、一連の名前付け規約を確立する場合があります。
- ・ **[タイトル]** – ウィジェットのタイトル・バーに表示するテキストを指定します。
すべてのタイトル・バーを非表示にするようにダッシュボードを構成できます。“[ダッシュボードの設定の変更](#)”を参照してください。
- ・ **[ツールバー]** – このウィジェットのツールバーを構成します。このサブメニューの詳細は、[最初のサブセクション](#)を参照してください。
- ・ **[サイドバー]** – このウィジェットのオプションのサイドバー・テキストを構成します。このサブメニューの詳細は、[2番目のサブセクション](#)を参照してください。

他のサブメニューには、選択したウィジェットの種類に応じて、追加の項目がリストされます。詳細は、以下の項目を参照してください。

- ・ [ピボット・テーブル・ウィジェットの追加](#)
- ・ [グラフ・ウィジェットの追加](#)
- ・ [メータ・ウィジェットの追加](#)
- ・ [スコアカード・ウィジェットの追加](#)
- ・ [その他のウィジェットの追加](#)
- ・ [ウィジェット・コントロールの追加](#)

2.6.1 ツールバーの設定

このサブメニューを使用して、ウィジェットのツールバーを構成します。以下のオプションを指定します。

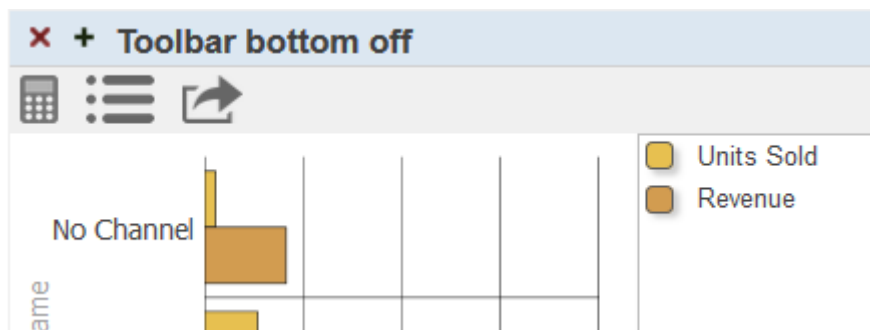
- ・ **[ツールバー]** – このオプションを使用して、ツールバーを有効または無効にします。**[オン]** または **[オフ]** を選択します。

ツールバーを有効にすると、ツールバーを必要とするボタンまたはコントロールがウィジェットに構成されている場合にツールバーが表示されます (**[最大化時に表示]** オプションを参照してください)。ウィジェットにそのようなボタンやコントロールがない場合、ツールバーは表示されません。

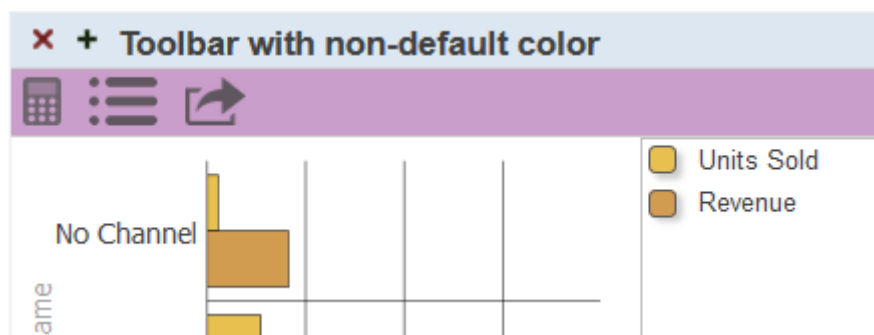
ツールバーを無効にすると、ツールバーは表示されなくなります。

[ツールバー] で **[オン]** を選択することをお勧めします。

- ・ **[下部の境界線]** – このオプションを使用して、ツールバーの下部の境界線を表示または非表示にします。**[オン]** または **[オフ]** を選択します。



- ・ **【最大化時に表示】**－ このオプションで **【オン】** を選択すると、ウィジェットが最大化されているときにのみツールバーが表示されます。
- ・ **【ツールバーの色】**－ ツールバーの背景に使用する色を選択します。または、[X] をクリックして既定の色に戻します。



- ・ **【ツールバーの不透明度】**－ このオプションを使用して、ツールバーの不透明度を指定します。既定値は 1 (100%) です。

2.6.2 サイドバーの設定

このサブメニューを使用して、ウィジェットのオプションのサイドバー・テキストを構成します。このテキストは、以下の例のようにウィジェットの右側の四角枠内に表示されます。

✕ + Widget with Sidebar					
		Female		Male	
		Patient Count	Avg Allergy Count	Patient Count	Avg Allergy Count
Age Group	Age Bucket				
0 to 29	0 to 9	71	1.09	78	1.08
	10 to 19	60	1.03	75	1.16
	20 to 29	60	1.16	56	0.94
30 to 59	30 to 39	78	1.07	88	1.02
	40 to 49	76	1.00	63	1.40
	50 to 59	57	0.91	49	0.97
60+	60 to 69	50	1.12	36	0.83
	70 to 79	39	0.86	23	1.13
	80+	27	1.22	14	0.86

This is a sidebar.

It accepts limited HTML formatting, including breaks to control word wrap.

The width of *this* sidebar is defined as 25% of the widget width.

以下のオプションを指定します。

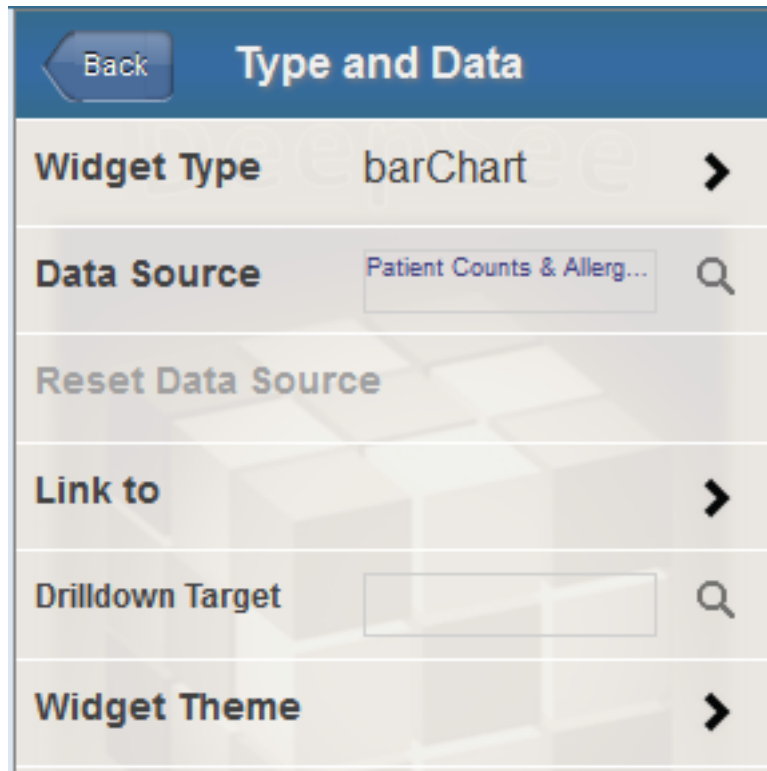
- ・ **【サイドバー】**－ このオプションを使用して、サイドバーを有効または無効にします。 **【オン】** または **【オフ】** を選択します。
- ・ **【サイドバーのコンテンツ】**－ サイドバーに表示するテキストを入力します。ここでは、簡単な HTML マークアップを使用できます (例 : <p> と </p> タグ、
 タグ、<i> と </i> タグ、 と タグなど)。
テキストを <p> および </p> タグで囲んだ場合は、そのテキストは上の例のように自動的に折り返されます。
- ・ **【サイドバーの幅】**－ サイドバーの幅を指定します。数値を指定するか (ピクセル単位の幅として解釈されます)、数値とそれに続く % を指定します (ウィジェット全体の幅に対するパーセンテージとして解釈されます)。

2.7 ウィジェットのデータ・ソースの指定


ウィジェットのデータ・ソースを指定するには、以下の手順を実行します。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [タイプとデータ・ソース] をクリックします。

[タイプとデータ] サブメニューが表示されます。



3. 以下のいずれかのオプションを指定します。
 - ・ [データソース] – このウィジェットのデータ・ソースを選択します。“[データ・ソースの名前](#)”と“[データ・ソースの種類](#)”を参照してください。
 - ・ [リンク先] – ソースとして使用するこのダッシュボードにある別のウィジェットを選択します。“[リンク・ウィジェット](#)”を参照してください。
 - ・ [ドリルダウン・ターゲット] – このオプションを使用すると、ユーザはセルをダブルクリックして別のダッシュボードにアクセスできます。新しく開いたダッシュボードは、ユーザがダブルクリックしたコンテキストに応じてフィルタ処理されます。例えば、特定の都市のデータを表示するセルをユーザがダブルクリックすると、新しく開いたダッシュボードはその都市に応じてフィルタ処理されます。

このオプションを使用するには、検索ボタン  をクリックし、ダッシュボードをクリックしてから [OK] をクリックします。

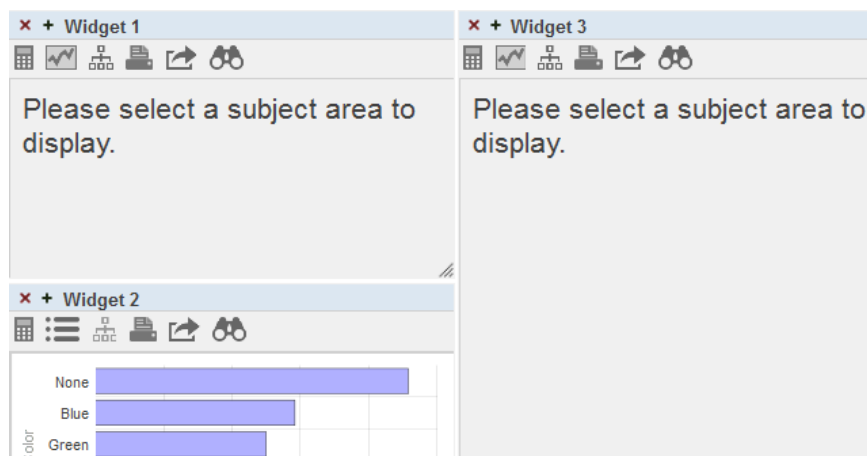
[ウィジェット・タイプ] オプションでは、ウィジェットに対して別の[サブタイプ](#)を選択できますが、タイプは選択できません。このページで前述した“[ウィジェットのタイプとサブタイプ](#)”を参照してください。

以下のサブセクションで詳細を説明します。

2.7.1 データ・ソースの名前

ウィジェットのデータ・ソースを指定すると、そのデータ・ソースは名前によって参照されます。このロジックにより、ダッシュボードやピボット・テーブルをエンド・ユーザに配置するプロセスが単純になります。しかし、このことは、項目の名前を変更すると、それらの要素を使用するダッシュボードをすべて更新する必要があることも意味します。

ダッシュボードを開いたときに、ダッシュボードが使用するデータ・ソースをシステムが検出できない場合は、できるだけ多くのダッシュボードが表示されます。以下はその例です。



2.7.2 データ・ソースの種類

後述する例外を除き、ダッシュボード・ウィジェットには、以下のデータ・ソースのデータを表示できます。

データ・ソース	作成された場所	参照先
ピボット・テーブル	アナライザ	アナライザの使用法
詳細リスト		
KPI (重要業績評価指標)	スタジオ	InterSystems Business Intelligence の実装
プロダクション・ビジネス・メトリック (相互運用対応ネームスペースでのみ使用可能)	スタジオ	プロダクションの開発

例外：

- ・ 詳細リストは、ピボット・テーブル・ウィジェット (テーブル・モード) でのみ表示できます。

データ・ソースの種類は、ウィジェットの外観に影響しません。例えば、指定されたグラフがピボット・テーブル、KPI、またはビジネス・メトリックのデータを表示しているのかどうかユーザにはわかりません。

一部の種類のウィジェットはデータ・ソースを使用しないので注意してください。

2.7.3 リンク・ウィジェット

ウィジェットで **[リンク先]** オプションを指定すると、別のウィジェット (独立ウィジェット) にリンクされる依存ウィジェットとして、そのウィジェットを構成します。リンク・ウィジェットには、以下の規則が適用されます。

- ・ 1 個の独立ウィジェットは、同じダッシュボードで任意の数の依存ウィジェットにリンクできます。

- ・ ウィジェットは連鎖できません。つまり、[リンク先] は別の依存ウィジェットではなく独立ウィジェットにする必要があります。
- ・ 独立ウィジェットの行をドリル・ダウンすると、システムにより依存ウィジェットもドリル・ダウンされます。
- ・ 独立ウィジェットをフィルタ処理すると、システムにより依存ウィジェットもフィルタ処理されます。依存ウィジェットのフィルタは、無視されます。
- ・ ミニ・アナライザを使用して、独立ウィジェットを再定義すると、システムにより依存ウィジェットも再定義されます。

2.8 ウィジェット・カタログへのウィジェットの保存

ウィジェット (そのすべての構成詳細も含む) をウィジェット・カタログにコピーできます。そのためには、以下の操作を実行します。

1. ウィジェットが含まれているダッシュボードを表示します。“[Business Intelligence ダッシュボードの表示](#)” を参照してください。
2. [ダッシュボード・エディタ](#)を表示します。
3. “[ウィジェットの再構成](#)” の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
4. [メニュー]→[ウィジェットをカタログに保存...] をクリックします。.

カタログでウィジェットの詳細を指定するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

5. [フォルダ]、[ウィジェット名]、およびその他のオプションを指定します。詳細は、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)” を参照してください。
6. [OK] をクリックします。

ウィジェットをこの名前ですでに指定フォルダに保存してある場合、以前に保存されたウィジェットの上書きを確認するプロンプトが表示されます。

7. [OK] をクリックします。

ダッシュボード自体は変更されません。

保存されたコピーには、[ローカル・オーバーライド](#)は含まれません。つまり、ミニ・アナライザを使用してピボット・テーブルをカスタマイズしても、その内容はウィジェット・カタログには記録されません。

2.9 ダッシュボードからのウィジェットの削除

ダッシュボードからウィジェットを削除する手順は以下のとおりです。

1. [ダッシュボード・エディタ](#)を表示します。
2. ダッシュボードに無関係の変更を加えた場合に、それらの変更内容を維持するには、それらの変更内容を保存します。

ウィジェットを削除すると、その削除されたウィジェットがない状態でダッシュボードが自動的に保存されます。このステップでは、他の未保存の変更内容が破棄されます。

3. [ウィジェット] をクリックします。
4. ウィジェット名の横にある [X] ボタンをクリックします。変更内容は自動的に保存されます。

2.10 ダッシュボードの自動保存状態のクリア

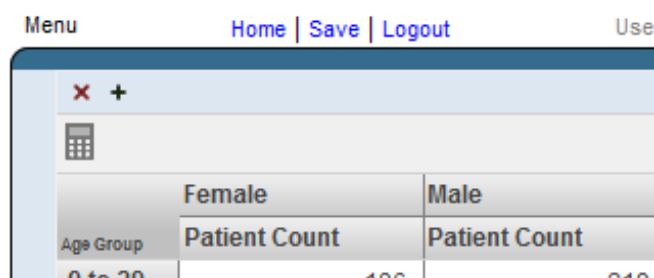
ユーザ・ポータルで自動保存機能が有効になっている場合は、ダッシュボードを表示すると、ユーザ・ポータルには、そのダッシュボードが未保存の変更内容 (ある場合) と共に表示されます。これらの未保存の変更内容を削除するには、**[メニュー]→[自動保存状態のクリア]** をクリックします。これにより、ユーザ・ポータルには保存されたダッシュボード定義どおりにダッシュボードが表示されます。

または、ダッシュボードを保存することで、変更内容を保存して定義を変更することもできます。[次のトピック](#)を参照してください。

2.11 ダッシュボードの保存

作業中のダッシュボードを保存するには、次のいずれかの操作を行います。

- ・ **[保存]** をクリックします。



	Female	Male
Age Group	Patient Count	Patient Count
0 to 20	408	310

ダッシュボードが即座に保存されます。

- ・ **[メニュー]→[保存]** をクリックします。

ダッシュボードが即座に保存されます。

- ・ **[メニュー]→[オプションを指定して保存...]** をクリックします。

以下のオプションの一部またはすべてを指定して、**[OK]** をクリックします。

- **[フォルダ]** - ダッシュボードが属するフォルダを指定します (存在する場合)。フォルダ名を入力するか、既存のフォルダを選択します。必要に応じて、スラッシュ文字 (/) を使用してサブフォルダを指定します。例えば、以下を **[フォルダ]** に入力できます。

My Folder/My Subfolder

最初のフォルダ名の先頭にドル記号 (\$) を使用しないでください。使用すると、ダッシュボード定義はスタジオでしかアクセスできなくなります。

- **[ダッシュボード名]** - ダッシュボードの名前を指定します。

他のオプションについては、このページで前述した [“ダッシュボードの設定の変更”](#) を参照してください。

または、**[メニュー]→[名前を付けて保存...]** を使用します。[次のセクション](#)を参照してください。

2.12 ダッシュボードのコピー

ダッシュボードをコピーするには、以下の手順を実行します。

1. “[Business Intelligence ダッシュボードの表示](#)”の説明に従って、ダッシュボードを表示します。
2. [メニュー]→[名前を付けて保存...]をクリックします。
3. 前のセクションの説明に従ってオプションを指定します (“[ダッシュボードの設定の変更](#)”も参照してください)。
4. [OK] をクリックします。

2.13 ダッシュボードの削除

以下は、ダッシュボードを削除する方法の 1 つです。

1. “[Business Intelligence ダッシュボードの表示](#)”の説明に従って、ダッシュボードを表示します。
2. [メニュー]→[ダッシュボードの削除]をクリックします。
確定するように求められます。
3. [OK] をクリックします。

注釈 削除したダッシュボードは、\$TRASH という名前のフォルダに移動されます。このフォルダは、ユーザ・ポータルには表示されません。

2.13.1 ユーザ・ポータルでのダッシュボードの削除

ユーザ・ポータルでダッシュボードを削除することもできます。

- ・ ユーザ・ポータルを[カバー・ビュー](#)で表示している場合、ダッシュボードのカバーをクリックして、ダイアログ・ボックスの [X] をクリックします。[OK] をクリックし、確定します。
- ・ ユーザ・ポータルを[リスト・ビュー](#)で表示している場合は、ダッシュボードを示す行の [X] ボタンをクリックします。[OK] をクリックし、確定します。

ユーザ・ポータルには、プライベート・ダッシュボードは表示されません。プライベート・ダッシュボードを削除するには、そのダッシュボードをパブリックに変更してから削除する必要があります。“[ダッシュボードの設定の変更](#)”を参照してください。または、すべての項目（パブリックとプライベートの両方）が表示されるフォルダ・マネージャでダッシュボードを削除します。“[InterSystems Business Intelligence の概要](#)”の“[Business Intelligence ユーザ・インタフェースの概要](#)”を参照してください。

3

共通のウィジェット・オプションの指定

ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)でウィジェットを構成する際に複数の場所で使用されるオプションについて説明します。

3.1 ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ

ほとんどの[タイプのウィジェット](#)を印刷できます。システムによるウィジェットの印刷方法をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、[“ウィジェットの再構成”](#)の説明に従ってウィジェットを選択して、[\[印刷設定\]](#)をクリックしてから[\[ページの設定\]](#)をクリックします。以下のオプションを変更できます。

- ・ [\[リセット\]](#) – このウィジェットの既定の印刷設定に戻すには、これをクリックします。
- ・ [\[ページサイズ\]](#) – ページのサイズを指定します。ページ・サイズを選択します。
- ・ [\[ユニット\]](#) – (読み取り専用) このフィールドは、選択したページ・サイズに関連付けられたユニットを表示します。
- ・ [\[向き\]](#) – ページの向きを指定します。
- ・ [\[タイトル\]](#) – 必要に応じて PDF に追加するタイトルを指定します。特別なオプションについては、[最初のサブセクション](#)を参照してください。
- ・ [\[サブタイトル\]](#) – 必要に応じて PDF に追加するサブタイトルを指定します。特別なオプションについては、[最初のサブセクション](#)を参照してください。
- ・ [\[サブタイトルの表示\]](#) – [\[オン\]](#) をクリックすると、PDF にサブタイトルが表示されます。または [\[オフ\]](#) をクリックすると、サブタイトルは表示されません。
- ・ [\[リスト設定\]](#) – これを選択すると、出力が詳細リストである場合に適用される追加のオプションにアクセスできます。次に、[“リスト設定”](#) サブセクションの説明に従ってオプションを指定します。
- ・ [\[フィルタ設定\]](#) – これを選択すると、このピボット・テーブルに適用されるフィルタの情報の外観を制御するオプションにアクセスできます。次に、[最初のサブセクション](#)の説明に従ってオプションを指定します。
- ・ [\[日付の表示\]](#) – [\[オン\]](#) をクリックすると、PDF の最初のページの上部に現在の日付が表示されます。または、[\[オフ\]](#) をクリックして、この情報を省略します。
- ・ [\[ユーザの表示\]](#) – [\[オン\]](#) をクリックすると、PDF の最初のページの上部に現在のユーザが表示されます。または、[\[オフ\]](#) をクリックして、この情報を省略します。
- ・ [\[ページ・マージン\]](#) オプション : [\[上\]](#)、[\[下\]](#)、[\[左\]](#)、および [\[右\]](#) – 上、下、左、右のマージンのサイズをそれぞれ指定します。

[\[タイトル\]](#)、[\[サブタイトル\]](#)、および [\[日付の表示\]](#) のオプションは Excel にエクスポートする場合にも適用されます。

3.1.1 印刷の要件

[印刷] オプションを実行すると、InterSystems IRIS は Java を使用してサードパーティの PDF レンダリング・ツールを呼び出します。これはユーザのローカル・マシンがアクセスするサーバに Java (具体的には JRE : Java ランタイム環境) が必要であることを意味します。要件の詳細は、“アナライザの使用法” の “PDF 出力向け InterSystems IRIS の構成” を参照してください。

3.1.2 タイトルおよびサブタイトルの特別なオプション

[タイトル] フィールドおよび [サブタイトル] フィールド内で、静的なテキストと以下のトークンの組み合わせを表示できます。

- ・ `{@filter.filterName}`。filterName は指定のウィジェット用に定義されたフィルタの名前です。ダッシュボード・デザイナーの [フィルタ] ドロップダウン・メニューで指定した名前と同じ名前を使用します。

PDF では、このトークンはそのフィルタの現在の値に置き換えられます。

- ・ `{@date.dateFormat}`。dateFormat は整数の日付形式です。これは、\$ZDATETIME の dformat 引数と同じ意味です。

PDF では、このトークンは、指定の形式の日付に置き換えられ、これに 24 時間形式の時刻が続きます。

- ・ `{@variable.variableName}`。variableName は実行時変数の名前です。

PDF では、このトークンはその変数の現在の値に置き換えられます。

3.1.3 リスト設定

[リスト設定] では、以下のオプションの一部またはすべてを指定します。これらのオプションは、出力が詳細リストである場合に適用されます。

- ・ [リスト・フィルタの表示] – [オン] をクリックすると、詳細リスト向けに使用されるコンテキストに関する情報 (リストの要求前に選択されていたメンバ、および使用されていたフィルタ) が表示されます。または、[オフ] をクリックして、この情報を省略します。
- ・ [縞模様の表示] – [オン] をクリックすると、1 行おきに異なる色が使用されます。または、[オフ] をクリックすると、すべての行に同じ色が使用されます。
- ・ [フォント・サイズ] – フォント・サイズ (単位を含む) を指定します (6pt など)。

3.1.4 フィルタ設定

[フィルタ設定] では、フィルタ情報の表示を制御する以下のオプションの一部またはすべてを指定します。

- ・ [フィルタの表示] – フィルタ情報の表示形式を指定します。[テーブルとして] (最初のページの最上部にテーブルとしてこの情報を表示する)、[タイトルとして] (サブタイトルとしてこの情報を表示するか、サブタイトルに追加する)、または [オフ] (この情報を表示しない) を選択します。

既定では、フィルタ情報は、指定されたサブタイトルの右側のサブタイトル領域に追加されます。

テーブルとしてフィルタ情報を表示すると、2 列のテーブルが表示され、左側にレベル名 (フィルタ名) が、右側にメンバ名 (フィルタ項目名) が示されます。

- ・ [テーブルのスタイル] – フィルタ情報を表示するテーブルの外観を制御するためのオプションを指定します。

これらのオプションは、キャプション列 (左側の列) と項目列 (右側の列) の両方に影響を与えます。

- ・ **[行ヘッダのスタイル]** – 行ヘッダの外観を制御するオプションを指定します。これらのオプションは **[テーブルのスタイル]** オプションをオーバーライドします。
- ・ **[項目のスタイル]** – 項目列の外観を制御するオプションを指定します。これらのオプションは **[テーブルのスタイル]** オプションをオーバーライドします。
- ・ **[NOW の表示形式]** フィルタで NOW メンバが使用されていてそのフィルタ情報を表示する場合に、時間レベルの NOW メンバを表示する方法を指定します。\$ZDATE 関数の dformat オプションのいずれかを指定します。例えば、3 を指定して ODBC 形式 (例えば、2015-03-27) にします。

このオプションを空白のままにすると、PDF は NOW メンバを NOW と表示します。

3.2 ウィジェット・プロパティの追加

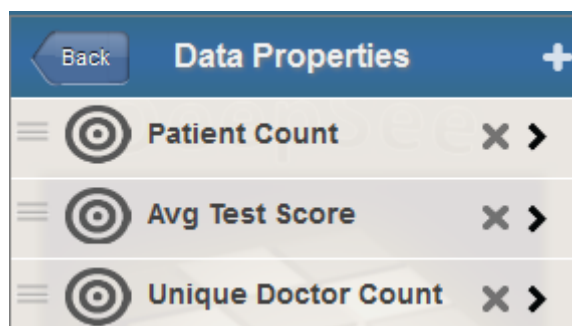
一部のタイプのウィジェットはプロパティを必要とし、これらのプロパティのそれぞれは、通常、構成されているデータ・ソース内の 1 つの値に対応しています (例えば、データ・ソースがピボット・テーブルである場合、ウィジェットの各プロパティには、そのピボット・テーブルにあるメジャーを指定できます)。

メータ・ウィジェットの場合、各プロパティはウィジェット内の個別のメータに表示されます。同様に、ピボット・テーブル・ウィジェットの場合、各プロパティは個別の列として表示されます。スコアカードには、プロパティと類似した列があります。この列もプロパティと同様に構成できます。

プロパティをウィジェットに追加する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)” の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. **[データのプロパティ]** をクリックします。

[データのプロパティ] サブメニューが表示されます。このサブメニューには、このウィジェットに対して定義されているすべてのプロパティが表示されます。例えば、以下のように表示されます。



3. プラス記号 (+) ボタンをクリックします。

プロパティを指定するダイアログ・ボックスが表示されます。

4. **[値]** で、表示するデータ・ソースのプロパティを選択します。

メータ・ウィジェットまたはスコアカードの場合、代わりに数値定数を入力できます。

[値] を手動で編集した場合、**[値]** に数値があると、システムはこれが数値定数であると想定し、その値を表示します。**[値]** に `=[propertyname]` という形式がある場合、システムはこれがデータ・ソースのプロパティであると想定し、そのプロパティの値を表示します。プロパティを選択すると、システムは自動的にプロパティを `=[]` でラップします。

スコアカードの場合は、代わりに**数式**を入力できます。

5. 必要に応じて、以下の追加項目を指定します。

- ・ **[ラベル]**—ラベルを入力します。または、必要に応じて、**[ラベル]** の右側にあるチェック・ボックスにチェックを付けます。このチェック・ボックスにチェックを付けた場合は、このプロパティのローカライズ名がラベルとして使用されます。このオプションは、**[値]** がデータ・ソースのプロパティである場合にのみ適用されます。

ラベルを入力する場合は、ラベルに \n を記述するとラベルのテキストを強制改行できます。

- ・ **[隠し]**—このオプションを選択して、この値を非表示にします。
- ・ **[値列]**—このオプションを選択して、この列の値を行の値として構成します。この値は、カスタム・アクションに渡されます。“[行の値の指定](#)”を参照してください。

ウィジェットの 1 つのデータ・プロパティに対してのみこのオプションを選択できます。

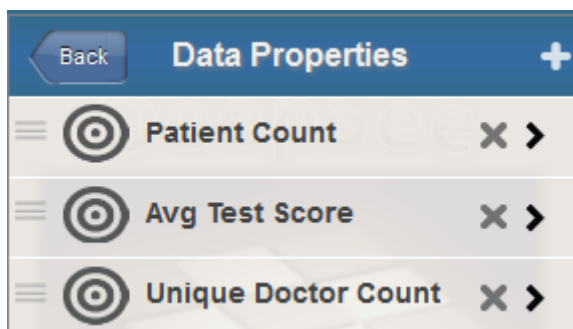
- ・ **[書式]**—[形式文字列](#)を入力します。

または、[次のセクション](#)の説明に従ってプロパティを変更する場合は、これらのオプションを後で指定します。

6. [OK] をクリックします。

3.3 ウィジェット・プロパティの管理

[プロパティ](#)を定義しているウィジェットの場合は、そのプロパティが**[データのプロパティ]** サブメニューに表示されます。以下はその例です。



他で説明している特定のプロパティ・オプションに加えて、以下の一般的な操作を実行できます。

- ・ プロパティの順序を変更します。そのためには、最初にプロパティ名の左にあるアイコンをクリックします。クリックす

ると、アイコンは次のようにハイライト表示されます。



次に、リスト内でそのプロパティを上または下にドラッグします。

- ・ プロパティを削除します。そのためには、そのプロパティの行で [X] ボタンをクリックします。
- ・ プロパティを再構成します。そのためには、プロパティ名をクリックします。オプションが含まれたサブメニューが表示されます。オプションの詳細は、[前のセクション](#)を参照してください。**[名前]**を指定することもできます。必要に応じて変更します。

3.4 数値形式文字列の指定

一部のメータや、数値を表示するその他の場所では、**[形式]** オプションを使用して数値の表示を制御できます。場合によって、オプションを選択することも、数値形式文字列を入力することもできます。それ以外の場合は、数値形式文字列を入力する必要があります。

3.4.1 形式文字列の選択

ダッシュボード・エディタの **[形式]** に以下の選択肢が用意されていることがあります。

オプション	例
###	6609
###. #	6609.1
###. ##	6609.12
###. ###	6609.123
#, ##	6,609
#, ##. #	6,609.1
#, ##. ##	6,609.12
#, ##. ###	6,609.123
##. ##%	660912.3%

3.4.2 数値形式文字列の入力

適用可能なすべての場所で、代わりに、数値形式文字列を入力できます。これによって、より多くのオプションを利用できます。以下のように 1 ～ 4 つの部分で構成する文字列を指定できます。

`positive_piece;negative_piece;zero_piece;missing_piece`

`positive_piece` は、正の値の表示方法を制御し、`negative_piece` は、負の値の表示方法を制御します。`zero_piece` は、ゼロの表示方法を制御し、`missing_piece` は、欠落値の表示方法を制御します。

各部分は、以下のベース・ユニットのいずれかを含む文字列です。

ベース・ユニット	意味	例
#	1000 単位の区切り文字と小数点以下の桁がない値を表示します。	12345
#, #	1000 単位の区切り文字を使用して値を表示します。小数点以下の桁は含まれません。これは正の数値に対する既定の表示形式です。	12,345
#.###	1000 単位の区切り文字なしで値を表示します。小数点以下 2 桁 (またはピリオド後のシャープ記号の数に応じた小数点以下桁数) まで含まれます。ピリオド以降のシャープ記号は必要なだけ指定できます。	12345.67
#, #.###	1000 単位の区切り文字を使用して値を表示します。小数点以下 2 桁 (またはピリオド後のシャープ記号の数に応じた小数点以下桁数) まで含まれます。ピリオド以降のシャープ記号は必要なだけ指定できます。	12,345.67

ベース・ユニットの前後に追加の文字を組み込むことができます。

- ・ パーセント記号 (%) を組み込むと、値がパーセントとして表示されます。つまり、値に 100 が乗じられ、指定した位置にパーセント記号 (%) が表示されます。
- ・ その他の文字も、指定の位置に指定どおり表示されます。

以下のテーブルに例を示します。

例	論理値	表示値
#, #; (#, #) これは、数値の既定表示に対応します。	6608.9431	6,609
	-1,234	(1,234)
#, #.####	6608.9431	6,608.943
#%;	6	600%
\$#, #; (\$#, #)	2195765	\$2,195,765
	-3407228	(\$3,407,228)

3.4.3 数値区切り文字のローカリゼーション

特定の数値区切り文字の使用に関する規則は、ロケールによって異なります。例えば、米国内では、1000 単位の区切り文字としてコンマ , が使用され、小数点区切り文字としてピリオド . が使用されます。多くのヨーロッパ諸国では、1000 単位の区切り文字としてピリオド . が使用され、小数点区切り文字としてコンマ , が使用されます。

このローカリゼーションは、選択したインスタンスのロケールに応じて InterSystems IRIS によって自動的に適用されます。すなわち、数値文字列の書式設定構文はロケールに依存しません。以下の例を考えてみます。

以下に示す棒グラフ・ウィジェットでは、左下の [値の書式] が #, #.#### に設定されているため、グラフでは 1000 単位の区切り文字が使用され、小数点以下 3 桁まで表示されています。

Title

Title Style >

Subtitle

Subtitle Style >

Title Align

Title Box >

Title Image >

Image Width 50 ☒

Image Height 50 ☒

Image Top 0 ☒

Image Left 50 ☒

Labels

Labels ☐ OFF

Label Style >

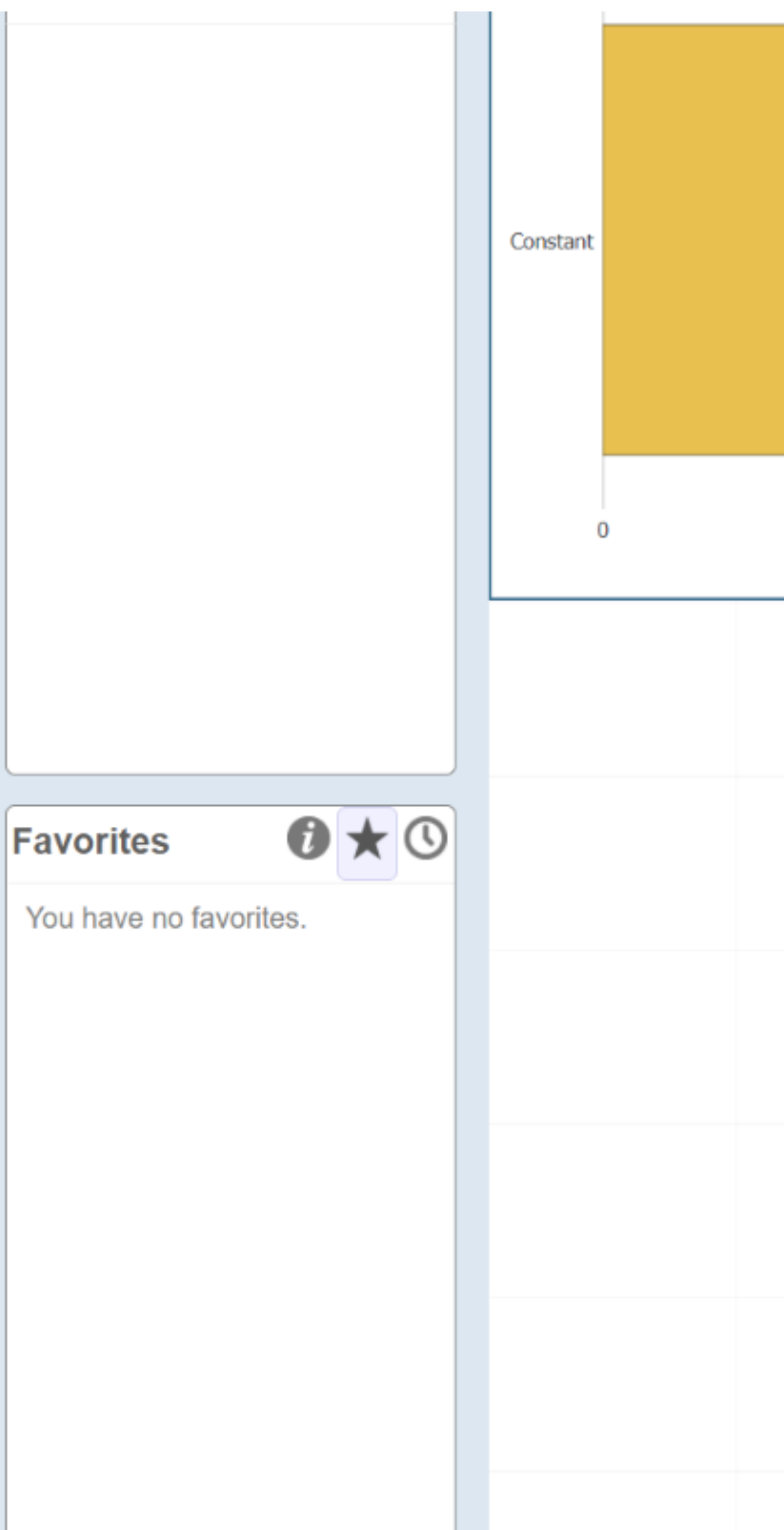
Label Length - 20 +

Axis Title >

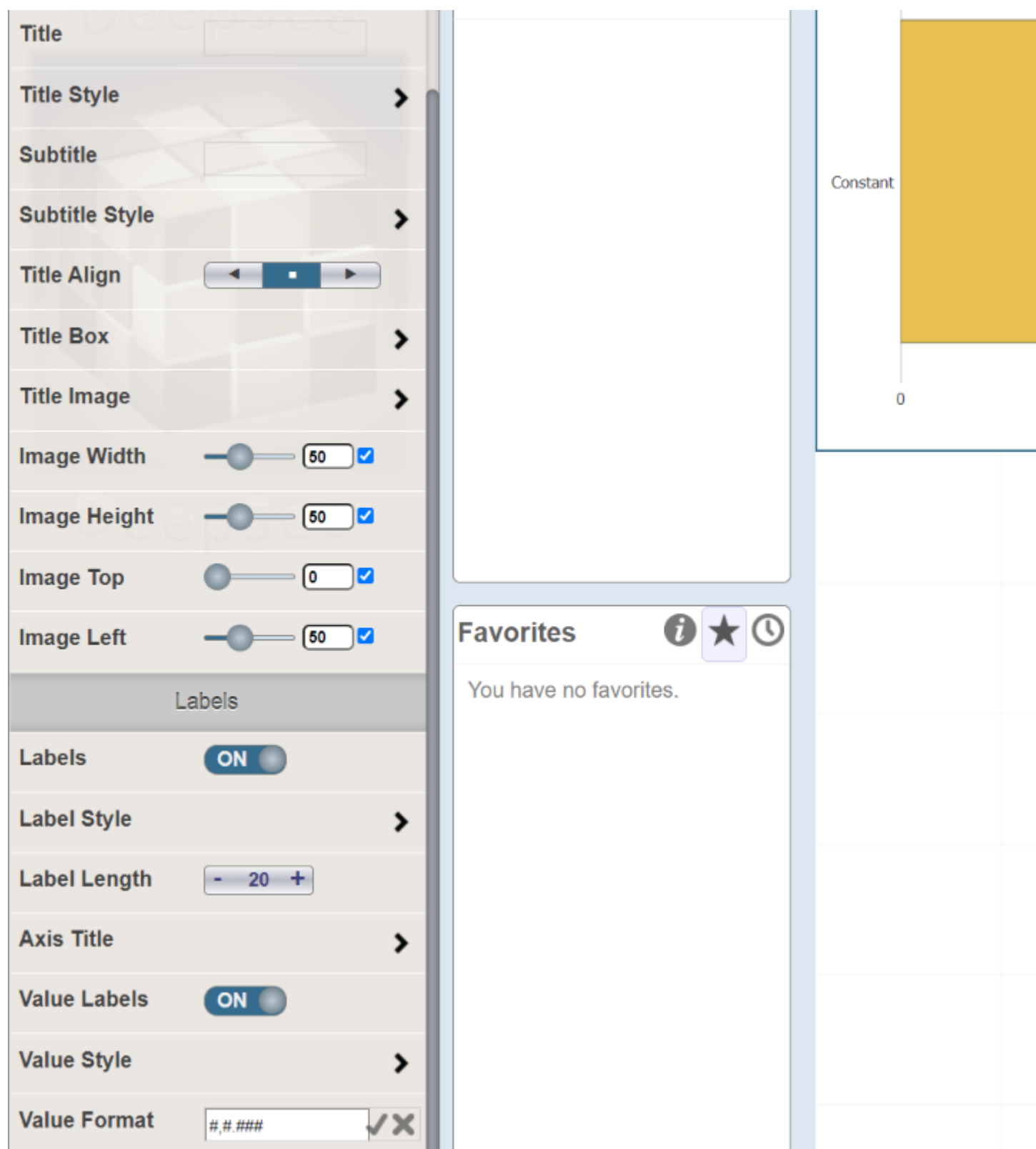
Value Labels ☒ ON

Value Style >

Value Format #, #, ### ✓✕



同じ【値の書式】文字列を持つこの同じウィジェットで、インスタンスのロケールを関連するいずれかのヨーロッパ・ロケールに設定すると、以下の図に示すように、ヨーロッパ・スタイルの区切り文字のグラフが表示されます。

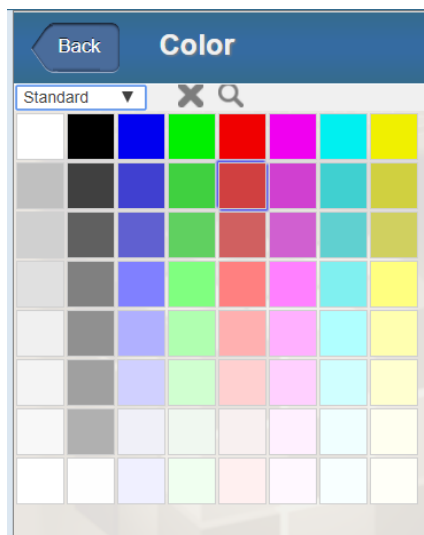


この自動ローカリゼーションを活用するには、“InterSystems IRIS システム管理ガイド”の“ロケール定義”で説明されている、ロケールの選択手順に従う必要があります。

3.5 テーブルのテキスト・スタイルの指定

テーブルとグラフの凡例では、テキストの表示を制御するオプションを指定できます。このオプションは以下のとおりです。

- ・ **[色]** – テキストの色を指定します。以下にユーザ・インタフェースの例を示します。



色を指定するには、必要に応じてドロップダウン・リストからカラー・パレットの名前を選択します（例えば、リスト・オプション **[標準]** は前述の例で示したカラー・パレットに対応します）。次に、グリッド内の色をクリックして、その色を選択します。

または、虫眼鏡のアイコンをクリックします。これによって、全範囲の色を対象としたセレクトが表示されます。ここで色をクリックするか、スライダを使用して、選択する色の赤成分、緑成分、および青成分を指定します。

色の選択を解除するには、[X] をクリックします。

Tip ヒン 許可されたユーザはカスタム・カラー・パレットを追加できます。“InterSystems Business Intelligence の実装”ト の [“カスタム・カラー・パレットの作成”](#) を参照してください。

- ・ **[バックグラウンド]** – 背景の色を指定します。前の項目の説明と同様の方法で指定できます。
- ・ **[不透明度]** – このオプションを使用して、背景の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
- ・ **[フォント]** – テキストの書体を指定します。書体を選択します。書体の選択を解除するには、リストの先頭にある **[デフォルト]** をクリックします。
- ・ **[フォント・サイズ]** – スライダを使用してテキストのサイズを指定するか、入力ボックスにサイズ値を入力します。



サイズの選択を解除するには、チェック・ボックスのチェックをはずします。

- ・ **[テキスト・スタイル]** – テキストのスタイルを指定します。

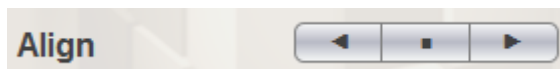


1 つ以上のオプションを選択します。最初の 3 つのオプションでは、テキストがそれぞれ太字、イタリック、下線付きになります。[Cc] オプションでは、以下の例のようにテキストの先頭文字が大文字になります。

[S] オプションを使用すると、以下のようにテキストに影が追加されます。

Revenue

- ・ [配置] – テキストの配置を指定します。



これらのオプションにより、それぞれ、テキストが左揃え、中央揃え、右揃えに配置されます。

3.6 グラフのテキスト・スタイルの指定

グラフやその他のグラフィカル要素には、テキストの表示を制御するオプションを指定できます。このオプションは以下のとおりです。

- ・ [色] – テキストの色を指定します。このオプションと色についてのその他のオプションの指定に関する詳細は、[前のセクション](#)の [色] オプションを参照してください。
- ・ [ストローク] – テキストに含まれる文字の輪郭線の色を指定します。以下の図は、[色] を青に設定し、[ストローク] を黒に設定した場合の例を示しています。

My Chart Title

既定では、輪郭線の色とテキスト自体の色は同じです。

- ・ [ストロークの幅] – このオプションを使用して、輪郭線の幅を指定します。以下の図は、中太の輪郭線の例を示しています。

My Chart Title

設定を解除するには、チェック・ボックスのチェックをはずします。

- ・ [不透明度] – このオプションを使用して、テキストの不透明度を指定します (既定では 100%)。
- ・ [フォント]、[テキスト・サイズ]、[テキスト・スタイル] – [前のセクション](#)の [フォント]、[フォント・サイズ]、[テキスト・スタイル] を参照してください。

3.7 線のスタイルの指定

数多くの場所で、線やその他のグラフィカル要素の表示を制御するオプションを指定できます。このオプションは以下のとおりです。

- ・ [塗りつぶし] – グラフィカル要素の内側で使用する色を指定します。このオプションは、ライン・マーカや速度計の各部などに適用されます。このオプションと色についてのその他のオプションの指定に関する詳細は、このページで前述した [“テーブルのテキスト・スタイルの指定”](#) の [色] オプションを参照してください。

- ・ **[不透明度]** – このオプションを使用して、グラフィカル要素の不透明度を指定します（既定では 100%）。
- ・ **[線]** – グラフィカル要素の輪郭に使用する線の色を指定します。
- ・ **[線の幅]** – このオプションを使用して、線の幅を指定します。
- ・ **[線のスタイル]** – 線のスタイルを指定します。**[実線]**、**[破線]**、または **[点線]** をクリックします。

4

ピボット・テーブル・ウィジェットの追加


ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)にピボット・テーブル・ウィジェットを追加する方法を説明します。これらのウィジェットでは、ピボット・テーブルだけでなく、あらゆる種類の[データ・ソース](#)を表示できます。

ピボット・テーブルの作成方法の詳細は、“[アナライザの使用法](#)”を参照してください。

グラフ・ウィジェットは、ピボット・テーブル・ウィジェット的一种である点に注意してください。グラフに関する具体的な情報は、“[グラフ・ウィジェットの追加](#)”を参照してください。

4.1 ピボット・テーブル・ウィジェットの追加

ピボット・テーブル・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. [ピボットとグラフ] をクリックします。
3. [テーブル] をクリックします。
4. [データソース] で、以下のいずれかを実行します。
 - ・ 検索ボタン  をクリックし、[データ・ソース](#)を選択します。
 - ・ [リンク先] ドロップダウン・リストを使用して、同じダッシュボードの別のウィジェットを選択します。

ピボット・テーブルだけでなく、あらゆる種類のデータ・ソースを使用できます。

注釈 ピボット・テーブルをデータ・ソースとして使用すると、“[アナライザの使用法](#)”で説明したように、ピボット・テーブルがアナライザで作成されます。アナライザには、ピボット・テーブルの状態（フィルタ処理、ドリル・ダウン、リストの表示、およびグラフ形式での表示）を変更するためのオプションがあります。ピボット・テーブルを保存すると、その状態がピボット・テーブル定義の一部として保存されます。この後で（アナライザまたはダッシュボードのウィジェットを使用して）ピボット・テーブルにアクセスすると、ピボット・テーブルは、前回保存したときの状態で表示されます。

5. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)”の説明に従って基本設定を指定します。
6. [OK] をクリックします。
7. 必要に応じて、このページの残りの部分での説明に従ってウィジェットをさらに詳細に構成します。
8. 必要に応じて、“[ウィジェット・コントロールの追加](#)”の説明に従って、コントロールを追加します。

4.2 ピボット・テーブル・ウィジェットのウィジェット設定の指定

ウィジェットで利用できるオプションをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択してから、[\[ウィジェットの設定\]](#)をクリックします。このメニューには、主にユーザ向けのオプションが含まれています。

ピボット・テーブル・ウィジェット(すべてのグラフ・ウィジェットを含む)の場合は、[\[ウィジェット設定\]](#)メニューには以下のオプションがあります。

- ・ [\[印刷\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーに印刷ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、ウィジェットを PDF ファイルに出力できます。詳細および要件は、“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)”セクションを参照してください。
- ・ [\[グラフ切り替え\]](#) – このオプションを選択すると、グラフまたは同等のピボット・テーブルのどちらを表示するかを指定できるボタンがツールバーに追加されます。[\[グラフ\]](#)を選択すると、初期状態がグラフとして設定されます。[\[テーブル\]](#)を選択すると、初期状態がピボット・テーブルとして設定されます。[\[なし\]](#)を選択すると、切り替えボタンは無効になります。
- ・ [\[ドリルダウン\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーにドリルダウン・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、ドリル・ダウンが可能になります。

このオプションは、データ・ソースがピボット・テーブルの場合のみサポートされます。このオプションは、ピボット・テーブルの行に階層の上位レベルのメンバが表示されている場合にのみ役に立ちます。
- ・ [\[アナライザ\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーにミニ・アナライザ・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、データ・ソースをミニ・アナライザで開くことができます。

このオプションは、データ・ソースがピボット・テーブルの場合のみサポートされます。
- ・ [\[Excel にエクスポート\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーにエクスポート・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、このウィジェットのデータを Microsoft Excel にエクスポートできます。
- ・ [\[行選択\]](#) – このオプションを使用して、ウィジェットにチェック・ボックスを表示します。ユーザはそれらのチェック・ボックスを使用して、アクションの適用先にする行を選択できます。[\[単一\]](#)を選択すると、ユーザは単一の行のみを選択できます。[\[複数\]](#)を選択すると、ユーザは複数の行を選択できます。

既定では、それらのチェック・ボックスは表示されず、ユーザはウィジェットで行を選択できません。(ユーザは常にセルとセルの範囲をウィジェットで選択できます)。

このオプションは、データ・ソースが KPI の場合のみサポートされます。
- ・ [\[ディメンジョンの表示\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーにディメンジョン・リスト・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、追加のドリル・オプションが提供されます。ユーザは、ピボット・テーブルでこのリストから行のグレーの部分に項目をドラッグ・アンド・ドロップできます。これを行うと、システムは要求されたとおりにドリル・ダウンします。

このオプションは、データ・ソースがピボット・テーブルで、ウィジェットがテーブル形式の場合にのみサポートされます。

注釈 このオプションを有効または無効にすると、ダッシュボードが自動的に保存されます。
- ・ [\[ディメンジョン・ソース\]](#) – 高度な使用方法として、このオプションにより、ディメンジョン・リストに表示するドリル・オプションの代替セットを指定できます。

- ・ **[最初に実行]** – 既定では、このオプションが選択されています。これにより、ユーザがダッシュボードを表示すると同時に、このウィジェットの基礎となるクエリが実行されます。クエリを後で実行する場合は、このオプションのチェックを外します。**[最初に実行]** のチェックを外す場合、このウィジェットに**更新コントロール**を追加するようにしてください。**“ウィジェット・コントロールの追加”** を参照してください。
- ・ **[ピボットのプレビュー]** – このオプションが有効な場合、**CROSSJOIN** を使用してウィジェットが行ったクエリの結果が、**HEAD** 関数を使用して切り捨てられます。**[すべて表示]** ボタンを選択すると、完全な結果セットが表示されます。既定では、このオプションは無効になっています。ロードに時間がかかる場合、これを有効にできます。


注釈 これらのオプションのほとんどは、ツールバーにボタンを追加するものです。これらのオプションのいずれかを有効にする場合は、ツールバーが表示されていることを確認します (ツールバーの表示は**[設定]** の**[ツールバー]** オプションで制御します)。**“ウィジェットの再構成”** を参照してください。

4.3 列のカスタマイズ (KPI が表示されている場合)

既定では、ピボット・テーブル・ウィジェットで KPI を表示すると、そのデータ・ソースで定義された列がすべて表示されます。この列は、カスタマイズできます。詳細は、**“ウィジェット・プロパティの追加”** を参照してください。

4.4 ピボット・テーブル・ウィジェットでのリストの表示

ピボット・テーブル・ウィジェットで直接リストを表示する手順は以下のとおりです。

1. アナライザで以下の手順を実行します。
 - a. セルが 1 つのピボット・テーブルを作成します。必要に応じてリストでこのピボット・テーブルをフィルタ処理します。
“アナライザの使用法” を参照してください。
 - b. セルを選択し、リスト・ボタン  をクリックしてリストを表示します。
 - c. このピボット・テーブルを保存します。
2. 目的のダッシュボードで、このピボット・テーブルをデータ・ソースとして使用するピボット・テーブル・ウィジェットを追加します。
3. 必要に応じて、フィルタ・**コントロール**を追加します。これらを使用して、表示するレコードを絞り込むことができます。

4.5 ピボット・テーブルの外観のカスタマイズ

ピボット・テーブル・ウィジェットの外観のカスタマイズに使用できるオプションが豊富に用意されています。これらのオプションにアクセスするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、**“ウィジェットの再構成”** の説明に従ってウィジェットを選択して、**[テーブルの設定]** をクリックします。このメニューには以下の 2 つのサブメニューがあります。

- ・ **[サイズと外観]** – データ・セルのサイズとピボット・テーブルの形式を制御するためのオプションを提供します。詳細は、**最初のサブセクション** を参照してください。

- ・ **【色とスタイル】** – ピボット・テーブル内で色、書体、テキストのスタイル、テキストの配置を制御するためのオプションを提供します。詳細は、[2 番目のサブセクション](#)を参照してください。

注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、以降のサブセクションで説明するオプションを使用します。

4.5.1 サイズと外観のオプション

データ・セルのサイズとピボット・テーブルの形式を制御するには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**【テーブルの設定】**、**【サイズと外観】**の順にクリックします。このメニューには、以下のオプションがあります。

- ・ **【セルの幅】** – データ・セルの幅をピクセル単位で指定します。以下はその例です。

Diagnoses	Patient Count
None	841
asthma	68
CHD	36
diabetes	54
osteoporosis	25

この例では、**【セルの高さ】**も使用しています。

- ・ **【セルの高さ】** – データ・セルの高さをピクセル単位で指定します。前の例を参照してください。
- ・ **【空の表示】** – これらのオプションを使用して、空白の行や列を表示するかどうかを制御します。例えば、行に対して**【空の表示】**オプションを有効にすると、以下のように空白の行も表示されます。

Age Group		Patient Count
asthma	0 to 29	29
	30 to 59	32
	60+	7
CHD	0 to 29	
	30 to 59	8
	60+	28
diabetes	0 to 29	2
	30 to 59	27
	60+	25
osteoporosis	0 to 29	
	30 to 59	
	60+	25

- ・ **[ラベルの結合]** – このオプションを使用して、行や列のラベルを結合するかどうかを制御します。テーブルを入れ子形式で表示すると、ラベルは既定で結合されます。以下はその例です。

Age Group	Gender	Patient Count
0 to 29	Female	186
	Male	219
30 to 59	Female	218
	Male	215
60+	Female	94
	Male	68

例えば、行に対して **[ラベルの結合]** オプションを有効にすると、以下のように関連ラベルが繰り返されます。

Age Group	Gender	Patient Count
0 to 29	Female	186
0 to 29	Male	219
30 to 59	Female	218
30 to 59	Male	215
60+	Female	94
60+	Male	68

- ・ **[行の合計]** – このオプションを使用して、ピボット・テーブルの下部に集計行を追加するかどうかを制御します。以下はその例です。

Age Group	Female	Male	Total
	Patient Count	Patient Count	
0 to 29	186	219	405
30 to 59	218	215	433
60+	94	68	162
Total	498	502	1,000

この例では、**[列の合計]** も使用しています。

- ・ **[行の集計]** – 集計行の形式を指定します。例えば、**[合計]** や **[平均]** を選択します。
- ・ **[合計の対象][ページ]** または **[すべての行]** を選択します。このオプションで、集計行にピボット・テーブルの現在のページのみを使用するか、すべての行を使用するかを指定します。
- ・ **[列の合計]** – このオプションを使用して、ピボット・テーブルの右側に集計列を追加するかどうかを制御します。**[行の合計]** の例を参照してください。
- ・ **[行キャプション]** – このオプションを使用して、行ヘッダの上に表示するキャプションの表示と非表示を切り替えます。以下の例では、行キャプションは非表示になっています。

		Patient Count
0 to 29	Female	186
	Male	219
30 to 59	Female	218
	Male	215
60+	Female	94
	Male	68

4.5.2 色とスタイルのオプション

色や書体をはじめ、ピボット・テーブルのその他の外観を制御するには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[テーブルの設定]**、**[色とスタイル]**の順にクリックします。このメニューには、以下のオプションがあります。

- ・ **[セルのスタイル]** – このサブメニューを使用して、ピボット・テーブルのすべてのデータ・セルで使用する色、書体、テキストのスタイル、およびテキストの配置を変更します。以下はその例です。

Region	Revenue
Asia	\$3,928.35
Europe	\$2,895.98
N. America	\$3,331.64
S. America	\$1,699.09

このサブメニューとその他のサブメニューの詳細は、“[テーブルのテキスト・スタイルの指定](#)”を参照してください。

- ・ **[行のスタイル]** – このサブメニューを使用して、ピボット・テーブルの行ヘッダで使用する色、書体、テキストのスタイル、およびテキストの配置を変更します。以下はその例です。

Region	Revenue
Asia	\$3,928.35
Europe	\$2,895.98
N. America	\$3,331.64
S. America	\$1,699.09

- ・ **[列のスタイル]** – このサブメニューを使用して、ピボット・テーブルの列ヘッダで使用する色、書体、テキストのスタイル、およびテキストの配置を変更します。以下はその例です。

Region	Revenue
Asia	\$3,928.35
Europe	\$2,895.98
N. America	\$3,331.64
S. America	\$1,699.09

- ・ **[ストライプ]**－このオプションを選択すると、ピボット・テーブルが縞模様でフォーマットされます。**[ストライプ]**を有効にすると、テーブルは以下のように、行が交互に別々の色でフォーマットされます。

Region	Revenue
Asia	\$3,928.35
Europe	\$2,895.98
N. America	\$3,331.64
S. America	\$1,699.09

- ・ **[ストライプのスタイル]**－縞模様を有効にしている場合に、このサブメニューを使用して、偶数行で使用する色、書体、テキストのスタイル、およびテキストの配置を変更します。以下はその例です。

Region	Revenue
Asia	\$3,928.35
Europe	\$2,895.98
N. America	\$3,331.64
S. America	\$1,699.09

- ・ **[バックグラウンド]**－ピボット・テーブルの背景色を選択します。以下はその例です。

✕ + Patients by Age & Gender		
Age Bucket	Female	Male
0 to 9	71	78
10 to 19	60	75
20 to 29	60	56
30 to 39	78	88
40 to 49	76	63
50 to 59	57	49
60 to 69	50	36
70 to 79	39	23
80+	27	14

- ・ **[不透明度]**－背景の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。

4.6 ピボット・テーブルの再定義の削除


ミニ・アナライザを使用して、指定のダッシュボード・ウィジェットで使用するピボット・テーブルを再定義できます。[“アナライザの使用法”](#)を参照してください。

この方法で指定した再定義を削除するには、以下の手順を実行します。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [タイプとデータ・ソース] をクリックします。
3. [データ・ソースのリセット] をクリックします。

[データ・ソースのリセット] オプションがグレー表示されている場合は、このウィジェットでは、アナライザで最初に定義されたとおりのピボット・テーブルが使用されています。

4. [OK] をクリックします。

または、ミニ・アナライザ・ボタン  をクリックし、[リセット] をクリックしてから [OK] をクリックします。

5


グラフ・ウィジェットの追加

ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)にグラフを追加する方法を説明します。

“[ピボット・テーブル・ウィジェットのウィジェット設定の指定](#)”、および“[グラフ・ウィジェットの外觀のカスタマイズ](#)”も参照してください。

5.1 グラフ・ウィジェットの追加

グラフ・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. [ピボットとグラフ] をクリックします。
3. グラフ・タイプをクリックします。
4. [データソース] で、以下のいずれかを実行します。
 - ・ 検索ボタン  をクリックし、[データ・ソース](#)を選択します。
 - ・ [リンク先] ドロップダウン・リストを使用して、同じダッシュボードの別のウィジェットを選択します。

注釈 ピボット・テーブルをデータ・ソースとして使用すると、“[アナライザの使用法](#)”で説明したように、ピボット・テーブルがアナライザで作成されます。アナライザには、ピボット・テーブルの状態（フィルタ処理、ドリル・ダウン、リストの表示、およびグラフ形式での表示）を変更するためのオプションがあります。ピボット・テーブルを保存すると、その状態がピボット・テーブル定義の一部として保存されます。この後で（アナライザまたはダッシュボードのウィジェットを使用して）ピボット・テーブルにアクセスすると、ピボット・テーブルは、保存したときの状態で表示されます。

5. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)”の説明に従って基本設定を指定します。
6. [OK] をクリックします。
7. 必要に応じて、[次のセクション](#)の説明に従ってグラフ・タイプをカスタマイズします。
8. 必要に応じて、このページの残りの部分での説明に従ってウィジェットをさらに詳細に構成します。
9. 必要に応じて、“[ウィジェット・コントロールの追加](#)”の説明に従って、コントロールを追加します。

5.2 グラフ・タイプのカスタマイズ

異なるグラフ・タイプを使用するようにグラフ・ウィジェットを再構成できます。そのためには、以下の操作を実行します。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [\[グラフの設定\]](#)をクリックします。
3. [\[グラフ・タイプ\]](#)をクリックします。
4. タイプをクリックします。

これらの手順を使用して、グラフを表示するように[ピボット・ウィジェット](#)を再構成できます。

5.3 グラフの要件

通常、データ・ソースでメンバを行として使用し、メジャーを列として使用する場合に、グラフはより有益になります。

メモ：

- ・ 集計行または集計列があるピボット・テーブルを使用する場合、その行または列は無視されます。
- ・ 多くのグラフ・タイプがアナライザでも使用でき、ダッシュボードに追加する前にここでプレビューできます。
- ・ 折れ線グラフおよび時間グラフの場合を除いて、最初の 400 個のグラフ項目のみが表示されます。

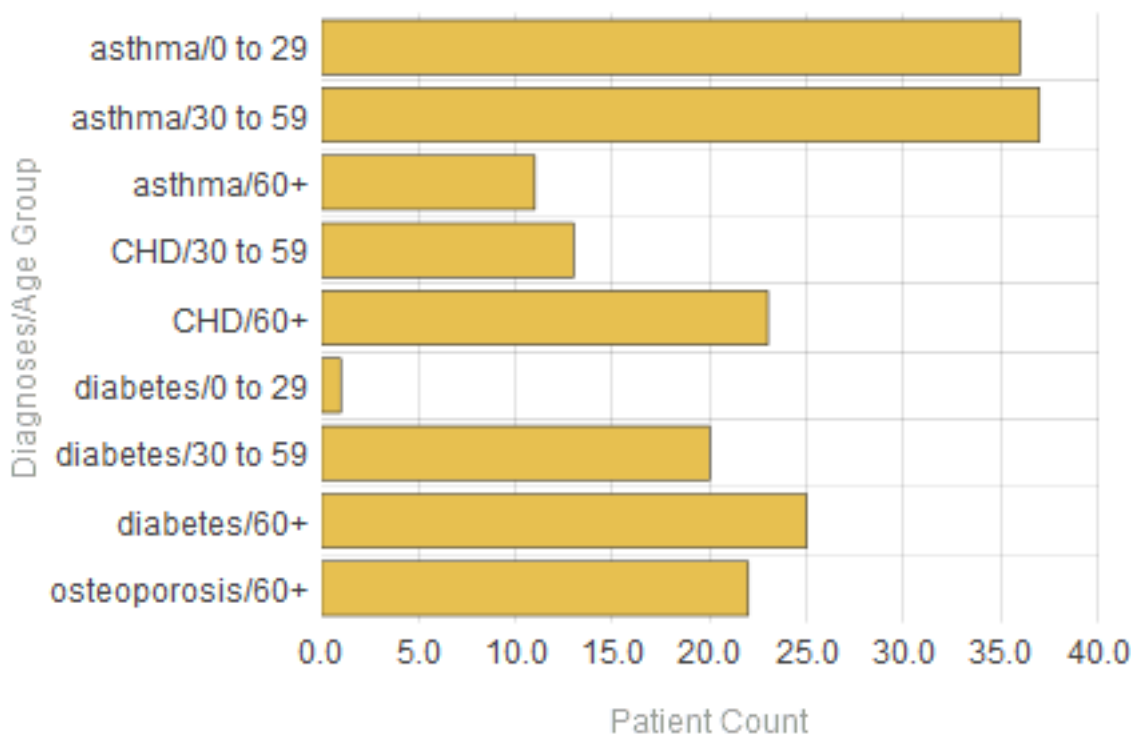
5.4 使用可能なグラフ・タイプ

以下のサブセクションでは、使用可能なグラフ・タイプの例を示します。

- ・ [棒グラフと列グラフ](#)
- ・ [折れ線グラフと面グラフ](#)
- ・ [コンボ・グラフ](#)
- ・ [高低グラフ](#)
- ・ [円グラフ](#)
- ・ [X/Y グラフ](#)
- ・ [バブル・グラフ](#)
- ・ [時間グラフ](#)
- ・ [ツリー・マップ・グラフ](#)
- ・ [ブルズアイ・グラフ](#)
- ・ [スワール・グラフ](#)

5.4.1 棒グラフと列グラフ

いくつかのスタイルの棒グラフと列グラフ（縦形式および横形式）が用意されています。データ・ソースの行ごとに1つの棒線のグループが作成されます。1つの棒線のグループでは、各棒線が異なるメジャーを示します。以下の例は、1つのメジャーを使用したグラフを示しています。



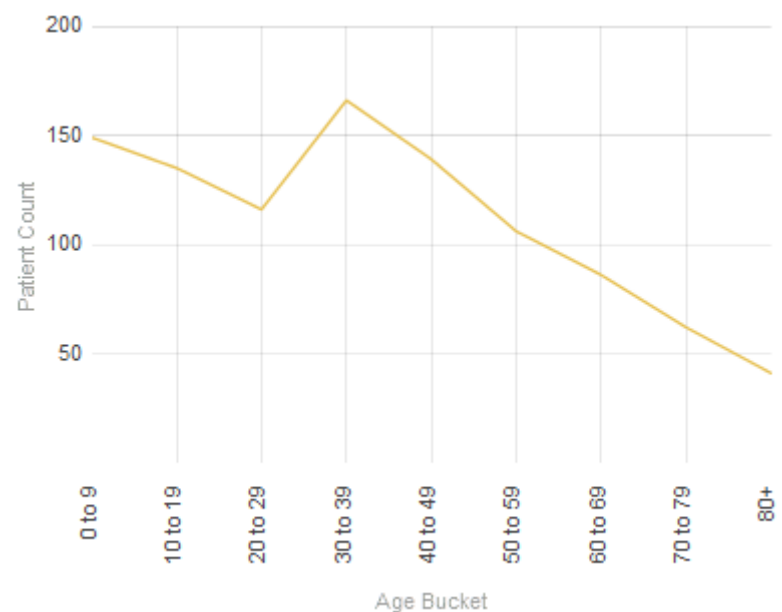
このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Diagnoses	Age Group	Patient Count
asthma	0 to 29	304
	30 to 59	278
	60+	178
CHD	0 to 29	4
	30 to 59	91
	60+	327
diabetes	0 to 29	27
	30 to 59	276
	60+	369
osteoporosis	60+	279

5.4.2 折れ線グラフと面グラフ

2つの折れ線グラフと1つの面グラフが用意されています。これらのグラフのそれぞれでは、データ・ソースの行ごとに1つのラベルが横軸に表示されます。また、データ・ソースの列ごとに1つの線が作成されます（面グラフの場合は、線の下側の領域が塗りつぶされます）。

以下に例を示します。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Age Bucket	Patient Count
0 to 9	149
10 to 19	135
20 to 29	116
30 to 39	166
40 to 49	139
50 to 59	106
60 to 69	86
70 to 79	62
80+	41

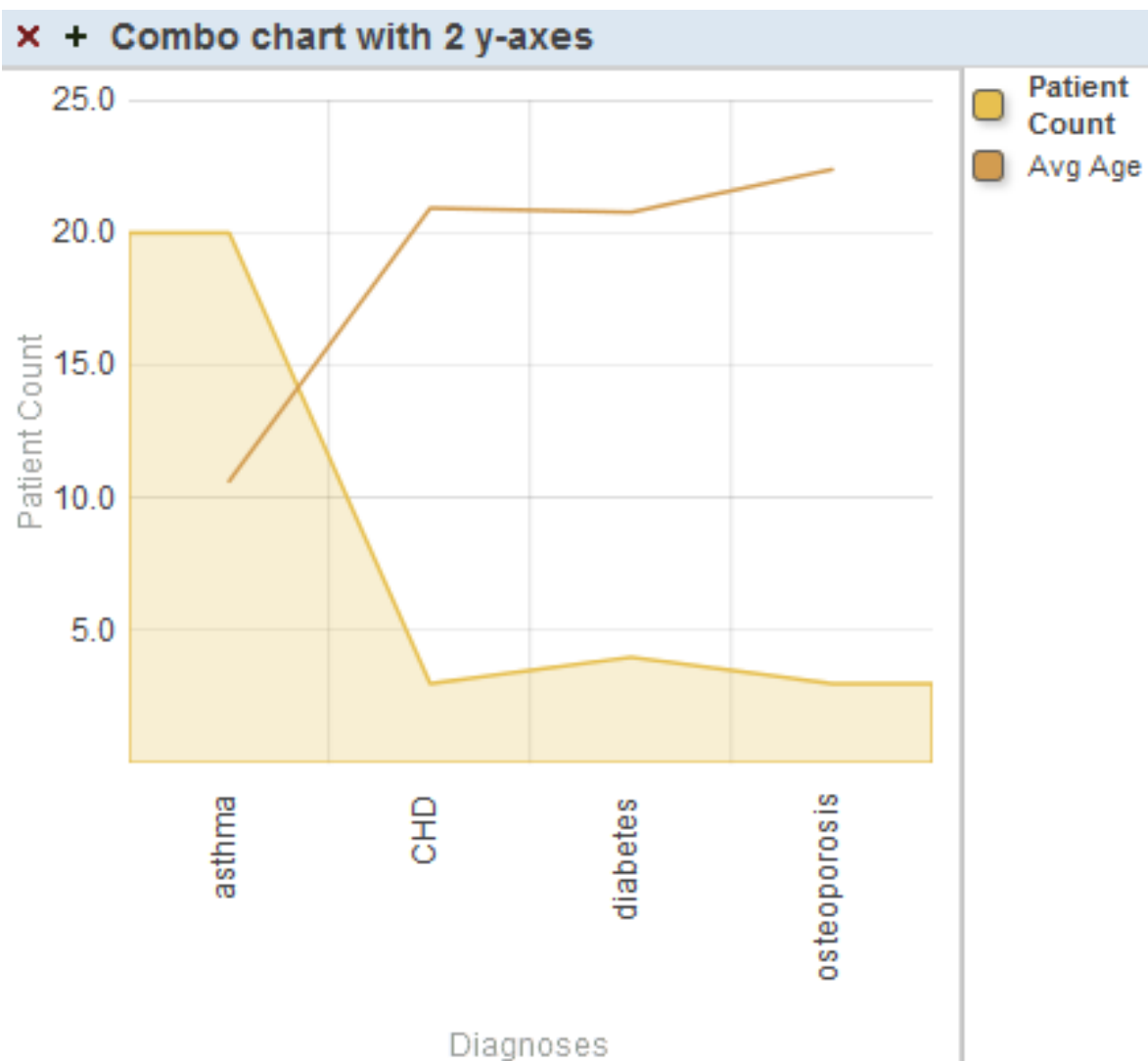
5.4.3 コンボ・グラフ

注釈 コンボ・グラフは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

InterSystems IRIS Business Intelligence コンボ・グラフは前述のグラフと似ていますが、以下の 2 つの固有機能があります。

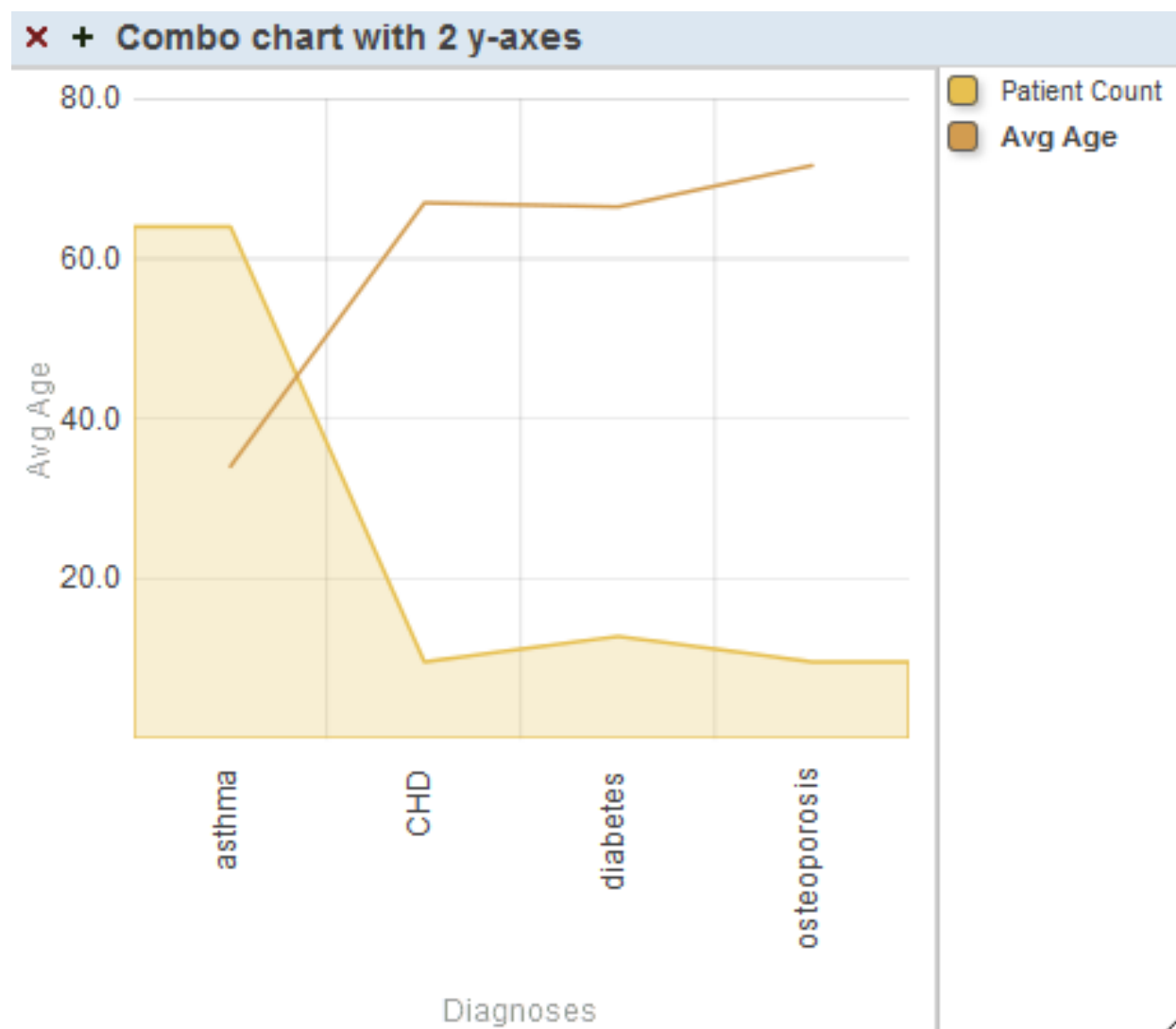
- ・ 複数の y 軸を含めることができます。
- ・ データ・ソースの列ごとに異なる表示タイプを使用できます。システムにより、自動的に折れ線グラフが最前面に、棒グラフが折れ線グラフの背面に、面グラフが棒グラフの背面に表示されます。

以下のグラフは、これら両方の機能の用例です。

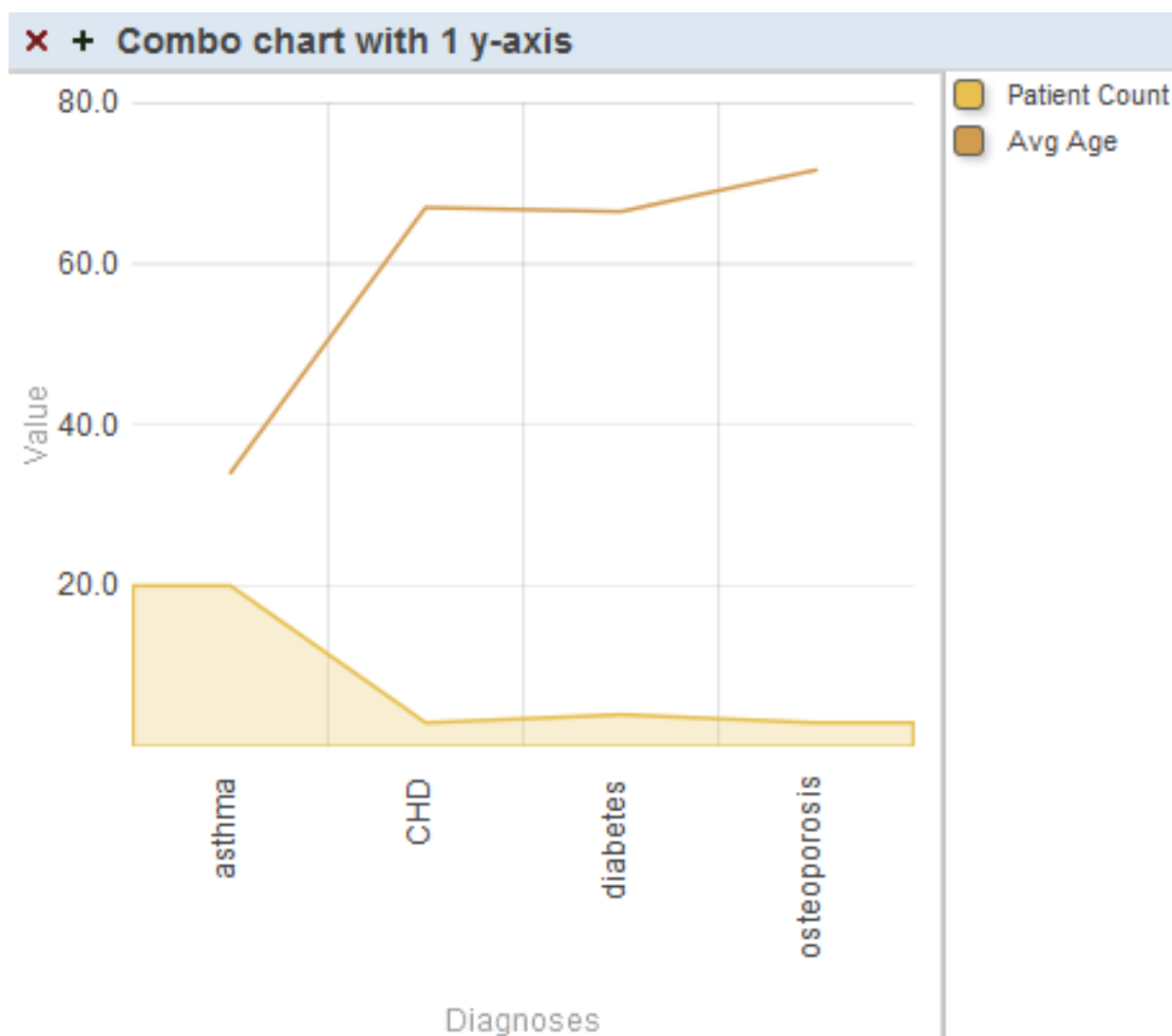


y 軸には、Patient Count というラベルが付いています。Patient Count メジャーを示す塗りつぶし領域は、この軸の値に合わせて拡大縮小されます。これに対して、Avg Enc Count を示す線は、y 軸との相関関係がありません。この線は、全体がグラフ内に収まるように拡大縮小されるだけです。

コンボ・グラフを使用するには、ユーザがキーに含まれる系列の名前の横にあるボックスをクリックします。Avg Age の横にあるボックスをクリックすると、y 軸のラベルが以下のように変化します。

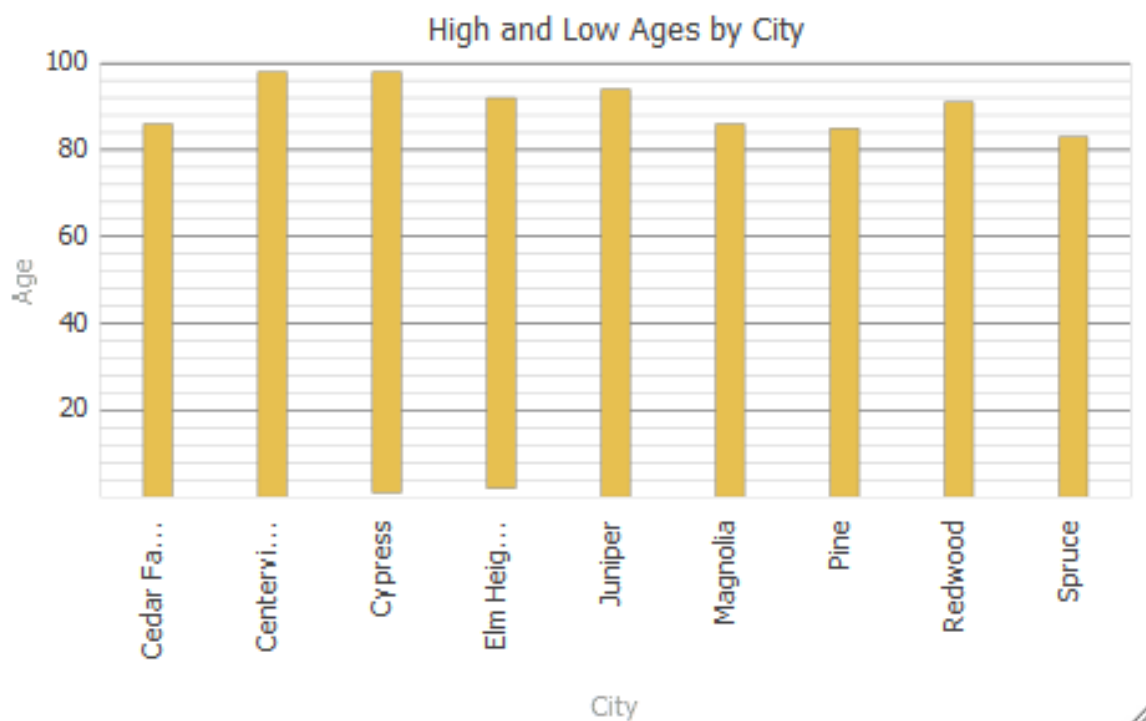


このグラフは、最初の系列に対しては [y 軸] が 1、2 番目の系列に対しては [y 軸] が 2 となるように構成されています。一方、[y 軸] が両方の系列に対して同じ場合は、以下のように表示されます (この場合、すべての項目が同じスケールで描画されます)。



5.4.4 高低グラフ

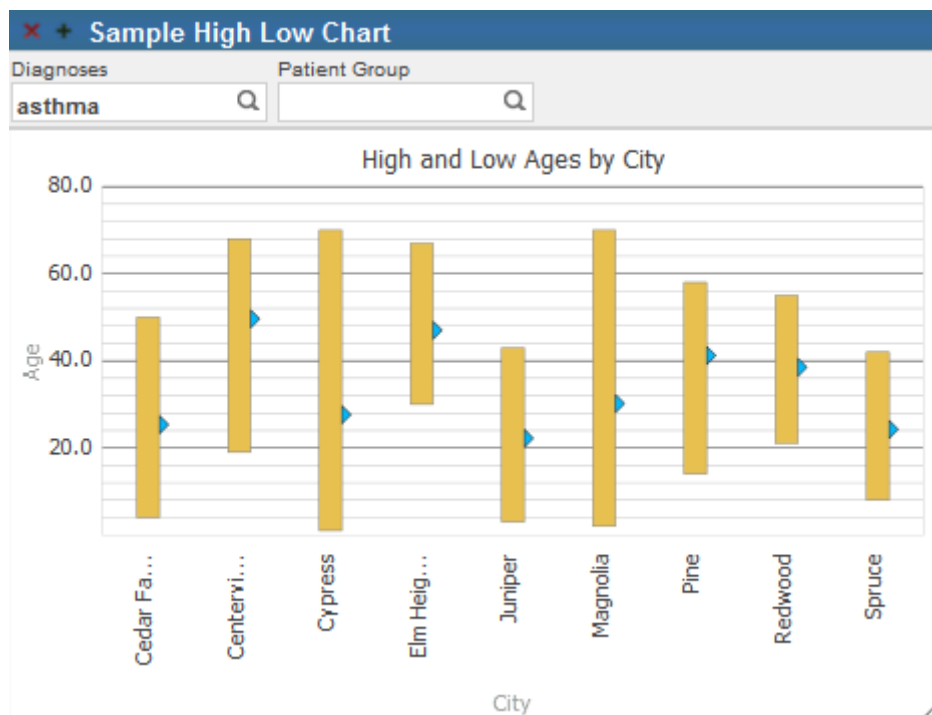
高低グラフは棒グラフと似ていますが、各棒線を使用して最小値と最大値が表示されます。このグラフには、データ・ソースの列が 2 つ以上必要です。データ・ソースの行ごとに 1 つの棒線が表示されます。最大値と最小値はデータ・ソースの最初の 2 つの列で指定されます。以下はその例です。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

City	Minimum Age	Maximum Age
Cedar Falls	4	50
Centerville	19	68
Cypress	1	70
Elm Heights	30	67
Juniper	3	43
Magnolia	2	70
Pine	14	58
Redwood	21	55
Spruce	8	42

3 番目の列がある場合、グラフはその値に対して三角形を表示します。以下はその例です。

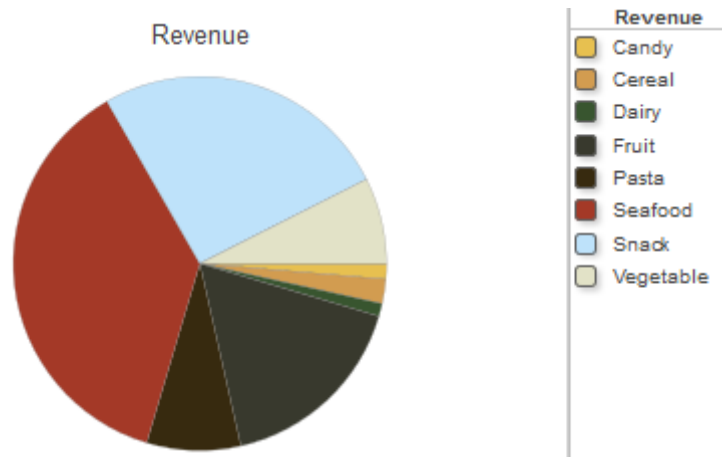


この場合、3 番目の列は平均値を表示しています。

その他の列は無視されます。

5.4.5 円グラフ

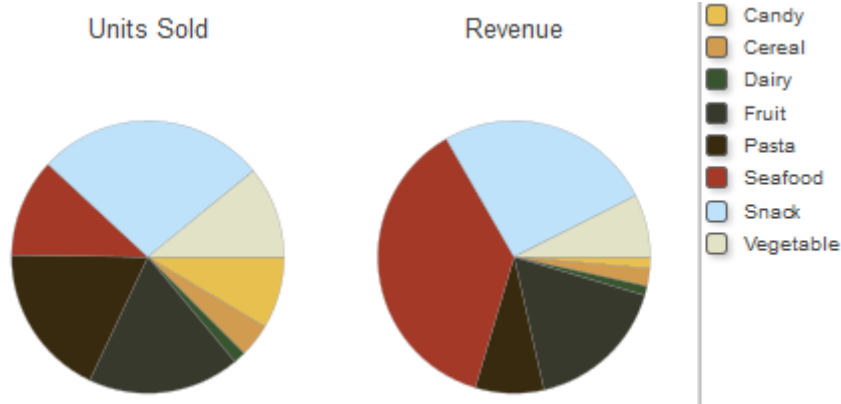
円グラフには、データ・ソースのセルごとに 1 つの扇形が表示されます。各扇形の面積は、セル内の値に比例します。データ・ソースに 1 つの列のみが示されている場合、円グラフは以下ようになります。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Product Category	Revenue
Candy	\$166.99
Cereal	\$263.12
Dairy	\$138.06
Fruit	\$2,108.77
Pasta	\$1,013.68
Seafood	\$4,626.85
Snack	\$3,223.85
Vegetable	\$925.96

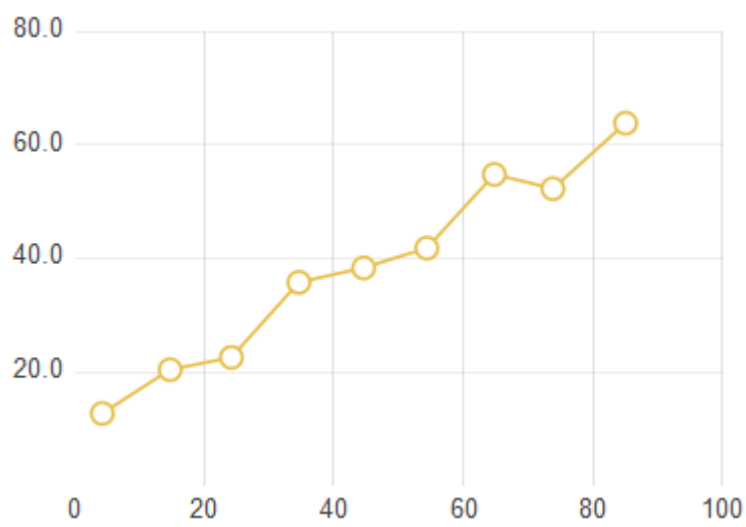
[複数の表示] オプションを有効にすると、データ・ソースの列ごとに1つのグラフが表示されます。グラフには、その列のセルごとに1つの扇形が表示されます。以下はその例です。



5.4.6 X/Y グラフ

X/Y グラフでは、1つの値が x 軸、もう1つの値が y 軸にプロットされます。データ・ソースとして、少なくとも2つの列が存在する必要があります。このグラフでは、データ・ソースの行ごとに1つのデータ・ポイントが表示され、それらのデータ・ポイントが線で結ばれます。

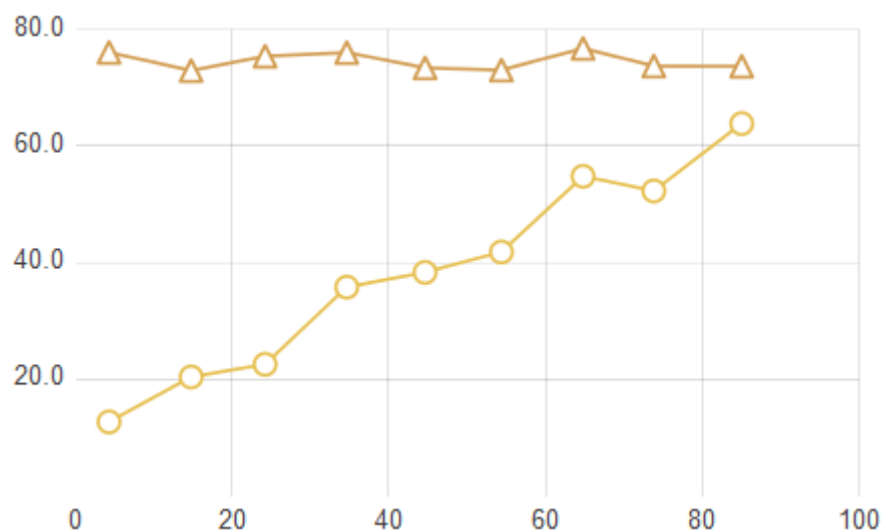
最初の列によってデータ・ポイントの水平方向の位置が決まり、2番目の列によって垂直方向の位置が決まります。以下に例を示します。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Age Bucket	Avg Age	Avg Enc Count
0 to 9	4.32	12.73
10 to 19	14.79	20.44
20 to 29	24.23	22.60
30 to 39	34.65	35.83
40 to 49	44.64	38.36
50 to 59	54.38	41.85
60 to 69	64.79	54.83
70 to 79	73.82	52.32
80+	85.03	63.86

基礎となるピボット・テーブルに 3 番目以降の列があると、それらの列を使用して、線で結ばれた別のデータ・ポイントのセットがグラフ上に作成されます。つまり、追加の列ごとに、グラフには水平方向に同じ位置でデータ・ポイントのセットが 1 つ追加されます。以下はその例です。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

	Avg Age	Avg Enc Count	Avg Test Score
Age Bucket			
0 to 9	4.32	12.73	76.07
10 to 19	14.79	20.44	72.95
20 to 29	24.23	22.60	75.41
30 to 39	34.65	35.83	76.04
40 to 49	44.64	38.36	73.41
50 to 59	54.38	41.85	73.04
60 to 69	64.79	54.83	76.75
70 to 79	73.82	52.32	73.73
80+	85.03	63.86	73.69

5.4.7 バブル・グラフ

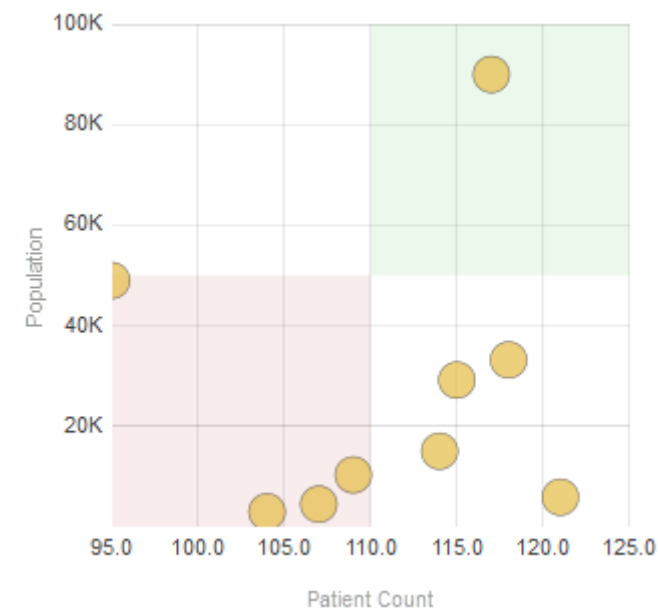
注釈 バブル・グラフは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

バブル・グラフは X/Y グラフと似ています。1 つの値が x 軸、もう 1 つの値が y 軸にプロットされます。データ・ソースとして、少なくとも 2 つの列が存在する必要があります。グラフには、データ・ソースの行ごとに 1 つの楕円形のバブルが表示されます。メジャーは以下のように使用されます。

- ・ 最初の列によって、バブルの水平方向の位置が決まります。
- ・ 2 番目の列によって、垂直方向の位置が決まります。
- ・ 3 番目の列があると、それによってバブルの半径が決まります。
- ・ 4 番目の列があると、それによって、バブルに追加するカラー表示を制御できます。4 番目のメジャーの値が同じデータ行は、すべて同じ色で表示されます。
- ・ 5 番目の列があると、それによってバブルの不透明度が決まります。

その他の列は無視されます。

以下の例は、2 つの列を使用したバブル・グラフを示しています。



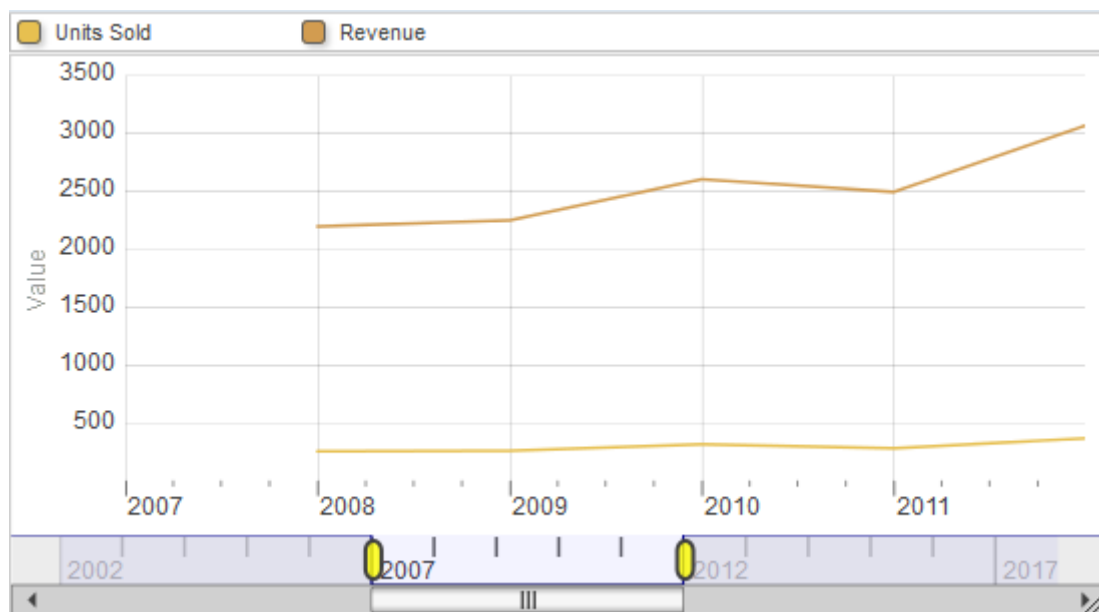
このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

City	Patient Count	Population
Cedar Falls	117	90,000
Centerville	95	49,000
Cypress	104	3,000
Elm Heights	118	33,194
Juniper	109	10,333
Magnolia	107	4,503
Pine	114	15,060
Redwood	115	29,192
Spruce	121	5,900

5.4.8 時間グラフ

注釈 時間グラフは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

時間グラフは、値の時間的推移を示す場合に役立ちます。この種類のグラフの場合、データ・ソースに行の時間メンバ（年など）が存在する必要があります。以下に例を示します。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

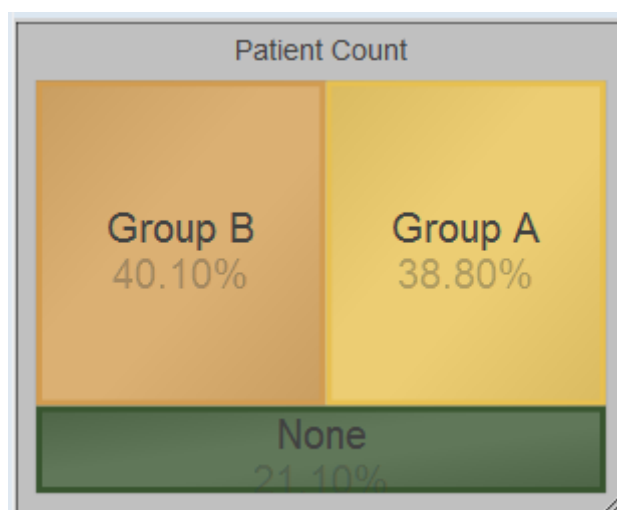
Year Sold	Units Sold	Revenue
2007	228	\$1,534.03
2008	258	\$2,200.88
2009	263	\$2,253.58
2010	319	\$2,608.65
2011	284	\$2,498.32
2012	370	\$3,073.54

時間グラフは、時間関数 (DayMonthYear、MonthYear、WeekYear、および Year) に基づくレベルに対してのみサポートされています。また、期間が 10 年を超えるような場合、時間グラフの使用はお勧めできません。

5.4.9 ツリー・マップ

注釈 ツリー・マップは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

ツリー・マップは、それぞれがデータ・ソース内の 1 つのセルに対応する複数の小さな四角形で構成する 1 つの四角形です。各四角形の面積は、セル内の値に比例します。データ・ソースに 1 つのメジャーのみが表示されている場合、ツリー・マップは以下のようになります。



このツリー・マップでは、以下のピボット・テーブルを使用しています。

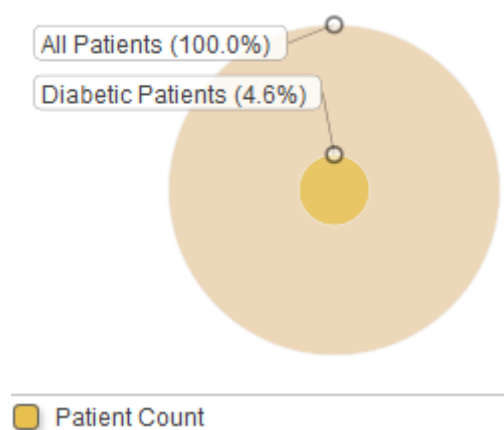
Patient Group	Patient Count
Group A	388
Group B	401
None	211

データ・ソースに複数の列が存在する場合は、必ず [複数の表示] を有効にします。この場合、列ごとに 1 つの再分割された四角形が表示されます。

5.4.10 ブルズアイ・グラフ

注釈 ブルズアイ・グラフは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

ブルズアイ・グラフは、より大きな集合を基準とした、集合の相対サイズを示す場合に役立ちます。以下に例を示します。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

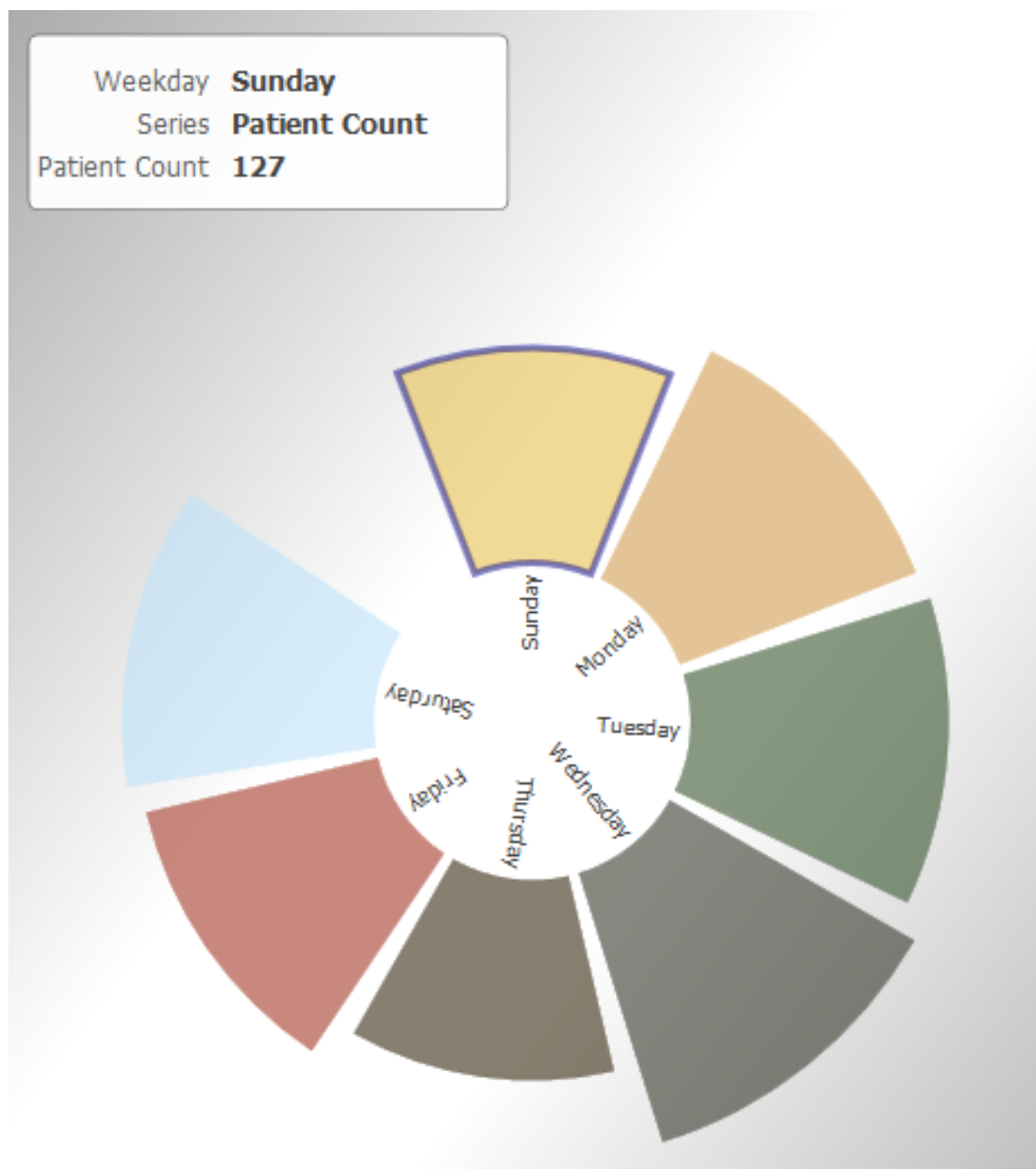
	Patient Count
Diabetic Patients	46
All Patients	1,000

データ・ソースに複数の列が存在する場合は、必ず**[複数の表示]**を有効にします。この場合、データ・ソースの列ごとに 1 つの再分割された円が表示されます。

5.4.11 スワール・グラフ

注釈 スワール・グラフは、ダッシュボードでのみ使用できます。アナライザでは使用できません。

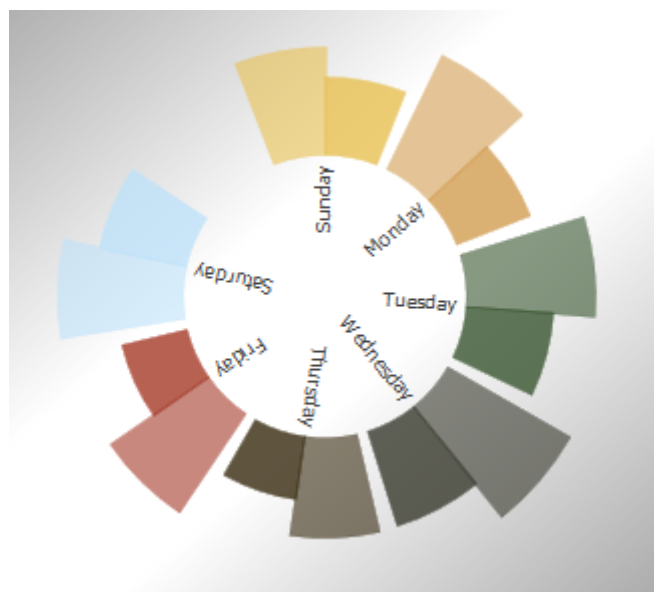
スワール・グラフは円グラフに似ています。これは、基礎となるピボット・テーブルの各行に対して 1 つの扇形（または扇形のグループ）を表示します。以下に例を示します。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Weekday	Patient Count
Sunday	127
Monday	149
Tuesday	152
Wednesday	166
Thursday	118
Friday	140
Saturday	148

基礎となるピボット・テーブルに複数の列がある場合、スワール・グラフには、任意の行に対して複数の扇形が含まれます。以下はその例です。



このグラフは、以下のピボット・テーブルに基づいています。

Weekday	Patient Count	Allergy Count
Sunday	127	92
Monday	149	93
Tuesday	152	103
Wednesday	166	117
Thursday	118	75
Friday	140	79
Saturday	148	105

5.5 プロダクション・ビジネス・メトリックの表示

このセクションでは、プロダクション・ビジネス・メトリックをグラフで表示する際に適切な方法について説明します。ここでは、一般的に以下の 4 つの状況が考えられます。

- メトリックにより単一のインスタンスのみ (既定) が定義され、どのプロパティにも AUTOHISTORY は定義されません。この場合、メトリックをピボット・テーブルとして表示すると、以下のように 1 行で表示されます。

✕ + Current Workflow Tasks, All Departments			
	Assigned	Unassigned	
1	18	18	

この場合、任意の種類のグラフが使用可能です。

- メトリックにより複数のインスタンスが定義され、どのプロパティにも AUTOHISTORY は定義されません。この場合、メトリックをピボット・テーブルとして表示すると、以下のように表示されます。

✕ + Current Workflow Task Count, by Department			
	Assigned	Unassigned	
Department A	17	3	
Department B	17	6	
Department C	1	1	

この場合、最適なグラフ・タイプは棒グラフと列グラフ、およびコンボ・グラフです。

- メトリックにより単一のインスタンスのみ (既定) が定義され、プロパティの一部またはすべてに AUTOHISTORY が定義されます。この場合、メトリックをピボット・テーブルとして表示すると、以下のように表示されます。

✕ + Workflow Tasks Over Time, All Departments			
	Assigned	Unassigned	
1	70	29	
2	52	3	
3	45	15	
4	16	28	
5	42	7	
6	35	23	

この場合、最適なグラフ・タイプは、棒グラフと列グラフ、折れ線グラフ、およびコンボ・グラフです。

また、指定されたプロパティで AUTOHISTORY が指定されていないと、そのプロパティの列は、最後の行を除いて空になります。AUTOHISTORY を指定するプロパティのみを表示することもできます。このためには、フィルタ・コントロールを追加し、データをフィルタ処理してこれらのプロパティのみ表示します。このコントロールは、ユーザに非表示にできます。

- メトリックにより複数のインスタンスが定義され、さらにプロパティの一部またはすべてに AUTOHISTORY が定義されます。この場合、メトリックをピボット・テーブルとして表示すると、AUTOHISTORY は既定で無視され、メトリックは以下のように表示されます。

	Assigned	Unassigned	
Department A	10	6	
Department B	16	6	
Department C	7	7	

この場合、最適なグラフ・タイプは棒グラフと列グラフ、およびコンボ・グラフです。

メトリックで AUTOHISTORY を強制的に表示するには、[フィルタ・コントロール](#)を追加し、データをフィルタ処理して単一のインスタンスのみ表示します。このコントロールは、ユーザに非表示にできます。フィルタ処理して単一のインスタンスを表示すると、メトリックは以下のように表示されます。

Department			
Department C		Q	
	Assigned	Unassigned	
1	13	13	
2	4	4	
3	9	9	
4	11	11	
5	11	11	
6	12	12	

この場合、最適なグラフ・タイプは、[棒グラフ](#)と[列グラフ](#)、[折れ線グラフ](#)、および[コンボ・グラフ](#)です。

6

グラフ・ウィジェットの外觀のカスタマイズ

システムには、Business Intelligence ダッシュボード上のグラフ・ウィジェットの外觀のカスタマイズに使用できるオプションが豊富に用意されています。これらのオプションにアクセスするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフとピボット] セクションのオプションを使用します。以下のサブメニューは、グラフの外觀に影響します。

- ・ [グラフの設定]→[グラフ・タイプ] – グラフ・タイプを選択できます。
- ・ [グラフの設定]→[サイズと外觀] – [グラフ全体](#)を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの設定]→[タイトルとラベル] – グラフ上の[タイトル](#)と[ラベル](#)のテキストとフォーマット設定を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの設定]→[データなしの警告] – 表示するデータがない場合の[オプションの警告](#)を制御するためのオプションが用意されています。
- ・ [グラフの設定]→[色とスタイル] – グラフ内の[色と線のスタイル](#)を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの設定]→[x 軸] – グラフの [x 軸](#)のテキストとフォーマット設定を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの設定]→[y 軸] – グラフの [1 つまたは複数の y 軸](#)のテキストとフォーマット設定を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの設定]→[系列の詳細] – 各[系列](#)（データ・ソースの行）の表示方法をカスタマイズするためのオプションを提供します。
- ・ [グラフの凡例] – [グラフの凡例](#)の無効化、有効化、およびカスタマイズのためのオプションを提供します。

以下のサブセクションで詳細を説明します。

注釈 ダッシュボードの外觀を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、以降の多くのサブセクションで説明するオプションを使用します。

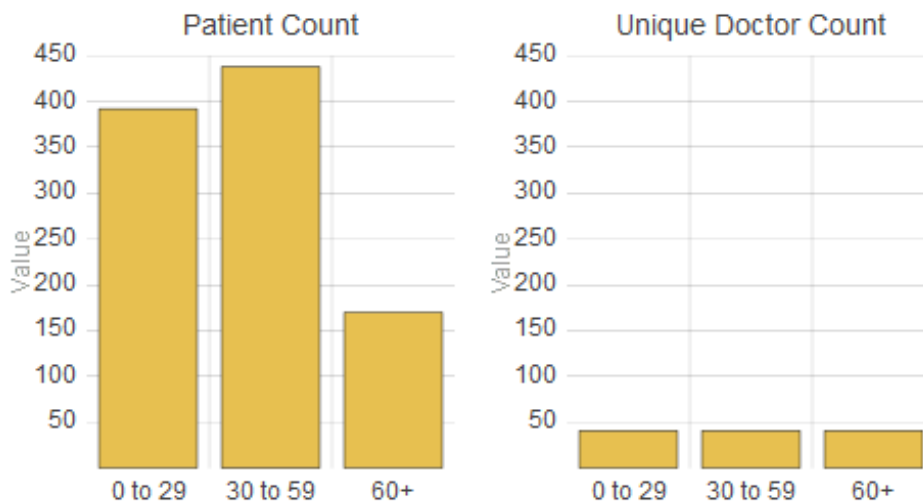
6.1 サイズと外觀のオプション

グラフの全体的なサイズと外觀をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[サイズと外觀]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ **[余白]** – このサブメニューを使用して、グラフの余白をカスタマイズします。**[上]**、**[左]**、**[右]**、および **[下]** の各スライダを使用して、上余白、左余白、右余白、および下余白を個別に制御します。各余白について、**[単位]** 設定を使用して、ウィジェット・サイズに占める割合として余白を指定するか、ピクセル単位で余白を指定します。

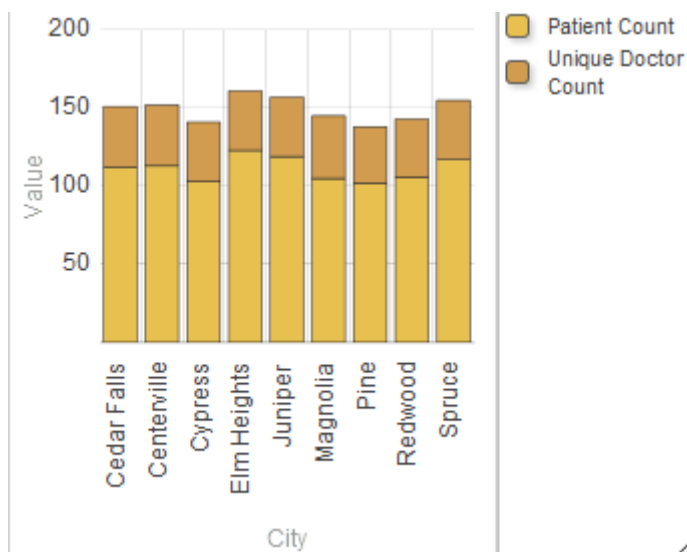
または、**[単位]** を **[自動]** と指定して、既定の余白を使用します。

- ・ **[複数]** – 系列 (データ・ソースの行) ごとに 1 つのグラフを表示する場合は、このオプションを選択します。以下はその例です。



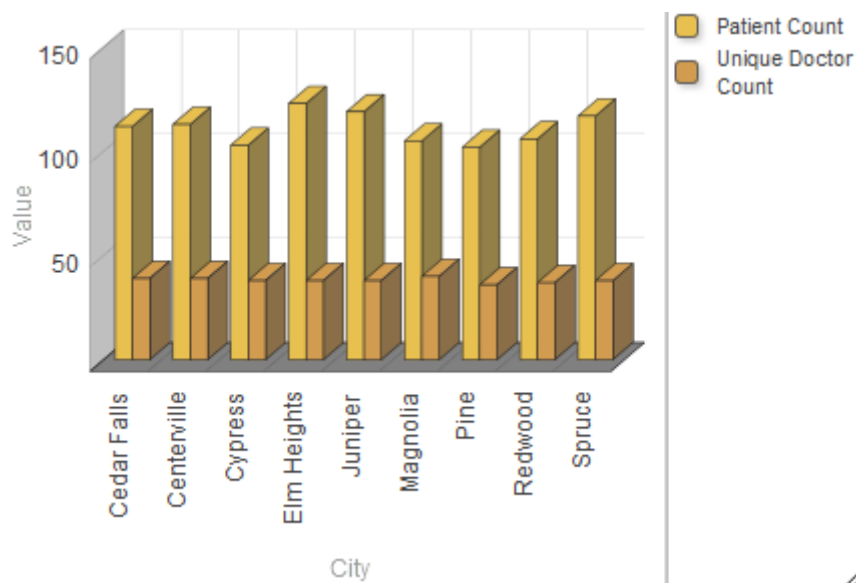
円グラフおよびツリー・マップの場合に、このオプションの使用をお勧めします。

- ・ **[ピボット]** (x 軸と y 軸を持つグラフにのみ適用) – x 軸と y 軸を切り替える場合は、このオプションを選択します。
- ・ **[積み重ね]** (x 軸と y 軸を持つグラフにのみ適用) – 積み重ね形式で系列 (データ・ソースの行) を表示する場合は、このオプションを選択します。以下はその例です。



このオプションによって影響を受けるのは、棒グラフとして表示される系列のみです。

- ・ **[塗りつぶし]** (折れ線グラフと面グラフにのみ適用) – グラフ上の系列の線の下側の領域を塗りつぶすかどうかを制御する場合は、このオプションを選択します。
- ・ **[見栄え]** – このオプションを使用して、3 次元の外觀でグラフを表示するかどうかを制御します。以下はその例です。

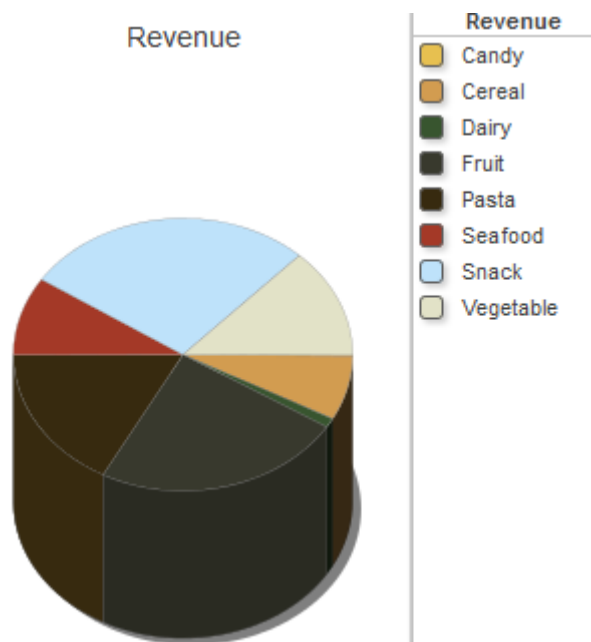


- ・ **【ズーム】** – このオプションを有効にすると、グラフの左下にズーム・ボタンが表示されます。以下はその例です。

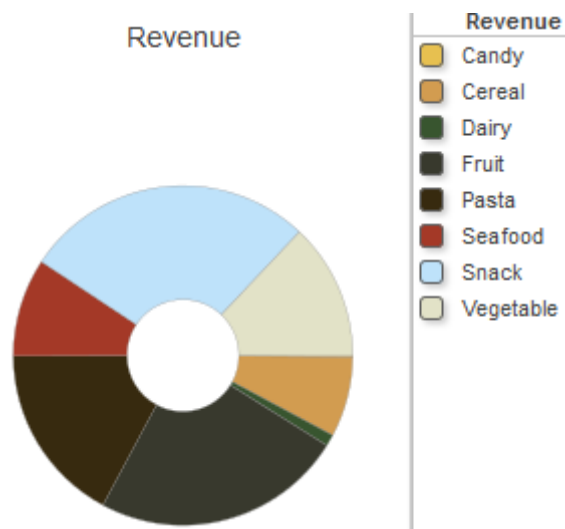


このオプションは、x 軸と y 軸を持つグラフにのみ適用されます。

- ・ **【円の高さ】** (円グラフにのみ適用) – **【見栄え】** が **【3D】** の場合は、このオプションを使用して円グラフの高さを制御します。以下はその例です。

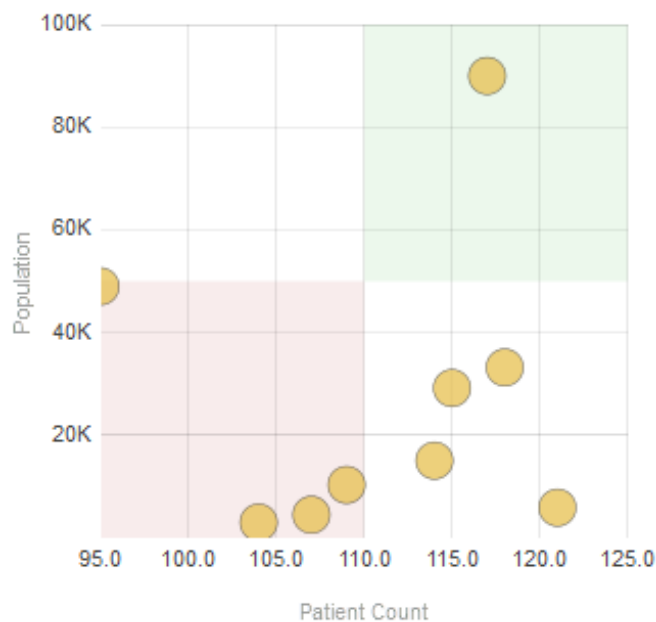


- ・ **【円のサイズ】** (円グラフにのみ適用) – このオプションを使用して、円グラフの半径を制御します。
- ・ **【円の穴のサイズ】** (円グラフにのみ適用) – このオプションを使用して、円の中心の穴のサイズを制御します。以下はその例です。

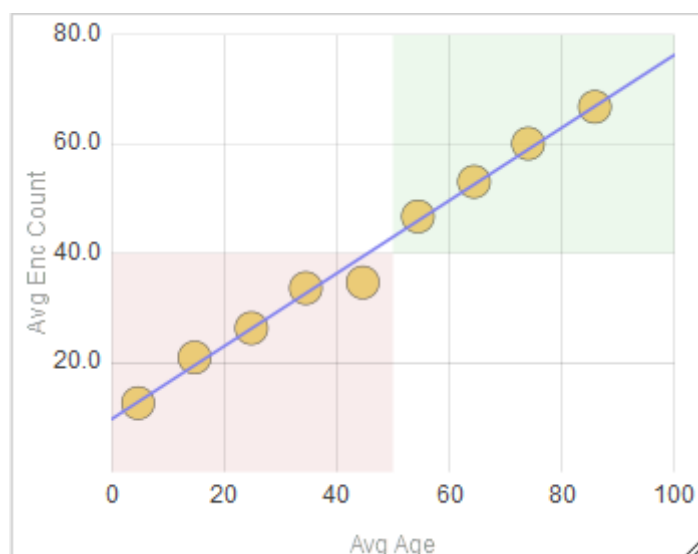


既定の穴のサイズは 0 です。

- ・ **[四分区間]** (バブル・グラフにのみ適用) – このオプションを選択して、グラフをそれぞれ異なる色を使用した 4 象限に分割します。以下はその例です。

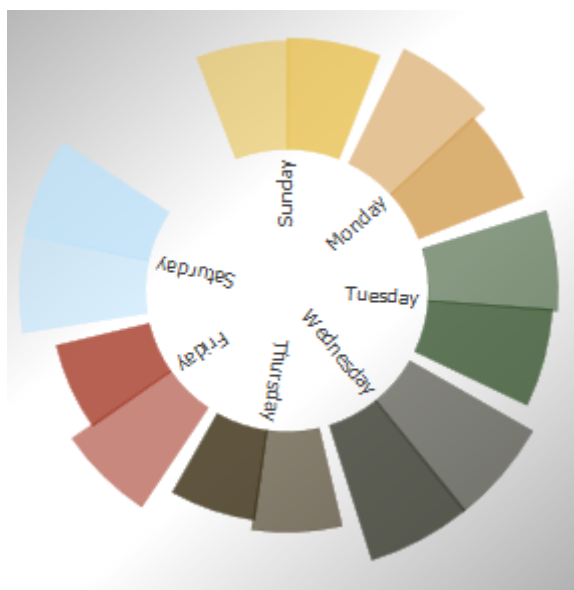


- ・ **[半径]** (バブル・グラフにのみ適用) – このオプションを使用して、バブル・グラフ内のバブルの基本サイズを制御します。
- ・ **[不透明度]** (バブル・グラフにのみ適用) – このオプションを使用して、バブル・グラフ内のバブルの不透明度を制御します。
- ・ **[回帰]** (バブル・グラフにのみ適用) – このオプションを選択して、グラフに回帰線を表示します。以下はその例です。

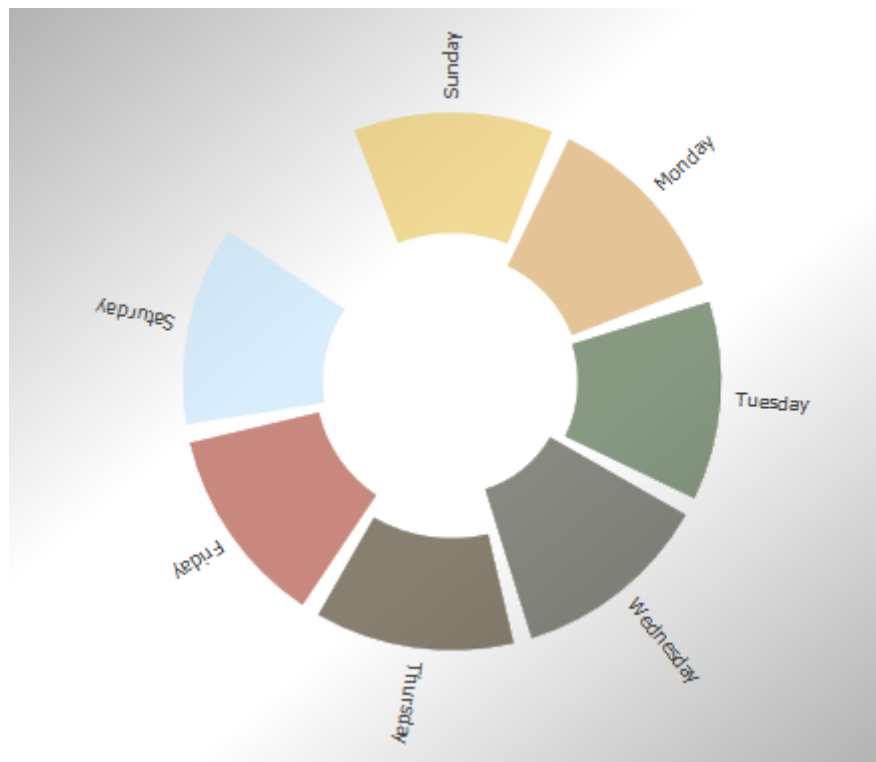


- ・ **[分離系列スケール]** (スワール・グラフにのみ適用) – 基礎となるピボット・テーブルに複数の列がある場合に扇形のスケールリングを制御します。既定では、このグラフは 1 つのスケールを使用して各扇形のサイズを決定します。ある列の最大値の扇形は、別の列の最大値の扇形とは異なることが多いです (例については、**[プロット基準]** を参照してください)。

[分離系列スケール] が **[オン]** の場合、このグラフは各列に分離スケールを使用し、以下の例のようにすべての列の最大の扇形は同じサイズになります (この例では Patient Count と Allergy Count の両方を列として使用しています)。



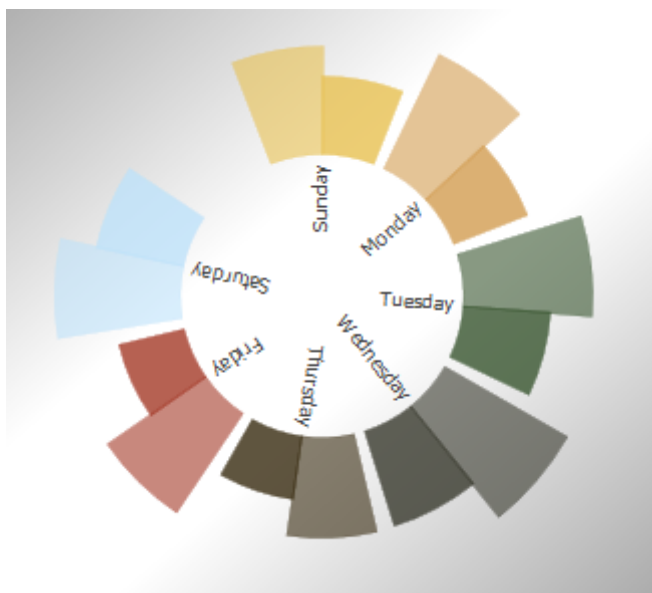
- ・ **[反転]** (スワール・グラフにのみ適用) – **[オン]** をクリックすると、中央ではなくグラフの外側の領域にラベルが表示されます。以下はその例です。



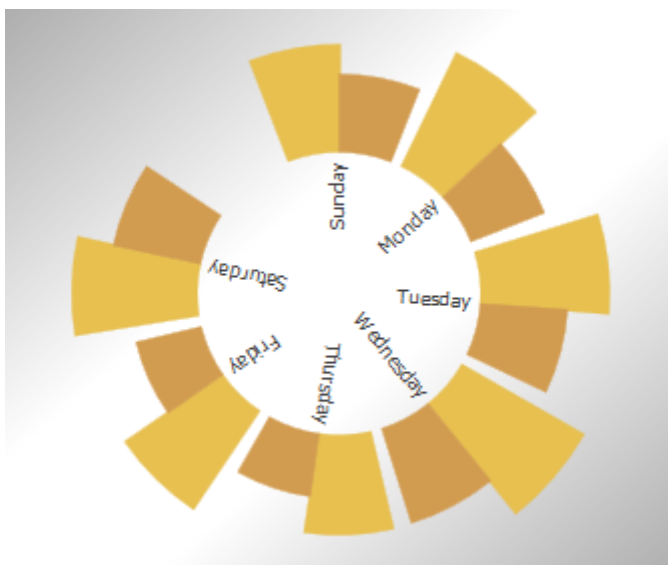
- ・ **[ギャップ]** (スワール・グラフにのみ適用) – このオプションを使用して、扇形のためのギャップのサイズを制御します。以下に、最小ギャップの例を示します。



- ・ **[プロット基準]** (スワール・グラフにのみ適用) – 扇形の色付け方法を制御します。これは、基礎となるピボット・テーブルに複数の列がある場合に特に便利です。**[アイテム]** をクリックすると、このグラフは、このグラフの基礎になっているピボット・テーブルの同じ行に属しているすべての扇形に類似の色を使用します。例えば、以下のスワール・グラフは、Patient Count と Allergy Count を列に使用しているピボット・テーブルに基づいています。例えば、Sunday には類似の色の扇形が 2 つあり、一方は Patient Count 用、他方は Allergy Count 用です。



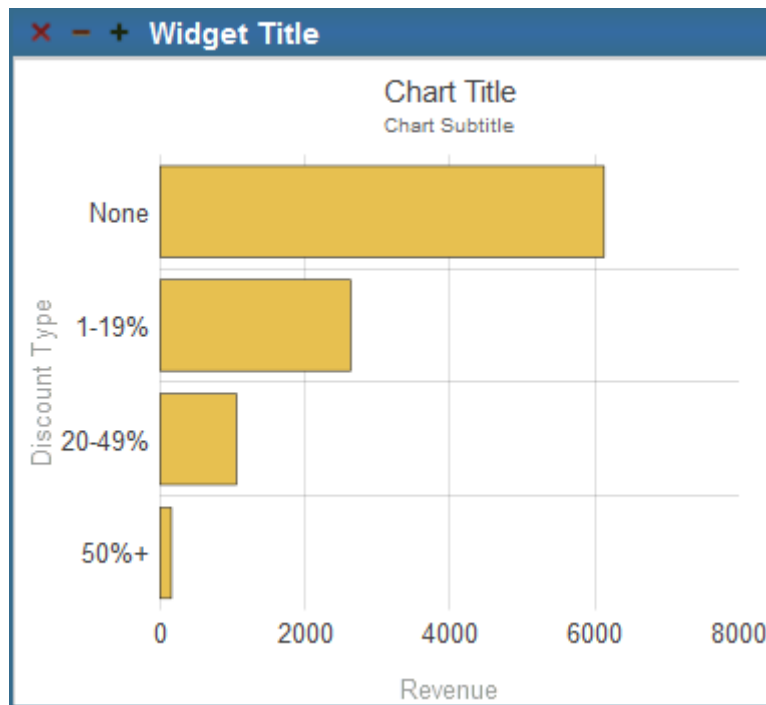
[系列] をクリックすると、グラフは同じ列に属しているすべての扇形に単一の色を使用するため、列ごとに別の色が使用されるようになります。例えば、以下のスワール・グラフは、[プロット基準] が [系列] に設定されていること以外は前述の例と同じです。



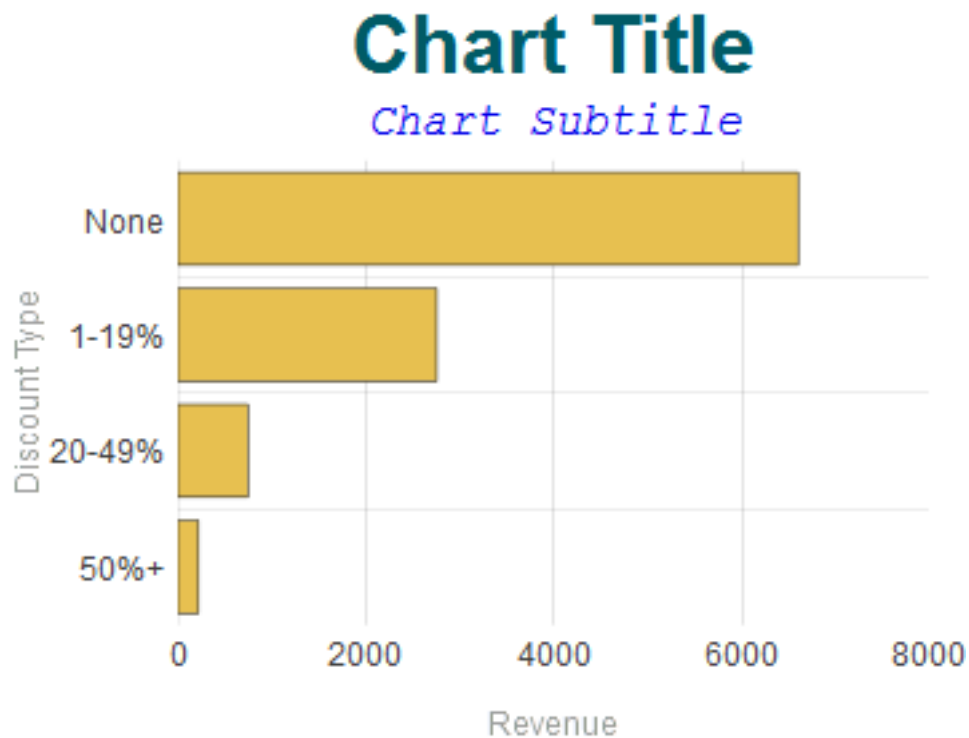
6.2 タイトルとラベルのオプション

グラフのタイトルとラベルをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[タイトルとラベル] をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ **[タイトル]** – このオプションを使用して、グラフ内に表示されるオプションのタイトルを指定します。以下はその例です。

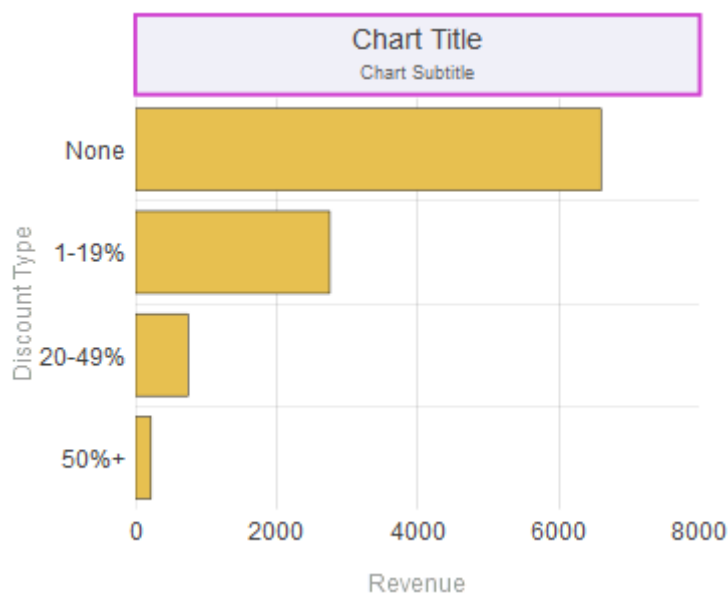


- ・ [タイトルのスタイル] – このサブメニューを使用して、グラフ・タイトルのテキスト・スタイルを制御します。以下に例を示します。

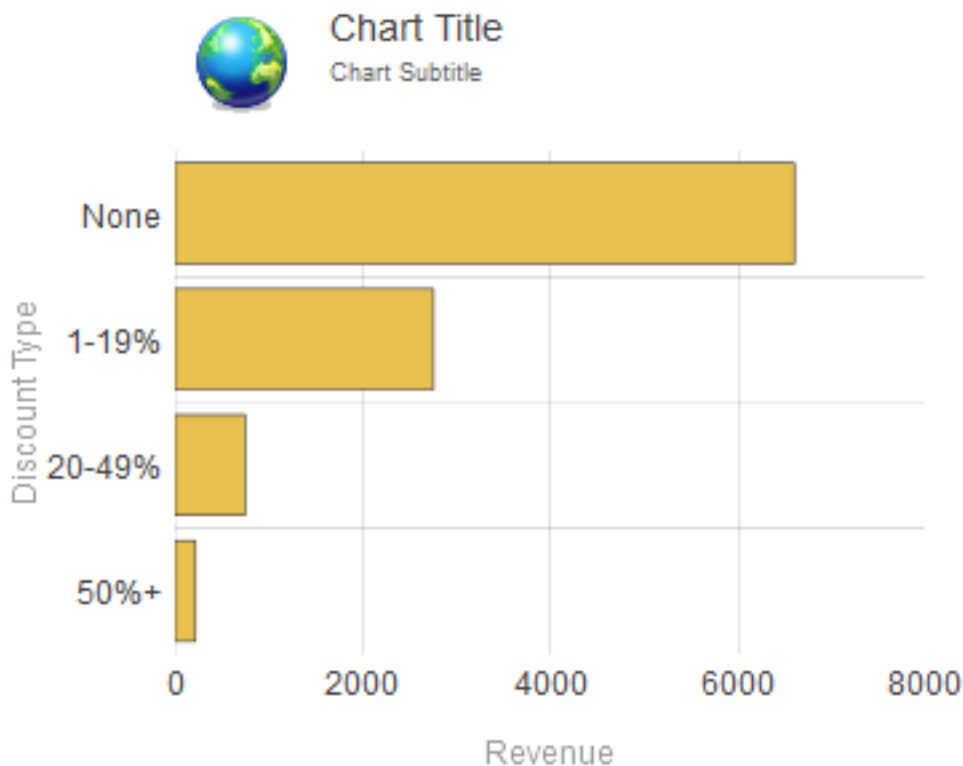


- ・ [サブタイトル] – このオプションを使用して、グラフ内に表示されるオプションのサブタイトルを指定します。[タイトル]の例を参照してください。
- ・ [サブタイトルのスタイル] – このサブメニューを使用して、グラフ・サブタイトルのテキスト・スタイルを制御します。[タイトルのスタイル]の例を参照してください。

- ・ **[タイトルの配置]**－このオプションを使用して、グラフのタイトルとサブタイトルの配置を制御します。これらのタイトルは、左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- ・ **[タイトル・ボックス]**－このサブメニューを使用して、グラフのタイトルとサブタイトルを囲むオプションのボックスを追加します。以下に例を示します。



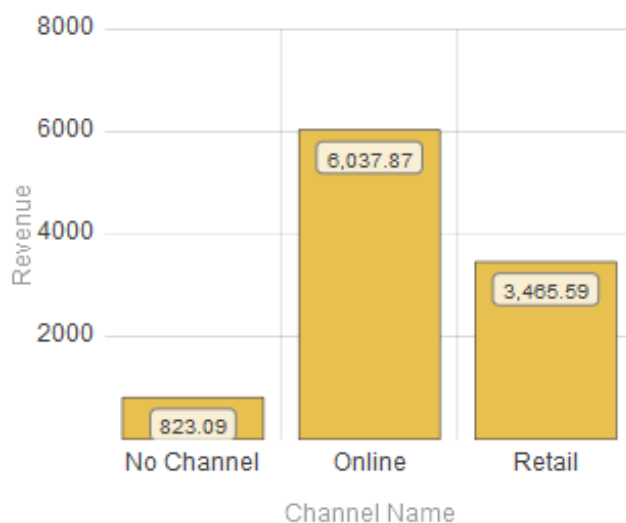
- ・ **[タイトル・イメージ]**－このオプションを使用して、タイトルにオプションのイメージを追加します。以下はその例です。



この例では、同時にタイトルが左揃えに配置されています（**[タイトルの配置]** オプションを参照してください）。

- ・ **[イメージの幅]**、**[イメージの高さ]**、**[イメージを上]**、および **[イメージを左]**－これらのオプションを使用して、オプションのタイトル・イメージのサイズと位置を制御します。

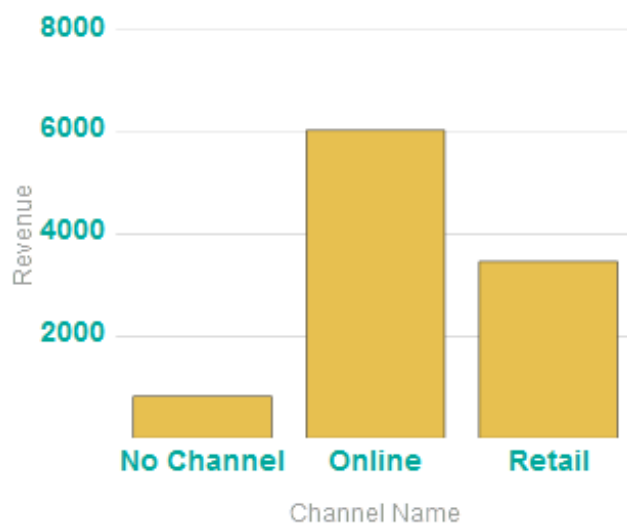
- ・ **[ラベル]**—このオプションを有効にして、グラフの軸にラベルを表示します。以下に、ラベルが表示されたグラフを示します。



この例では、各列の上部に表示されるラベルを制御する **[値ラベル]** オプションも使用しています。

このオプションによってどのラベルが制御されるかを理解するために、グラフの基礎となるピボット・テーブルの軸によってグラフの軸が決定されることを思い出してください。例えば、前述のグラフは、X 軸 (行) が No Channel、Online、および Retail を表示し、Y 軸 (列) が Revenue を表示するピボット・テーブルに基づいています。

- ・ **[ラベルのスタイル]**—このサブメニューを使用して、グラフのラベルの **テキスト・スタイル** を制御します。以下に例を示します。

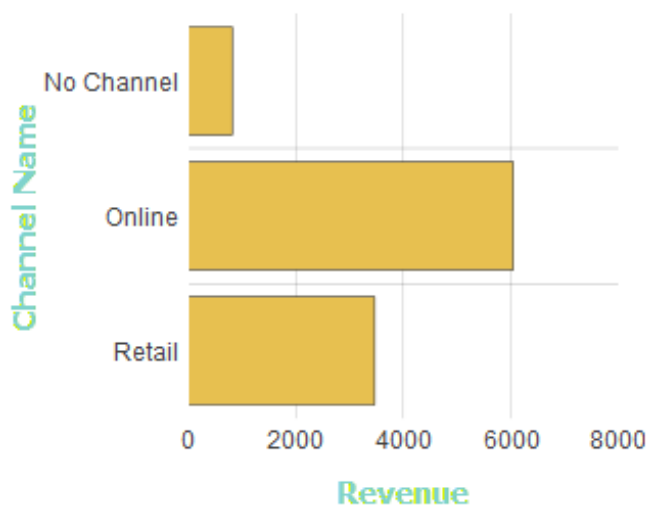


- ・ **[ラベルの長さ]**—このオプションを使用して、ラベルの最大長を指定します。最大長を超えた部分の文字は切り捨てられます。以下はその例です。



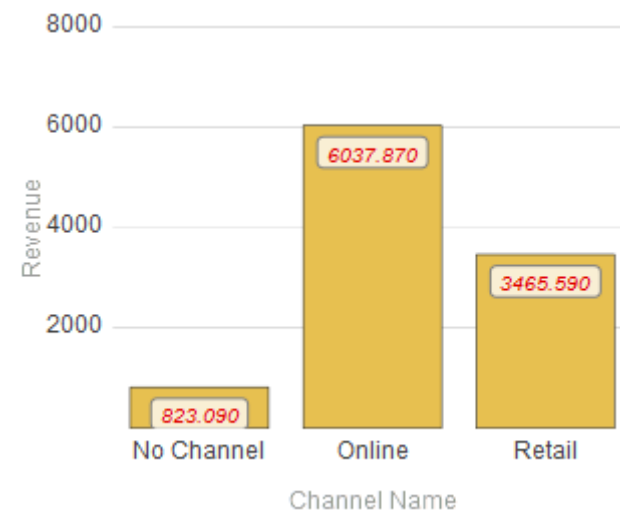
この例では、[ラベルの長さ] は 5 です。

- ・ [軸のタイトル] – このサブメニューを使用して、軸タイトルのテキスト・スタイルを制御します。以下に例を示します。



また、x 軸と 1 つまたは複数の y 軸のスタイルを個別に制御することもできます。

- ・ [値ラベル] (棒グラフにのみ適用) – このオプションを選択して、各列の上または横にラベルを表示し、列に表示される値を示します。例は、[ラベル] と [値のスタイル] を参照してください。
- ・ [値のスタイル] – このサブメニューを使用して、値ラベルのテキスト・スタイルを制御します。以下はその例です。



この例では、[値の形式] で既定以外のオプション (#####) も使用しています。次の項目を参照してください。

- ・ [値の書式] – このオプションを使用して、値ラベルの数値のフォーマット設定を制御します。[値のスタイル] の例を参照してください。

6.3 データなしの警告

表示するデータがない場合のグラフの外観をカスタマイズするには、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[データなしの警告]をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ [データなしのメッセージ] – このグラフに表示するデータがない場合に表示するメッセージを入力します。
- ・ [データがない場合に警告する] – データがない場合に指定されたメッセージを表示するには、[オン]を選択します。このメッセージは、下図に示すようにウィジェット内のボックスに表示されます。既定値は [オフ] です。
- ・ [背景の不透明度] – 指定されたメッセージが表示されるボックスの背景の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
- ・ [背景色] – 指定されたメッセージが表示されるボックスの色を選択します。
- ・ [メッセージの色] – メッセージの色を選択します。

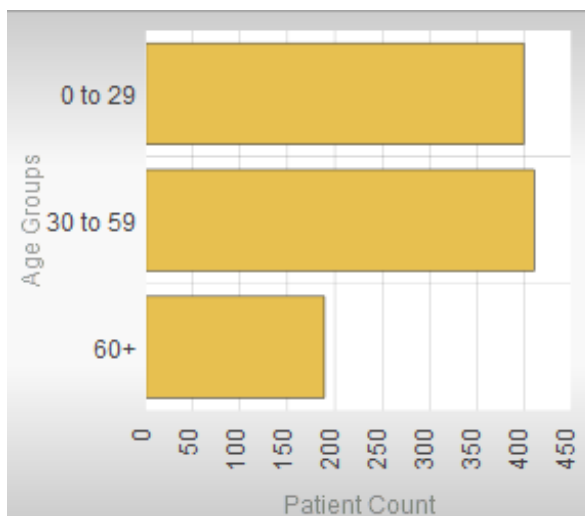
以下に例を示します。



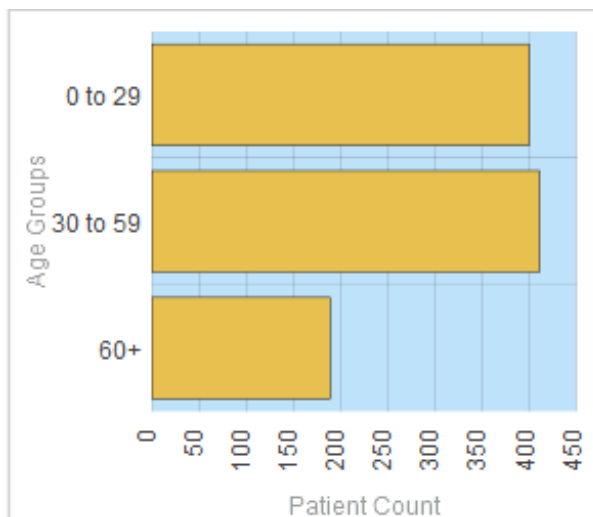
6.4 色とスタイルのオプション

グラフ内の色と線のスタイルをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[色とスタイル]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

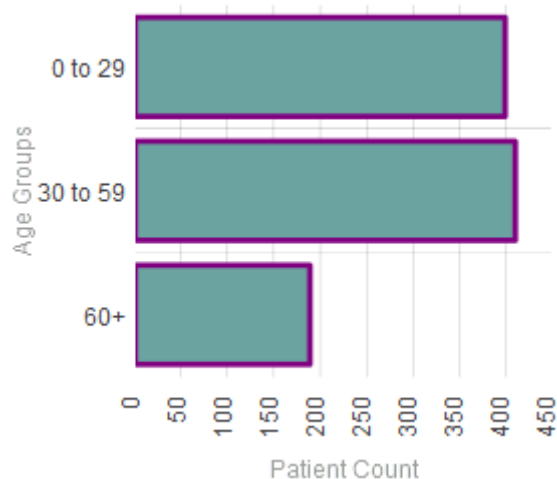
- ・ [系列の配色] – 配色 (このグラフに表示される系列に使用する色のセット) を選択します。
- ・ [バックグラウンド] – このサブメニューを使用して、グラフを囲む背景のスタイルを指定します。以下はその例です。



- ・ [プロット領域] – このサブメニューを使用して、グラフのプロット領域のスタイルを指定します。以下はその例です。

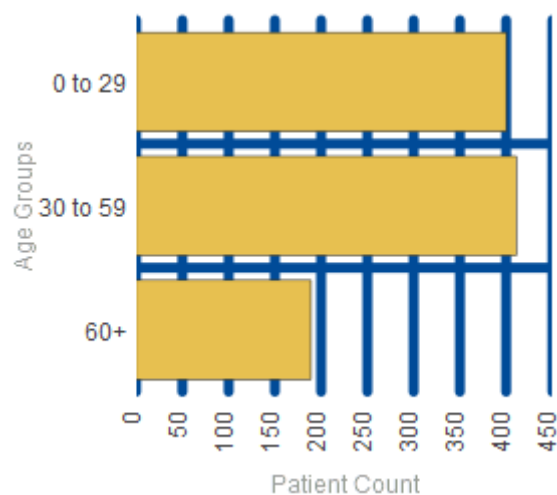


- ・ [プロットのスタイル] – このサブメニューを使用して、グラフにプロットされる系列のスタイルを指定します。このサブメニューによって影響を受けるのは、棒グラフ、面グラフ、および円グラフのみです。
以下はその例です。

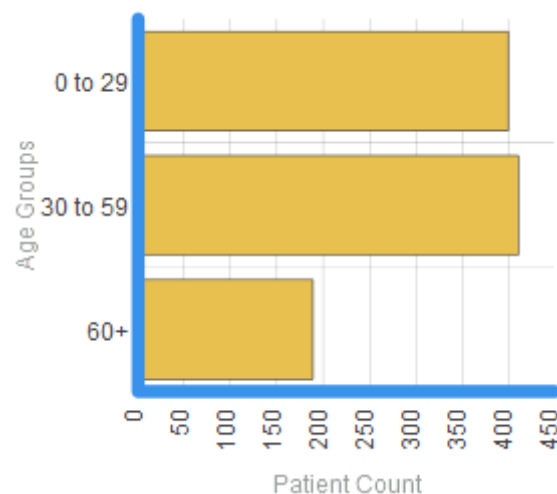


[プロットのスタイル]メニューでは、すべての系列が同様に処理されます。また、このメニューは、[グラフの設定]→[系列の詳細] のオプションより優先されます。["系列の詳細のオプション"](#) を参照してください。

- ・ [グリッドのスタイル] – グラフにグリッドを表示する場合、このサブメニューを使用してグリッドのスタイルを指定します。以下はその例です。

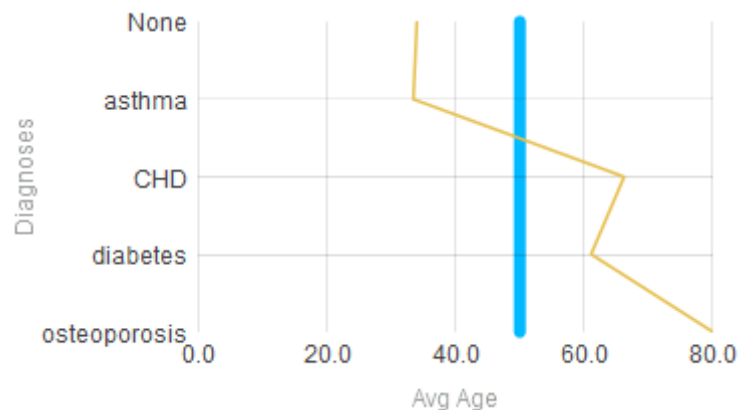


- ・ [軸線のスタイル] – このサブメニューを使用して、軸線のスタイルを制御します。以下はその例です。



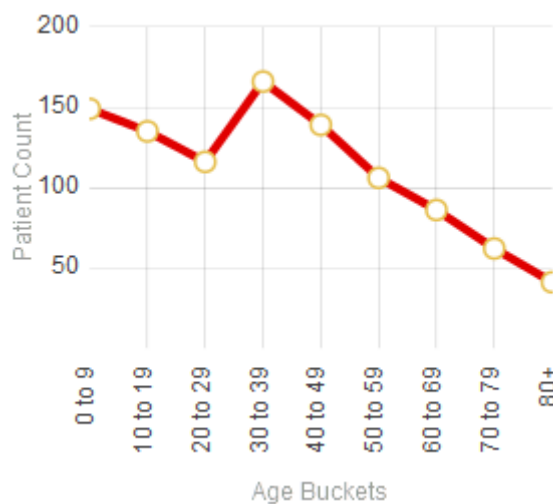
- ・ **【ベース・ラインのスタイル】** – グラフでベース・ラインを使用している場合は、このサブメニューを使用してベース・ラインのスタイルを指定します。

以下はその例です。

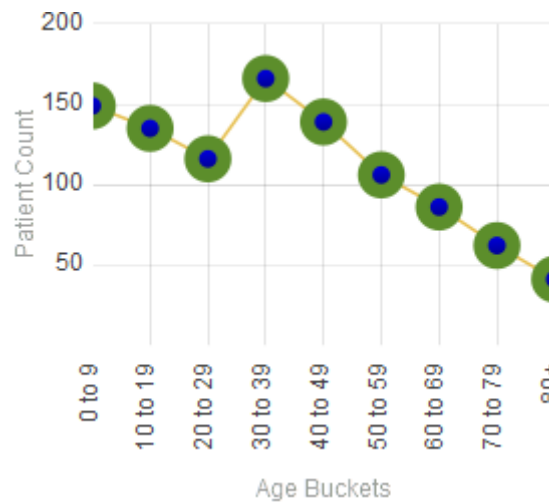


ベース・ラインを指定するには、[次のセクション](#)の **【ベース値】** オプションを参照してください。

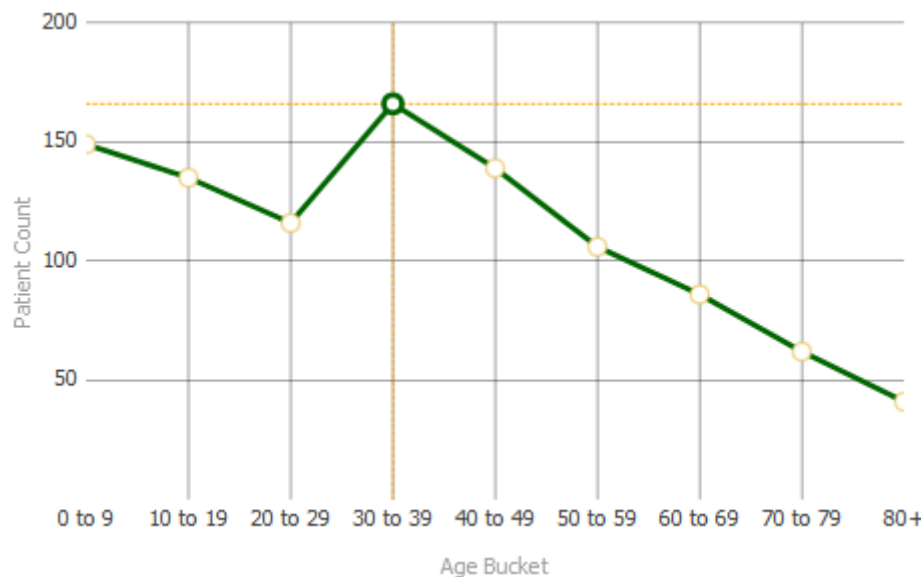
- ・ **【線のスタイル】** – グラフで線を使用する場合は、このサブメニューを使用してその線のスタイルを指定します。例えば、以下のようにします。



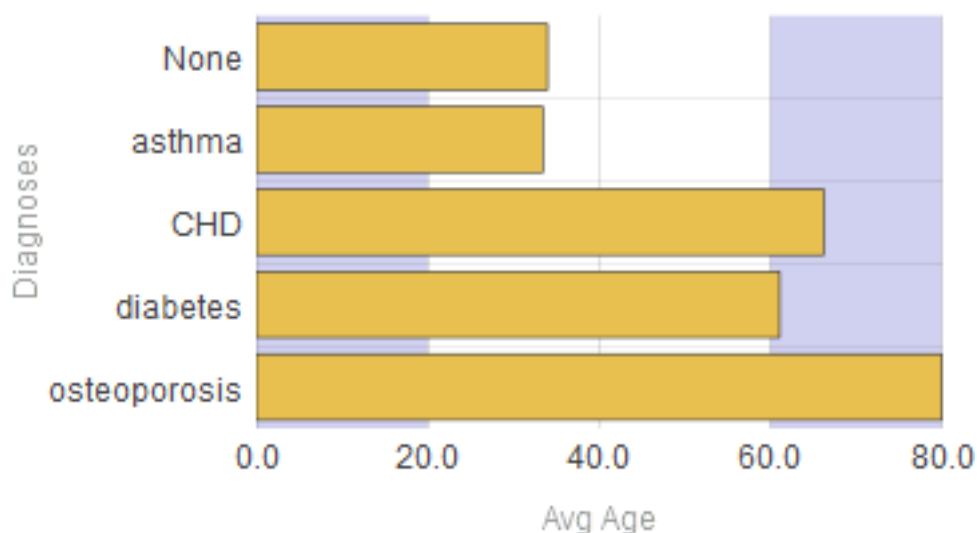
- ・ **【マーカ表示】** – グラフでマーカを表示する場合、このオプションを有効にします。
- ・ **【マーカのスタイル】** – グラフでマーカを使用する場合は、このサブメニューを使用してマーカのスタイルを指定します。以下はその例です。



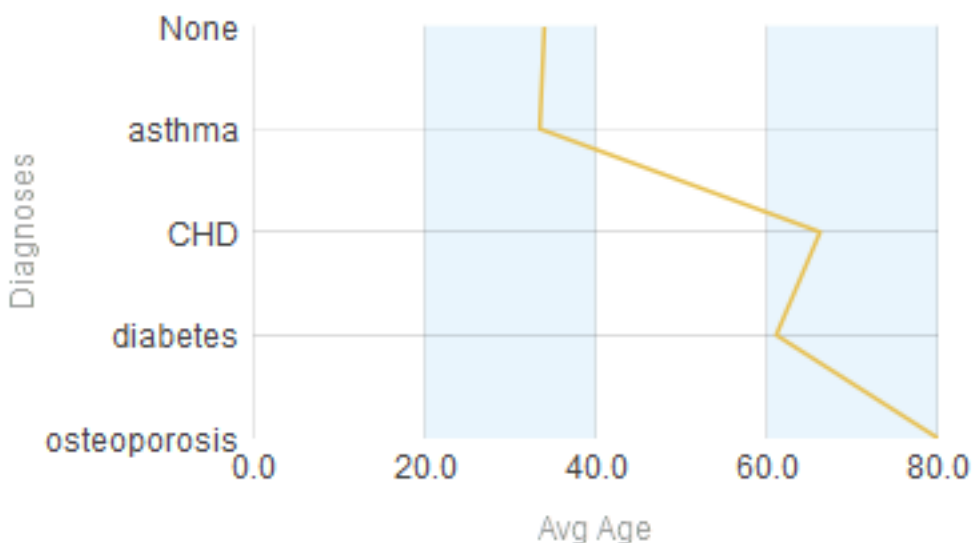
- ・ **[マーカ・サイズ]** – マーカを使用する場合は、このオプションを使用してマーカのサイズを変更します。
- ・ **[インジケータ表示]** – ユーザがグラフの項目を選択したときに十字が表示されるようにするには、このオプションを有効にします。以下はその例です。



- ・ **[インジケータのスタイル]** – グラフでインジケータを使用する場合は、このサブメニューを使用してインジケータのスタイルを指定します。前の項目を参照してください。
- ・ **[バンドの上限]** – バンドとしてスタイル設定されたこの軸の上部領域を定義する値を入力します。以下の例では、**[バンドの上限]** (60 と指定) と **[バンドの下限]** (20 と指定) の両方を使用しています。

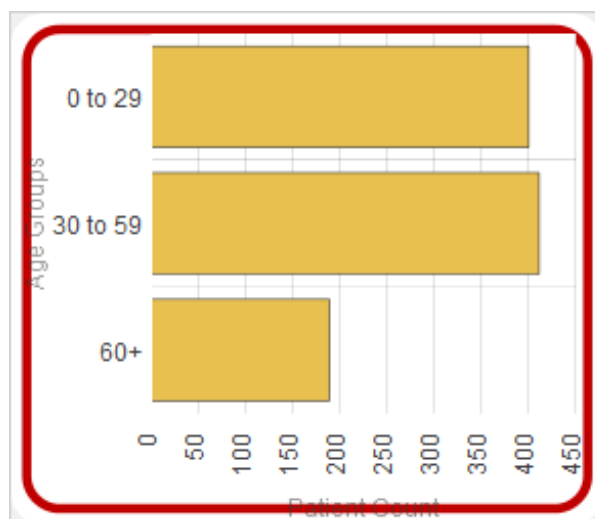


- ・ **[上限のスタイル]** – グラフで上限バンドを使用する場合は、このサブメニューを使用して上限バンドのスタイルを制御します。
- ・ **[バンドの下限]** – バンドとしてスタイル設定されたこの軸の下部領域を定義する値を入力します。**[バンドの上限]**の例を参照してください。
- ・ **[下限のスタイル]** – このサブメニューを使用して、下限バンド（存在する場合）のスタイルを制御します。
- ・ **[ストライプ]** – このオプションを使用して、この軸にストライプを追加します。以下はその例です。



この例では、**[ストライプのスタイル]** も使用しています。

- ・ **[ストライプのスタイル]** – このサブメニューを使用して、ストライプのスタイルを指定します。
- ・ **[境界線のスタイル]** – このサブメニューを使用して、グラフの境界線のスタイルを指定します。境界線がプロット領域を囲み、境界線を背景が囲みます。以下に例を示します。



この例では、このリストで後述する **[境界線の半径]** に既定以外のオプションも使用しています。

- ・ **[境界線のオフセット]** – このオプションを使用して、背景を基準とした境界線の相対位置を変更します。
- ・ **[境界線の半径]** – このオプションを使用して、境界線の角の半径を変更します。既定では、境界線の角は直角です。既定以外の例は、**[境界線のスタイル]** を参照してください。
- ・ **[データ駆動型の色]**、**[条件リスト]** オプション – このオプションを使用して、このウィジェットの特定の系列に使用する一連の CSS カラーを指定します。このオプションを使用するには、まず条件リスト・マネージャを使用して ("[InterSystems Business Intelligence のモデルの定義](#)" を参照)、以下のように条件リストを定義します。
 - 各項目のキーは、このウィジェットの系列の正確な表示名である必要があります。
 - 項目の値は CSS カラー値である必要があります。有効な任意の CSS カラー名を使用できます。これらについては、<https://www.w3.org/TR/css3-color/> およびインターネットの他の場所を参照してください。

以下に例を示します。

Terms		
	Key	Value
1	Avg Age	#4B0082
2	Avg Allergy Count	SeaGreen
3	Avg Test Score	Coral
4	Patient Count	rgb(255,0,0)

[データ駆動型の色]、**[条件リスト]** オプションには、条件リストの正確な名前を入力します。

ウィジェットの所定の系列の条件がこの条件リストに含まれていない場合、その系列はグレーで表示されます。

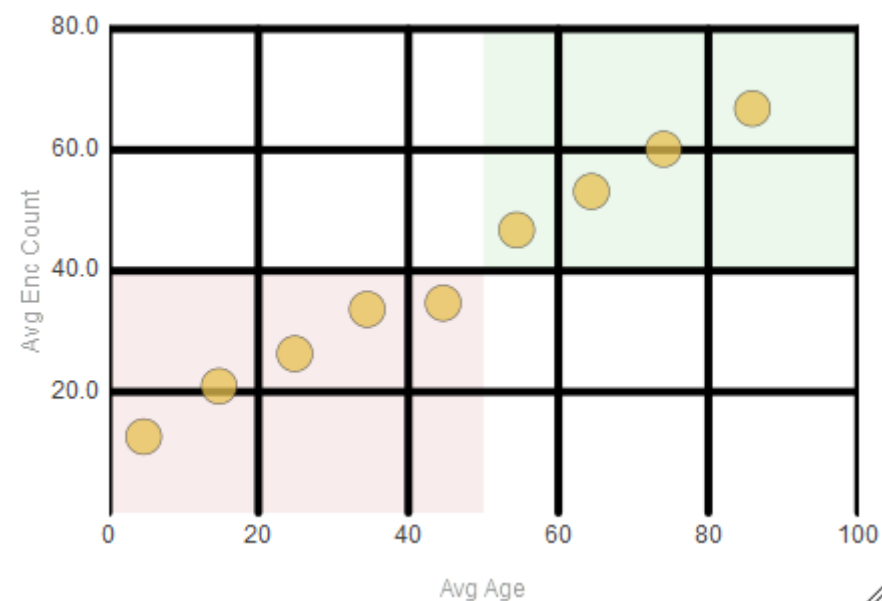
この機能はローカライズをサポートしないことに注意してください。

サブメニューの詳細は、"[線のスタイルの指定](#)" を参照してください。

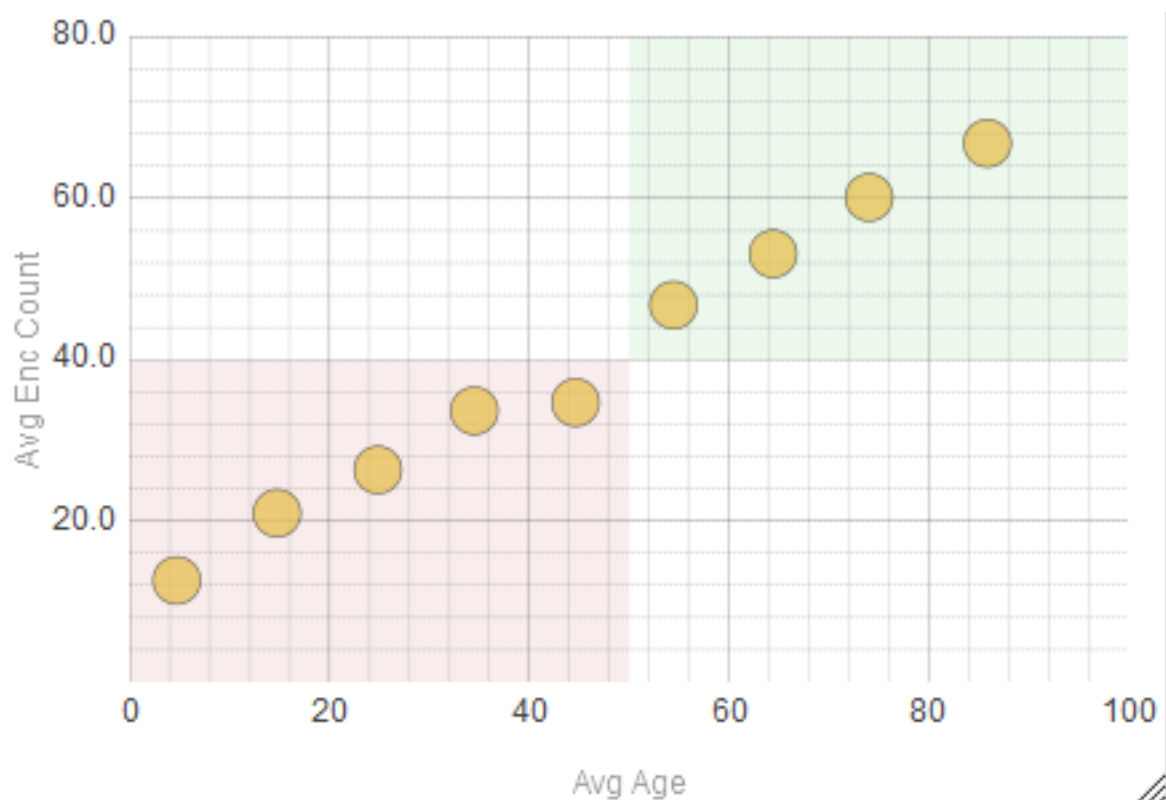
6.5 x 軸のオプション

グラフの x 軸をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[X軸]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

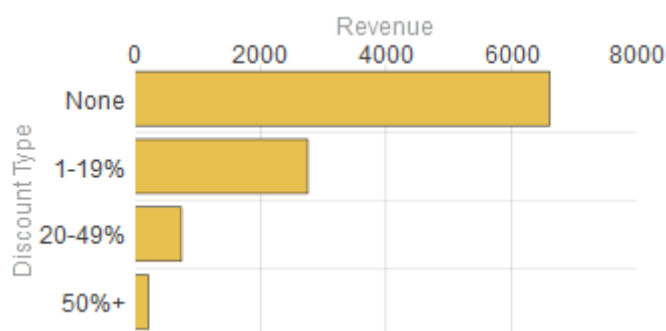
- ・ **[軸タイトル]** – x 軸で使用するタイトルを指定します。既定では、このタイトルはデータ・ソースから取得されます。
- ・ **[主グリッド線]** – このオプションを使用して、x 軸上の主要な位置を示す線の表示を有効または無効にします。既定では、これらの線は有効になっています。
- ・ **[主のスタイル]** – このサブメニューを使用して、x 軸上の主要な位置を示す線の **スタイル** をカスタマイズします。以下の例では、x 軸と y 軸の両方で **[主グリッド線のスタイル]** が指定されています。



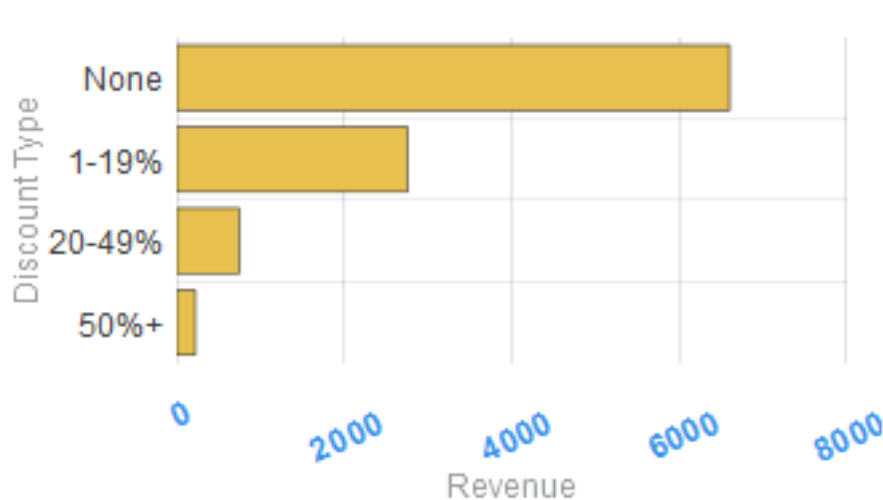
- ・ **[補助グリッド線]** – このオプションを使用して、x 軸上の補助的な位置を示す線の表示を有効または無効にします。既定では、これらの線は無効になっています。以下の例では、x 軸と y 軸の両方でこれらの線が有効になっています。



- ・ **[副スタイル]** – このサブメニューを使用して、x 軸上の補助的な位置を示す線の**スタイル**をカスタマイズします。
- ・ **[ラベル位置]** – x 軸の位置（上部または下部）を指定します。既定では、この軸は下部にあります。この軸がグラフの上部にある例を以下に示します。

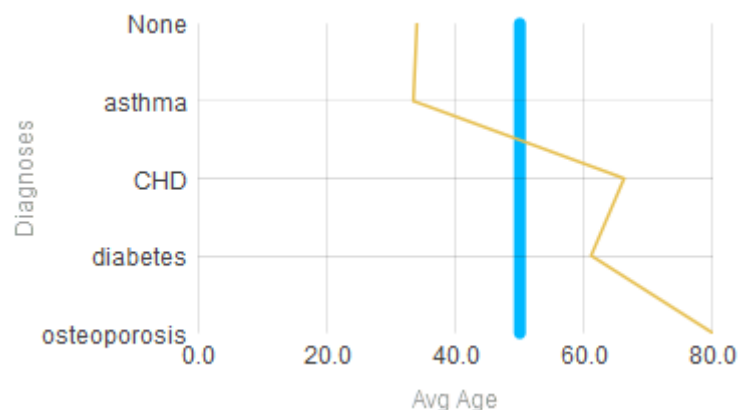


- ・ **[ラベルのスタイル]** – このサブメニューを使用して、x 軸のラベルの**テキスト・スタイル**を指定します。以下はその例です。



この例では、[ラベルの角度] オプションも使用しています。

- ・ **[ラベルの角度]**—このオプションを使用して、x 軸のラベルの角度を指定します。[ラベルのスタイル] の例を参照してください。
- ・ **[軸タイプ]**—必要に応じ、[%] を選択して x 軸上の値をパーセンテージで表現します。このオプションを選択すると、値に 100 が乗じられ、各値の末尾に % が表示されます。
- ・ **[最小値]**—このオプションを使用して、グラフに表示される最小の x 値を指定します。このオプションを使用すると、グラフはこの最小 x 値から始まるように拡大縮小され、この値未満のデータ・ポイントは無視されます。
- ・ **[最大値]**—このオプションを使用して、グラフに表示される最大の x 値を指定します。このオプションを使用すると、グラフはこの最大 x 値で終わるように拡大縮小され、この値を超えるデータ・ポイントは無視されます。
- ・ **[ベース値]**—このオプションを使用して、指定された値に参照線を追加します。例えば、以下のグラフでは、値 50 に参照線があります。

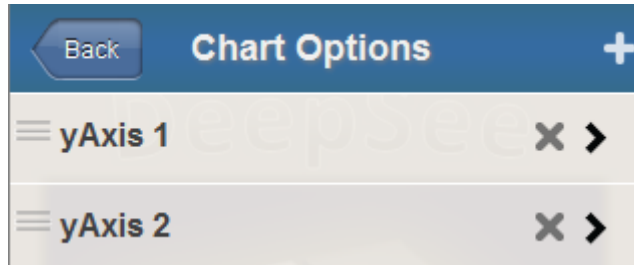


この例では、[グラフの設定]→[色とスタイル] の [ベース・ラインのスタイル] も使用しています。前のセクションを参照してください。

y 軸をカスタマイズする場合も同様のオプションを使用できます。

6.6 1 つまたは複数の y 軸のオプション

グラフの 1 つまたは複数の y 軸をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[Y軸]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。このメニューには、このグラフに現在定義されている y 軸が表示されます。以下はその例です。



ここでは、以下の操作を実行できます。

- ・ y 軸の追加。そのためには、プラス記号ボタンをクリックします。y 軸は直ちに追加されます。
- ・ y 軸の削除。そのためには、その軸の行で [X] ボタンをクリックします。
- ・ y 軸の再配置。そのためには、軸名の左にある軸ハンドルをドラッグします。
- ・ y 軸のカスタマイズ。そのためには、軸名をクリックしてオプションのサブメニューを表示します。このサブメニューの詳細は、[前のセクション](#)を参照してください。

[主グリッド線]、[主グリッド線のスタイル]、[補助グリッド線]、[補助グリッド線のスタイル]などの一部のオプションは、主 y 軸に対してのみサポートされています。

6.7 系列の詳細のオプション

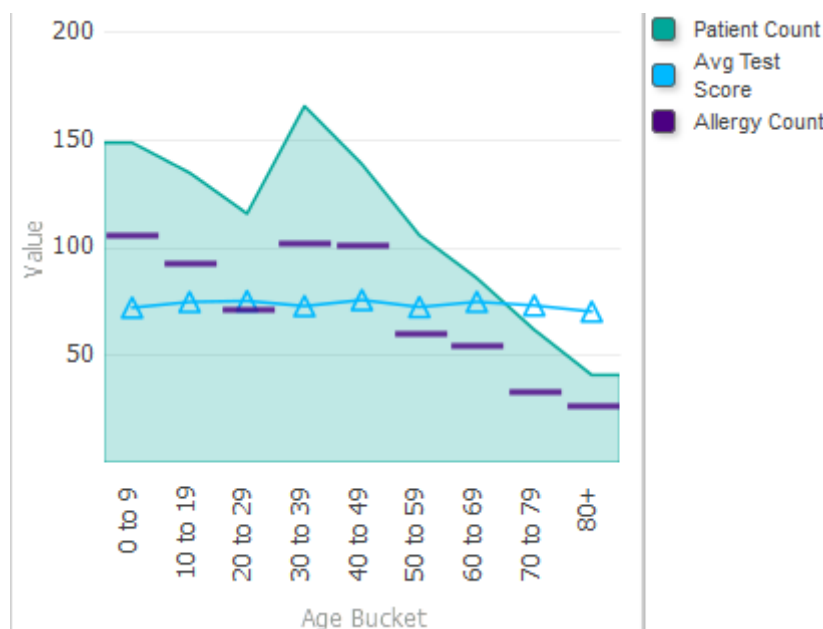
システムでは、系列（データ・ソース内の行）ごとに適用する一連の既定色が使用されます。これらはオーバーライドできます。折れ線グラフの場合は、データ・ポイントに使用されるマーカをカスタマイズすることもできます。

グラフでの各系列の表示方法をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[グラフの設定]→[系列の詳細]をクリックし、系列をクリックしてから、そこに表示されているオプションを使用します。

各系列に対して、以下のオプション（グラフ・タイプによって異なる）を変更できます。

- ・ **[色]** — この系列の色を指定します。
色の指定に関する詳細は、“[テーブルのテキスト・スタイルの指定](#)”を参照してください。
- ・ **[y 軸]** — この系列を関連付ける y 軸 を指定します（1 または 2 のいずれか）。
既定では、両方の y 軸が同じ位置に表示されます。この位置を変更するには、[グラフの設定]→[y 軸] の [ラベル位置] オプションの説明を参照してください。
- ・ **[プロット・タイプ]** ([コンボ・グラフ](#)) — この系列で使用するプロット・タイプを指定します。
- ・ **[マーカの形状]** ([折れ線グラフ](#)、[面グラフ](#)、[コンボ・グラフ](#)、および[時間グラフ](#)) — この系列に表示されるデータ・ポイントで使用するマーカの形状を指定します。

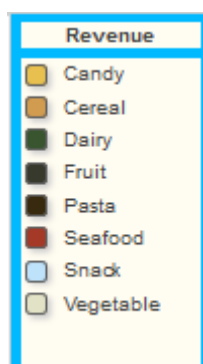
以下に例を示します。



6.8 グラフの凡例のオプション

グラフの凡例をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[グラフの凡例]**をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ **[位置]**－グラフで凡例を使用する場合は、このオプションを選択して凡例の位置を指定します。**[右]**、**[左]**、**[上部]**、**[下部]**、または**[なし]**を選択します。
- ・ **[タイトル]**－グラフの凡例に表示するタイトルを指定します (グラフ定義に基づいた既定のタイトルを指定変更する場合)。
- ・ **[タイトルの表示]**－グラフの凡例のタイトルを表示するには、**[オン]**を選択します。非表示にするには、**[オフ]**を選択します。
- ・ **[境界線]**－このサブメニューを使用して、グラフの凡例を囲む境界線を指定します。以下に例を示します。

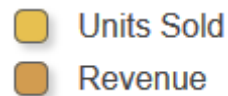


- ・ **[バックグラウンド]**－グラフの凡例の背景の色を指定します。上記の例を参照してください。
- ・ **[不透明度]**－グラフの凡例の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
- ・ **[フォント]**－グラフの凡例の書体を指定します。

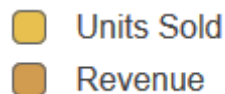
- ・ **[フォント・サイズ]** – グラフの凡例のテキストのサイズを指定します。
- ・ **[テキスト色]** – グラフの凡例のテキストの色を指定します。このオプションとその他のスタイル・オプションを使用する例を以下に示します。



- ・ **[テキスト・スタイル]** – グラフの凡例のテキストのスタイルを指定します。
- ・ **[パディング]** – 凡例の前後の水平方向および垂直方向のパディングを指定します。
- ・ **[幅]** – 凡例の幅を指定します。
- ・ **[高さ]** – 凡例の高さを指定します。
- ・ **[ボックスの影の表示]** – 凡例の各ボックスに薄い影を表示するかどうかを指定します。既定では、この影は表示されます。次の拡大図に例を示しています。



[ボックスの影の表示] が **[オフ]** の場合は、同じ凡例が次のように表示されます。




7

メータ・ウィジェットの追加

ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)にメータ・ウィジェットを追加する方法を説明します。

7.1 メータ・ウィジェットの追加

メータ・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. [メータ] をクリックします。
3. メータ・タイプをクリックします。
4. [データソース] で、以下のいずれかを実行します。
 - ・ 検索ボタン  をクリックし、[データ・ソース](#)を選択します。
 - ・ [リンク先] ドロップダウン・リストを使用して、同じダッシュボードの別のウィジェットを選択します。

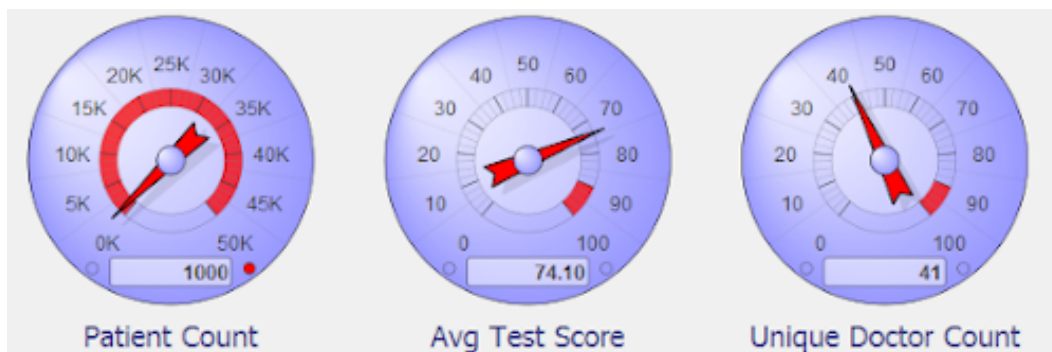
ほとんどの InterSystems IRIS Business Intelligence データ・ソースは、複数の行と列を持つことができます。メータ・ウィジェットにこれらを表示すると、先頭行のデータのみが使用されます。その他の行はすべて無視されます。

5. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)” の説明に従って基本設定を指定します。

このページの“[基本的なメータ・オプション](#)”を参照してください。

6. [OK] をクリックします。
7. プロパティを 1 つ以上追加します。詳細は、“[プロパティの追加](#)”を参照してください。

このプロパティは、メータ・ウィジェットに表示されるメータになります。例えば、以下のメータ・ウィジェットには 3 つのプロパティがあります。



既定では各メータのタイプは親メータ・ウィジェットのタイプと同じになりますが、個々のメータのタイプを変更することができます。

詳細は、[次のサブセクション](#)を参照してください。

8. 必要に応じて、このページの残りの部分での説明に従ってウィジェットをさらに詳細に構成します。ページの残りの部分では、以下の種類のメータについて説明します。

- ・ [速度計](#)
- ・ [テキスト・メータ](#)
- ・ [燃料計](#)
- ・ [信号機](#)
- ・ [ライト・バー](#)
- ・ [スマイリー](#)

例と比較は、[次のセクション](#)を参照してください。

9. 必要に応じて、“[ウィジェット・コントロールの追加](#)” の説明に従って、コントロールを追加します。

7.1.1 データ・ソース、プロパティ、メータ


メータ・ウィジェットには複数のプロパティがあり、それぞれはウィジェット内の別個のメータとして表示されます。前述の例を考えてください。この例では、それぞれが別個の速度計に表示される 3 つのプロパティを持つウィジェットが示されています。


ほとんどの InterSystems IRIS Business Intelligence データ・ソースは、複数の行と列を持つことができます。メータ・ウィジェットにこれらを表示すると、先頭行のデータのみが使用されます。その他の行はすべて無視されます。

先頭行のデータについて、データ・ソースの各列をメータ・ウィジェットのプロパティとして、つまり、ウィジェット内の別個のメータとして表示できます。ここで示す例では、メータ・ウィジェットのすべてのメータは同じタイプですが、1 つのウィジェット内で異なるタイプを使用するようにウィジェットを構成できます。

7.2 メータのウィジェット設定の指定

メータの場合は、[\[ウィジェット設定\]](#) メニューには以下のオプションがあります。

- ・ [\[印刷\]](#) – このオプションを選択すると、ツールバーに印刷ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、ウィジェットを PDF ファイルに出力できます。詳細および要件は、“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)” セクションを参照してください。

・
[アナライザ] – このオプションを選択すると、ツールバーにミニ・アナライザ・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、データ・ソースをミニ・アナライザで開くことができます。

このオプションは、データ・ソースがピボット・テーブルの場合のみサポートされます。

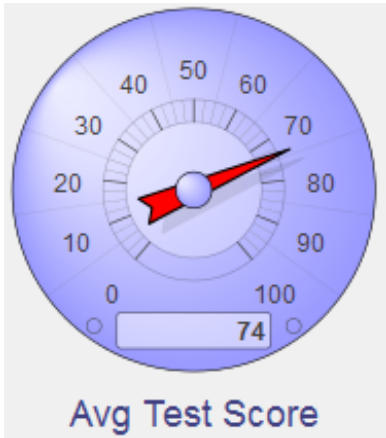
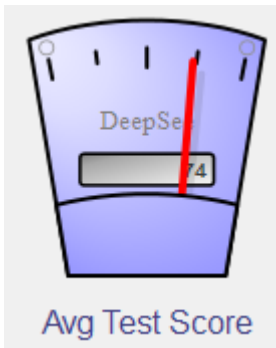
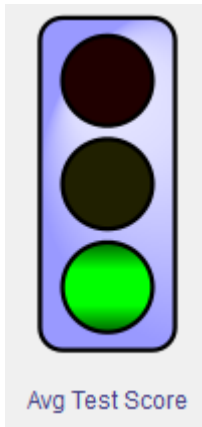
このメニューに含まれている追加のオプションを使用して、メータの外観を制御します。これらのオプションは、メータの種類に応じて異なります。この項目の残り部分で詳しく説明します。

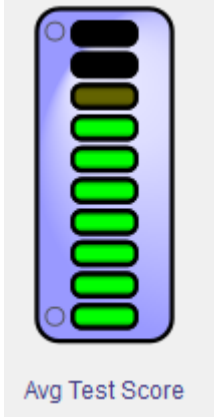

注釈 これらのオプションによって、ツールバーに 1 つのボタンが追加されます。これらのオプションを使用する場合は、ツールバーが表示されていることを確認します (ツールバーの表示は [設定] の [ツールバー] オプションで制御します)。[“ウィジェットの再構成”](#) を参照してください。

7.3 メータ・タイプ

以下のメータ・タイプが用意されています。

メータ・タイプ	例	基本	メモ
---------	---	----	----

メータ・タイプ	例	基本	メモ
速度計		範囲オプションは、針の可能な位置を制御します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の値は常にボックス内に表示されます。 ・ スケール内にしきい値を追加できます。これはスケールで別の色帯で示されます。 ・ スケール上にラインとして表示されるターゲット値を追加できます。
テキスト・メータ		メータは実際の値とラベルを表示します。	
燃料計		範囲オプションは、針の可能な位置を制御します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の値は常にボックス内に表示されます。 ・ スケール内にしきい値を追加できます。これは上部と下部に警告灯として示されます。
信号機		しきい値オプションは、3つのランプの使用を制御します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既定では、大きな値は不良と見なされ、赤いランプが表示されます。 ・ 大きな範囲と小さな範囲の値を逆転させることで、メータの意味を逆にすることができます。

メータ・タイプ	例	基本	メモ
ライト・バー		範囲オプションは、バーとその色を制御します。	<ul style="list-style-type: none"> 既定では、大きな値は不良と見なされ、上部の赤いバーを含むすべてのバーが点灯します。 大きな範囲と小さな範囲の値を逆転させることで、メータの意味を逆にすることができます。 スケール内にしきい値を追加できます。これは上部と下部に警告灯として示されます。
スマイリー		範囲オプションは、笑顔と渋面の可能な形状を制御します。	<ul style="list-style-type: none"> 既定では、大きな値は良い値と見なされ、笑顔で表示されます。 大きな範囲と小さな範囲の値を逆転させることで、メータの意味を逆にすることができます。


7.4 基本的なメータ・オプション

どのメータ・ウィジェットでも、一連の基本オプションをカスタマイズできます。ウィジェットをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[メータ]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のサブメニューを使用できます。

- ・ [設定] – このサブメニューを使用して、メータ・ウィジェット全体をカスタマイズします。このサブメニューには、以下のオプションがあります。
 - [形式] – オプションを選択して、このメータ・ウィジェットにあるすべてのメータの[数値フォーマット設定](#)を制御します。以下に例を示します。

73.897

–

[アナライザ] – このオプションを使用して、このウィジェットにミニ・アナライザ  ボタンを表示するかどうかを制御します。

このオプションは、[データ・ソース](#)がピボット・テーブルの場合のみサポートされます。

- [高水準値の色] – [閾値(高)] オプションより高い値を示すメータのセクションで使用する色を選択します。このしきい値オプションは、meter name のサブメニューで指定します。

このオプションは、速度計にのみ適用されます。

- **[低水準値の色] - [閾値(低)]** オプションより低い値を示すメータのセクションで使用する色を選択します。このしきい値オプションは、meter name のサブメニューで指定します。
このオプションは、速度計にのみ適用されます。
- **[背景色]** - メータ・ウィジェットを囲む背景で使用する色を選択します。
- **[背景の不透明度]** - このオプションを使用して、背景の不透明度を指定します。1 という値は 100% を意味します。
- ・ meter name - このサブメニューを使用して、メータ・ウィジェットにある個々のメータ (**プロパティ**) をカスタマイズします。このサブメニューには、以下のオプションがあります。
 - **[タイプ]** - メータ・タイプを選択します。[前のセクション](#)で説明したように、既定のタイプは親ウィジェットに指定されているメータ・タイプです。
 - **[データのプロパティ]** - このメータに表示するプロパティを選択します。
 - **[ラベル]** - このメータのラベルを指定します。
 - **[ラベルのスタイル]** - このサブメニューを使用して、このメータのラベルの色、フォント、書体などを指定します。以下はその例です。

Avg Test Score

- **[すべてのメータにスタイルを適用]** - このオプションを使用して、このメータ・ウィジェットにあるその他のすべてのメータにこのメータのスタイルをコピーします。

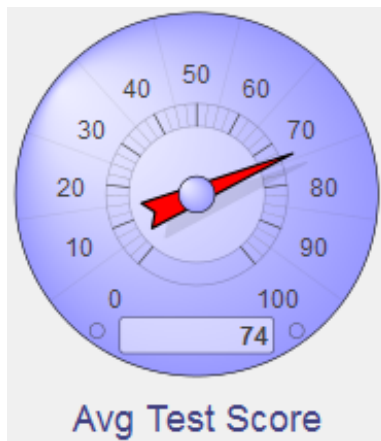
その他のオプションは、メータの種類によって異なります。以下のセクションを参照してください。

- [速度計](#)
- [テキスト・メータ](#)
- [燃料計](#)
- [信号機](#)
- [ライト・バー](#)
- [スマイリー](#)

注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

7.5 速度計のカスタマイズ

速度計は円形のメータで、針は左下から右下まで回転し、特定の範囲にある値を表します。このメータには、数値ラベルが付いた目盛りがあります。以下の例では、メータの範囲は 0 ~ 100 です。



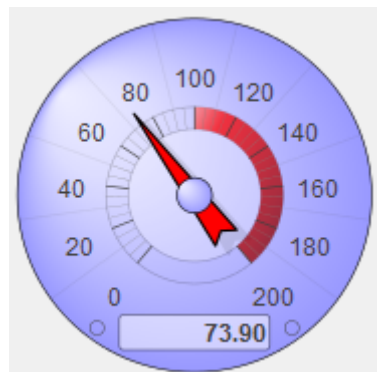
速度計の下部には、オドメーター・ボックスがあります。このボックスには常に、[データ・ソース](#)の実際の値が表示されます（その値がメータの範囲内にない場合でも表示されます）。

速度計をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[メータ]**をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ 共通のオプション – このページで前述した “[メータのカスタマイズ](#)” を参照してください。
- ・ **[範囲の上限]** と **[範囲の下限]** – これらのオプションを使用して、速度計に表示される最大の数字と最小の数字を指定します。以下の例では、これらのオプションの値はそれぞれ、20 と -20 です。

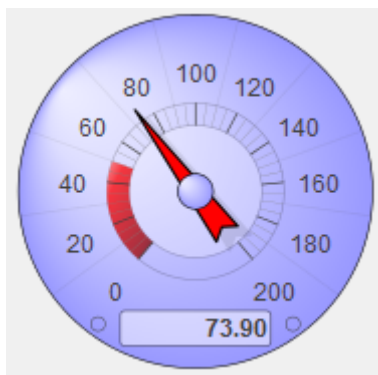


- ・ **[上限のしきい値]** – このオプションを使用して、上限のしきい値を指定します。このしきい値より上の値は、他の部分に対してコントラストを付けた色で表示されます。以下の例では、このオプションの値は 100 です。



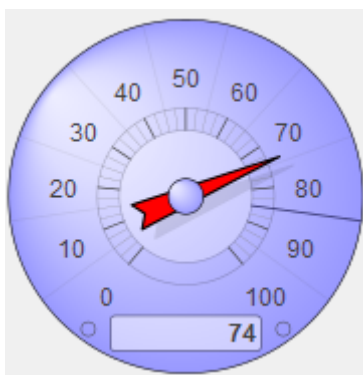
[ウィジェット設定] メニューを使用して、しきい値領域で使用される色を制御します。このページで前述した “[メータのカスタマイズ](#)” を参照してください。

- ・ **【下限のしきい値】**－このオプションを使用して、下限のしきい値を指定します。このしきい値より下の値は、他の部分に対してコントラストを付けた色で表示されます。以下の例では、このオプションの値は 50 です。

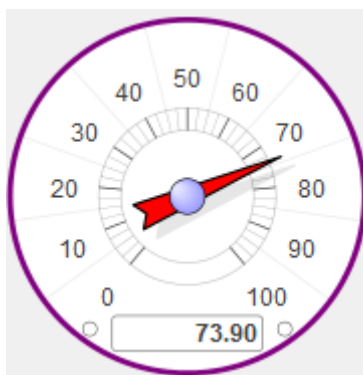


【ウィジェット設定】 メニューを使用して、しきい値領域で使用される色を制御します。このページで前述した [“メータのカスタマイズ”](#) を参照してください。

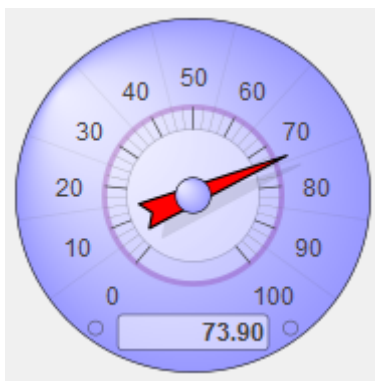
- ・ **【ターゲット値】**－このオプションを使用して、速度計にターゲット線を追加します。以下はその例です。



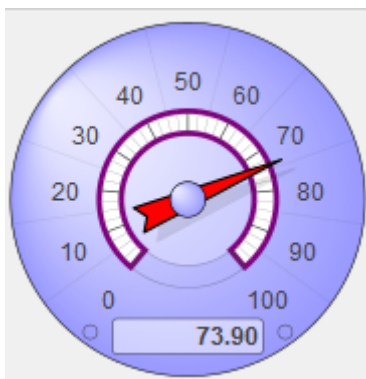
- ・ **【外円】**－このサブメニューを使用して、速度計の外円の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



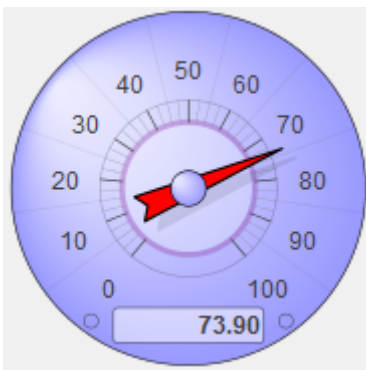
- ・ **【中円】**－このサブメニューを使用して、速度計の中円の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



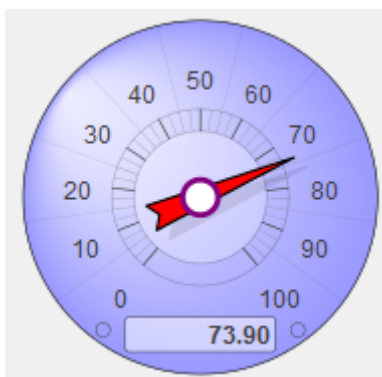
- ・ [リング] – このサブメニューを使用して、中円の内側に接するリングの色とスタイルを指定します。以下はその例です。



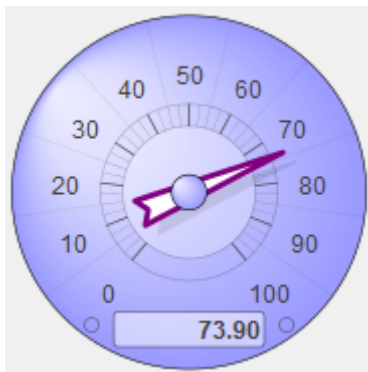
- ・ [内円] – このサブメニューを使用して、内円の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



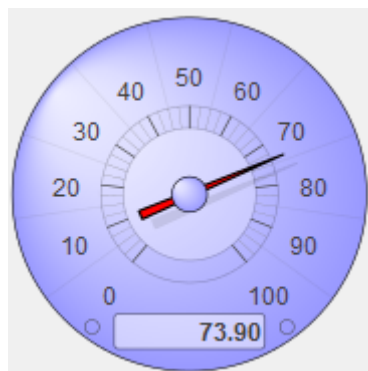
- ・ [ナブ] – このサブメニューを使用して、速度計の中心にあるナブの色とスタイルを指定します。以下はその例です。



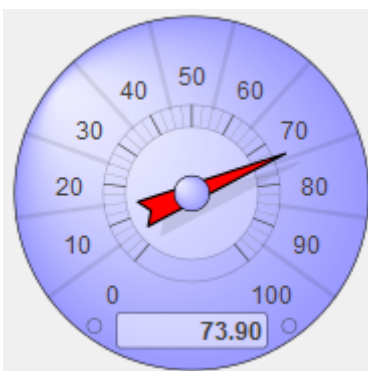
- ・ **【針】**－このサブメニューを使用して、針の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



- ・ **【細い針】**－このオプションを使用して、細い針を表示します。以下はその例です。



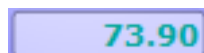
- ・ **【セパレータ】**－このサブメニューを使用して、速度計を放射状に分割するセパレータの色とスタイルを指定します。以下はその例です。



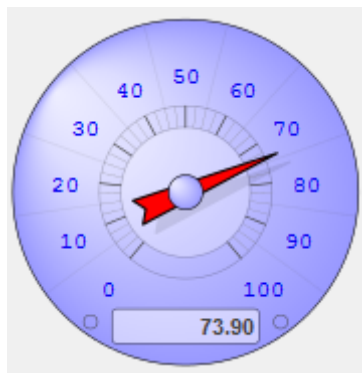
- ・ **【オドメーター・ボックス】**－このサブメニューを使用して、オドメーター・ボックスの色とスタイルを指定します。以下はその例です。



- ・ **【オドメーター】**－このサブメニューを使用して、オドメーター・ボックスに表示される値の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



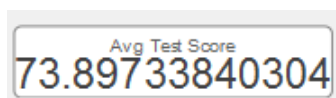
- ・ **【値のスタイル】**－このサブメニューを使用して、速度計に示される値の色とスタイルを指定します。以下はその例です。



注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

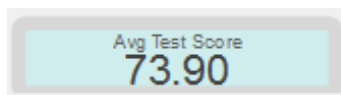
7.6 テキスト・メータのカスタマイズ

テキスト・メータでは、指定された値がテキストとして表示されます。

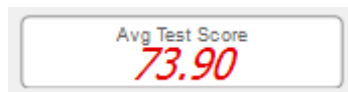


テキスト・メータをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[メータ]をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ 共通のオプション – このページで前述した“[メータのカスタマイズ](#)”を参照してください。
- ・ [バックグラウンド] – このサブメニューを使用して、メータの輪郭線と塗りつぶしをカスタマイズします。以下はその例です。



- ・ [塗りつぶし] – このサブメニューを使用して、メータに表示される値の外観をカスタマイズします。以下はその例です。



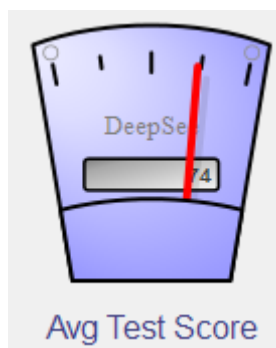
- ・ [低値のスタイル] – このサブメニューを使用して、[下限のしきい値]を下回る値の外観をカスタマイズします。
- ・ [高値のスタイル] – このサブメニューを使用して、[上限のしきい値]を上回る値の外観をカスタマイズします。

注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

7.7 燃料計のカスタマイズ

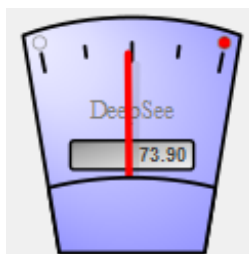
燃料計は左から右に動く針の付いた、細い縦型のメータで、特定範囲〔**範囲の下限**〕と〔**範囲の上限**〕で指定されます。内の値を表します。この燃料計は、左側に〔**範囲の下限**〕があり、この範囲には均等にマーク（つまり 目盛り）が設けられています。

燃料計の中央にあるテキスト・ボックスには現在の値が表示されます。

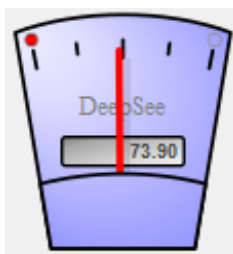


燃料計をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[メータ]**をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

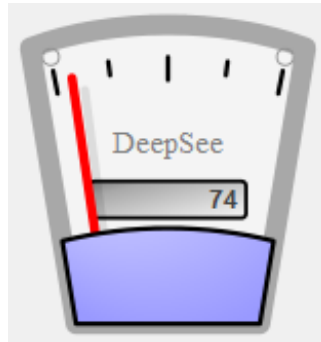
- ・ 共通のオプション – このページで前述した“[メータのカスタマイズ](#)”を参照してください。
- ・ **[範囲の上限]**と**[範囲の下限]** – これらのオプションを使用して、燃料計の目盛りで示される値の範囲を指定します。
- ・ **[上限のしきい値]** – このオプションを使用して、メータの右側に警告灯を追加します。警告灯の色は、メータの値が**[上限のしきい値]**に達したとき、またはその値を上回ったときに変わります。以下はその例です。



- ・ **[下限のしきい値]** – このオプションを使用して、メータの左側に警告灯を追加します。警告灯の色は、メータの値が**[下限のしきい値]**に達したとき、またはその値を下回ったときに変わります。以下はその例です。



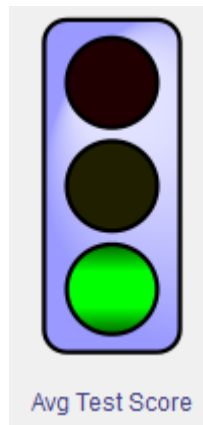
- ・ **[本体のスタイル]** – このサブメニューを使用して、メータの輪郭線と塗りつぶしを制御します。以下はその例です。



注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

7.8 信号機のカスタマイズ

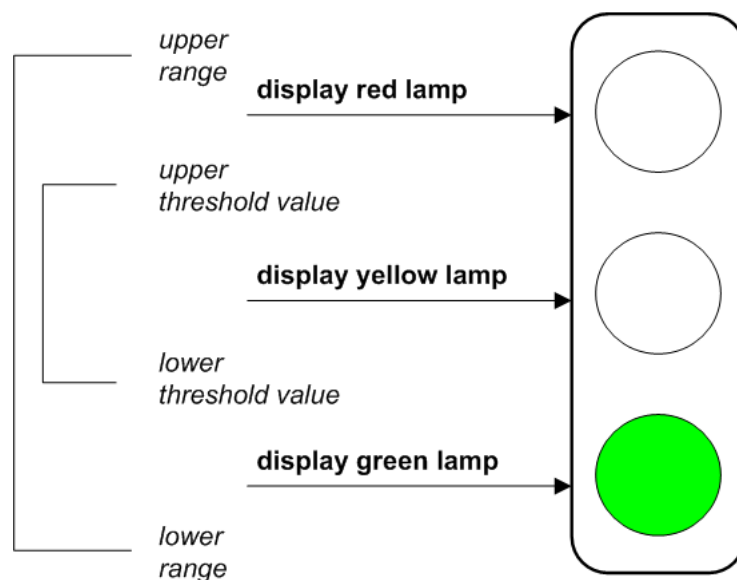
信号機は、3 つの円形ランプを一行に並べたものです。ランプの色は上から下に赤、黄、緑です。



信号機をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[メータ]** をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ 共通のオプション – このページで前述した “[メータのカスタマイズ](#)” を参照してください。
- ・ **[範囲の上限]**、**[範囲の下限]**、**[下限のしきい値]**、および **[上限のしきい値]** – これらのオプションを使用して、信号機の 3 つのランプを制御します。**[範囲の上限]** が **[範囲の下限]** より大きい場合 (既定)、このメータは以下のように点灯します。
 - メータの値が **[下限のしきい値]** 以下の場合、一番下のランプが緑色に点灯します。
 - メータの値が **[下限のしきい値]** と **[上限のしきい値]** との間にある場合、中央のランプが黄色に点灯します。
 - メータの値が **[上限のしきい値]** 以上の場合、一番上のランプが赤色に点灯します。

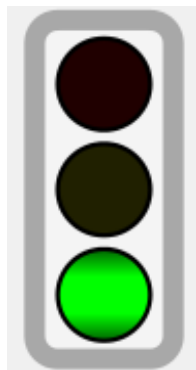
以下の図は、このロジックを示しています。



このシステムは、値が大きいつきに注意が必要である場合に便利でず。

値が低いときに注意が必要な場合もあります。その場合は、メータの意味を逆にできます。そのためには、**【範囲の下限】**を**【範囲の上限】**よりも大きな数値に設定します。この場合、赤のランプが点灯している場合は値が低く、緑のランプが点灯している場合は値が高いことを表します。範囲の値を逆にする際、しきい値も逆にしないでください。

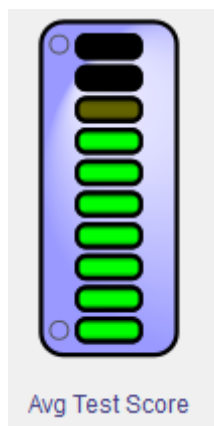
- ・ **【本体のスタイル】** – このサブメニューを使用して、メータの輪郭線と塗りつぶしを制御します。以下はその例です。



注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

7.9 ライト・バーのカスタマイズ

ライト・バーは、複数のランプを縦に積み重ねた垂直のバーです。ライト・バーは信号機に似ていますが、多数のランプが並んでいて、表示範囲の中で値が変化の様子を確認できます。



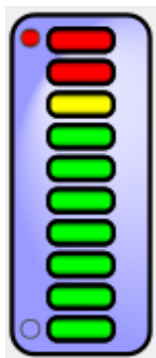
ライト・バーをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**[メータ]**をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ 共通のオプション – このページで前述した“[メータのカスタマイズ](#)”を参照してください。
- ・ **[範囲の上限]**と**[範囲の下限]** – これらのオプションを使用して、ライト・バーで示される値の範囲を指定します。

ライト・バーの表示は、値が最小のときは“オフ”に、最大のときはすべて点灯するようになっています。バーの色は緑（スケールの最下部）から黄色を経由して、赤（スケールの最上部）に変化し、値が大きいときは作業を中止し、問題に対処する必要があることを表します。このシステムは、値が大きいときに注意が必要である場合に便利です。

値が低いときに注意が必要な場合もあります。その場合は、メータの意味を逆にできます。そのためには、**[範囲の下限]**を**[範囲の上限]**よりも大きな数値に設定します。この場合、ランプがすべて点灯している場合は値が低く、ランプが“オフ”のときは値が高いことを表します。範囲の値を逆にする際、しきい値も逆にしないでください。

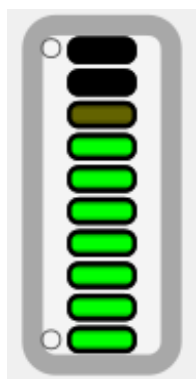
- ・ **[上限のしきい値]** – このオプションを使用して、メータの上端に警告灯を追加します。警告灯の色は、メータの値が**[上限のしきい値]**に達したとき、またはその値を上回ったときに変わります。以下はその例です。



- ・ **[下限のしきい値]** – このオプションを使用して、メータの下端に警告灯を追加します。警告灯の色は、メータの値が**[下限のしきい値]**に達したとき、またはその値を下回ったときに変わります。以下はその例です。



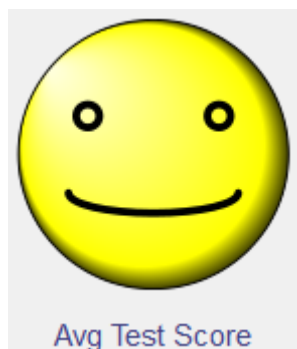
- ・ **【本体のスタイル】** – このサブメニューを使用して、メータの輪郭線と塗りつぶしを制御します。以下はその例です。



注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

7.10 スマイリーのカスタマイズ

笑顔アイコンは、黄色の丸に 2 つの目と笑った口の、よく知られたマークです。口を表すラインは、値に応じて変化します。



スマイリーをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、**【メータ】**をクリックし、メータ名をクリックして、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ 共通のオプション – このページで前述した“[メータのカスタマイズ](#)”を参照してください。

- ・ **【範囲の上限】と【範囲の下限】**－これらのオプションを使用して、以下のようにスマイリーで示される値の範囲を指定します。
 - － メータの値が **【範囲の上限】** に近いとき、メータでは笑顔が表示されます。
 - － 指定範囲内の中間点では、口は水平の線になります。
 - － メータの値が **【範囲の下限】** に近いとき、メータでは不機嫌な表情が表示されます。

このシステムは、値が大きいときが好ましい状況で、値が小さいときが好ましくない状況である場合に便利です。

値が低いときに注意が必要な場合もあります。その場合は、メータの感度を逆にできます。そのためには、**【範囲の下限】**を**【範囲の上限】**よりも大きな数値に設定します。この場合、値が低いときは笑顔、高いときは不満な顔になります。

- ・ **【ペルソナ】**－このオプションを使用して、このメータに表示される顔のタイプを制御できます。以下はその例です。



注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“[テーマの定義と使用](#)”で説明します。テーマでは、このページで説明するオプションの多くを使用します。

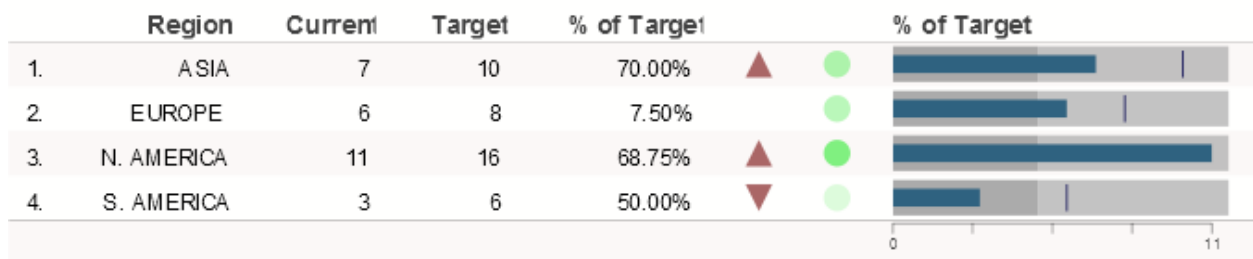
8

スコアカード・ウィジェットの追加

ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)にスコアカード・ウィジェットを追加する方法を説明します。

8.1 スコアカードの概要

スコアカード・ウィジェットは、以下のように一連の行を表示します。



スコアカードの列は、以下のように構成できます。

- ・ KPI またはプロダクション・ビジネス・メトリックの場合、その項目の各プロパティをスコアカードの列として使用できます。
- ・ ピボット・テーブルの場合、その項目の各列をスコアカードの列として使用できます。

いずれの場合も、スコアカードの列として使用する項目を選択し、列の順番を指定します。

ピボット・テーブルの作成方法の詳細は、“[アナライザの使用法](#)”を参照してください。KPI の作成方法の詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。プロダクション・ビジネス・メトリックの作成方法の詳細は、“[プロダクションの開発](#)”を参照してください。



8.1.1 スコアカードにおけるメジャーが 1 つのピボット・テーブル

1 つのメジャーのみ表示するピボット・テーブルを作成する場合、ピボット・テーブルをスコアカードに表示するには、特定の 방법으로そのピボット・テーブルを作成する必要があります。具体的には、アナライザで [メジャー] ボックスではなく [列] ボックスにメジャーをドラッグ・アンド・ドロップします。

行	列	メジャー	コメント
任意	1 つのメジャー	何もありません	このピボット・テーブルはスコアカードに表示できます。
任意	何もありません	1 つのメジャー	このピボット・テーブルはスコアカードに表示できません。この場合、メジャーは MDX フィルタとして使用され、スコアカードのプロパティとして構成できません。



8.2 スコアカード・ウィジェットの追加

スコアカード・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. [スコアカード] をクリックします。
3. [標準] または [大] をクリックします。
4. [データソース] で、以下のいずれかを実行します。
 - ・ 検索ボタン  をクリックし、[データ・ソース](#)を選択します。
 - ・ [リンク先] ドロップダウン・リストを使用して、同じダッシュボードの別のウィジェットを選択します。
5. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)” の説明に従って基本設定を指定します。
6. [OK] をクリックします。
7. オプションとして、ミニ・アナライザを有効または無効にします。これを行うには、[ウィジェット設定] メニューにアクセスして [アナライザ] オプションを使用します。このオプションは、このウィジェットでミニ・アナライザ  ボタンを表示するかどうかを制御します。
このオプションは、[データ・ソース](#)がピボット・テーブルの場合のみサポートされます。
8. [スコアカードの列](#)を 1 つ以上追加します。
9. 必要に応じて、このページの残りの部分での説明に従ってウィジェットをさらに詳細に構成します。
10. 必要に応じて、[ウィジェット・コントロール](#)を追加します。

8.3 スコアカードのウィジェット設定の指定

スコアカードの場合は、[ウィジェット設定] メニューには以下のオプションがあります。

- ・ [印刷] — このオプションを選択すると、ツールバーに印刷ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、ウィジェットを PDF ファイルに出力できます。詳細および要件は、“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)” を参照してください。
- ・ [アナライザ] — このオプションを選択すると、ツールバーにミニ・アナライザ・ボタン  が追加されます。このボタンを使用すると、[データ・ソース](#)をミニ・アナライザで開くことができます。
このオプションは、[データ・ソース](#)がピボット・テーブルの場合のみサポートされます。

注釈 これらのオプションによって、ツールバーに 1 つのボタンが追加されます。これらのオプションを使用する場合は、ツールバーが表示されていることを確認します (ツールバーの表示は [設定] の [ツールバー] オプションで制御します)。["ウィジェットの再構成"](#) を参照してください。

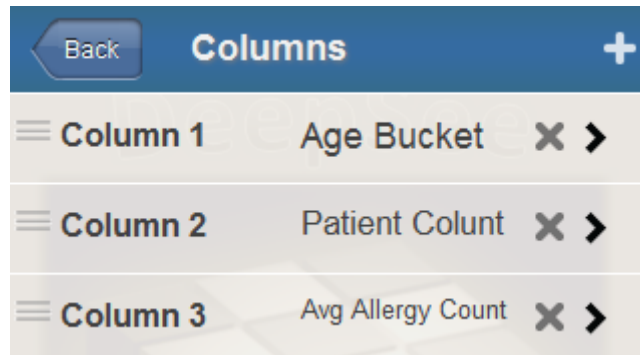
8.4 列の追加

列を追加するまで、スコアカードにはデータは表示されません。スコアカードの列は一般的に、[データ・ソース](#)のプロパティに基づいています。ただし、スコアカードの列に単に項目の名前や番号が表示されるだけで、データ・ソースのプロパティが使用されない場合があります。

列をスコアカードに追加する手順は以下のとおりです。

1. ["ウィジェットの再構成"](#) の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [スコアカード] をクリックします。
3. [列] をクリックします。

このスコアカードに対して定義された列のリストが表示されます。以下はその例です。



4. プラス記号 (+) ボタンをクリックします。
列を指定するダイアログ・ボックスが表示されます。
5. [値] で、[データ・ソース](#)のプロパティを選択するか、数値定数または[数式](#)を入力します。
6. 必要に応じて、以下の追加項目を指定します。
 - ・ [ラベル] – ラベルを入力します。または、必要に応じて、[ラベル] の右側にあるチェック・ボックスにチェックを付けます。このチェック・ボックスにチェックを付けた場合は、このプロパティのローカライズ名がラベルとして使用されます。このオプションは、[値] が[データ・ソース](#)のプロパティである場合にのみ適用されます。
ラベルを入力する場合は、ラベルに \n を記述するとラベルのテキストを強制改行できます。
 - ・ [隠し] – このオプションを選択して、この値を非表示にします。
 - ・ [値列] – このオプションを選択して、この列の値を行の値として構成します。この値は、カスタム・アクションに渡されます。["行の値の指定"](#) を参照してください。
ウィジェットの 1 つのデータ・プロパティに対してのみこのオプションを選択できます。
 - ・ [書式] – [形式文字列](#)を入力します。
7. [OK] をクリックします。
8. このページの残りの部分での説明に従って列を構成します。







列の削除および再配置に関する詳細は、“[ウィジェット・プロパティの管理](#)”を参照してください。

8.5 スコアカードの列の構成

スコアカードの列を構成する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [スコアカード] をクリックします。
3. [列] をクリックします。
このスコアカードに対して定義された列のリストが表示されます。
4. 構成する列を選択します。
5. このリストの後に示す説明に従ってオプションを選択します。
6. ダッシュボードを保存します。

[表示] オプションにより、プロパティの他の選択肢の大半を制御します。[表示] で以下のいずれかを選択します。

表示オプション	サンプル	参照先
項目番号	1.	行番号の列の追加
ラベル	Cedar Falls	行ラベルの列の追加
値	1126	値の列の追加
針		針の追加
ランプ	 または 	ランプの追加
トレンド・ライン		トレンド・ラインとトレンド・バーの追加
トレンド・バー		
プロット・ボックス		プロット・ボックスの追加
Hidden	対応していません。このプロパティは表示されません。	

その他のオプションは以下のとおりです。

- ・ [値] – この列に表示する値があれば、それを指定します。データ・ソースのプロパティを選択するか、数値定数または[数式](#)を入力します。
[表示] が [項目番号] または [ラベル] に設定されている場合は、このオプションを省略できます。
- ・ [ラベル] – この列のヘッダを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ [セル・キャプション] – この列の各セルに配置するオプションのキャプションを指定します。

以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$128.56
Cereal	\$47.41
Dairy	\$90.46

- ・ **[ヘッダの配置]**－この列の列ヘッダの配置方法を指定します。
- ・ **[配置]**－この列における値の配置方法を指定します。
- ・ **[幅]**－この列の幅を指定します。
ダッシュボード・エディタの **[サイズと外観]** [メニュー](#) で列の幅を変更することもできます。
- ・ **[表示対象]**－値自体を表示するのか、別の値に占める割合として表示するのかなどを制御します。以下のいずれかを選択します。
 - － **[値]**－**[値]** を表示します。これが既定の設定です。
 - － **[条件]**－指定されたプロパティが定義されている場合に、その値を **[値]** に表示します。プロパティが定義されていないと、列は表示されません。
 - － **[合計]**－**[値]** で指定された値の合計を表示します。
 - － **[ターゲット]**－**[ターゲット値]** を表示します。
 - － **[合計のパーセント]**－**[値]** に指定された値が合計に占める割合として **[値]** を表示します。
 - － **[ターゲットのパーセント]**－同じ行の **[ターゲット値]** に占める割合として **[値]** を表示します。
- ・ **[要約]**－この列のフッタに表示する内容があれば、それを制御します。以下のいずれかを選択します。
 - － **[合計]**－集計値は、列内の値の合計です。
 - － **[平均]**－集計値は、列内の値の平均です。
 - － **[最大]**－集計値は、列内の最大値です。
 - － **[最小]**－集計値は、列内の最小値です。
 - － **[値]**－集計値は、他の列の集計値に関連して指定されます。このオプションを選択すると、**[集計値]** フィールドが表示されます。このフィールドで、スコアカードの他の列を参照する **数式** を指定します。以下はその例です。

=Sales-Cost

列を参照するには、列の **[ラベル]** に対して指定した名前を使用します。

- ・ **[書式]**－この列における数値の **形式** を指定します。
- ・ **[スタイル]**－この列にグラフィカル・オブジェクトが存在する場合に、その色と線のスタイルを制御します。“**線のスタイルの指定**” を参照してください。
- ・ **[最小値]** と **[最大値]**－列にプロット・ボックスが表示される場合に表示する最小値と最大値を指定します。これについてはこのページで **後述** します。
[最小値] は **針** にも影響します。**[最大値]** は **ランプ** にも影響します。
- ・ **[ターゲット値]**－データ値と比較する値を指定します。**データ・ソース** のプロパティを選択するか、数値定数または **数式** を入力します。

[表示] が **[項目番号]** または **[ラベル]** に設定されている場合は、このオプションを省略できます。

- ・ [下限] と [上限] – [プロット・ボックス](#)の外観を制御します。これについてはこのページで後述します。
- ・ [値列] – この列にカスタム・アクションに渡す値が含まれている場合は、このオプションを選択します。

8.6 スコアカードの数式の指定

スコアカードの列の [値] オプションと [ターゲット値] オプションには、数式を使用できます。ルールは以下のとおりです。

- ・ 最初の文字は、等号記号 (=) とする必要があります。
- ・ 数式には、以下の部分を含めることができます。
 - データ・ソースのプロパティの名前 ([値] ドロップダウン・リストで指定)
名前にスペースや演算子として解釈される文字が含まれる場合は、その名前を角括弧で囲む必要があります。
以下はその例です。

```
=[Total Sales]/100
```

- 100 などの数値定数
- "my string" などの文字列定数
- 標準的な算術演算子：+ (加算)、- (減算)、/ (除算)、および * (乗算)
- 論理比較演算子：> (より大きい)、>= (以上)、= (等しい)、< (より小さい)、<= (以下)。
- 括弧

値 0 および "0" は False として処理されます。また、他のすべての数値および文字列値は True として処理されます。

- ・ 数式には、以下の関数も含めることができます。
 - IF(test-value,value-if-test-true,value-if-test-false) では、値 (test-value) を評価して、論理値が True の場合 value-if-test-true を返し、論理値が False の場合、value-if-test-false を返します。
例えば、以下の数式は 25 を返します。

```
=IF(1,25,99)
```

以下の数式は、PatCount プロパティの値に応じて、"abc" または "def" を返します。

```
=IF(PatCount>1130,"abc","def")
```

- AND(value1,value2,value3, ...) は、指定された値のすべてが true の場合、true を返します。
- OR(value1,value2,value3, ...) は、指定された値の 1 つ以上が true の場合、true を返します。
- CONCAT(value1,value2,value3, ...) は、指定された値を連結した値を返します。

数式は、以下の場所でも使用できます。

- ・ プロット・ボックスの場合、[最小値]、[最大値]、[下限]、[上限]、および [ベース値] のオプション。[“プロット・ボックスの追加”](#) を参照してください。
- ・ 列の集計の場合、[集計値] オプション。このオプションでは、他の列の集計に関連して列の集計が示されます。

この場合、数式はスコアカード・プロパティを参照できませんが、[ラベル] オプションで指定された名前を使用してスコアカードの列を参照できます。

8.7 行番号の列の構成

スコアカードには、行番号の列を作成できます (通常は最初の列に作成されます)。以下に例を示します。

	City
1.	Cedar Falls
2.	Centerville
3.	Cypress

このような列を作成するには、列を追加し、以下のオプションを使用してその列を構成します。

- ・ **[表示] – [項目番号]** を選択します。
列には項目番号が含まれます。
- ・ **[ラベル]** – 必要に応じて、列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。

8.8 行ラベルの列の構成

スコアカードには、行ラベルの列を作成できます (通常は最初の列に作成されます)。以下に例を示します。

City	
1.	Cedar Falls
2.	Centerville
3.	Cypress

このような列を作成するには、列を追加し、以下のオプションを使用してその列を構成します。

- ・ **[表示] – [ラベル]** を選択します。
KPI の場合、KPI テスト・ページに示すように、列には行の名前が格納されます。
- ・ **[ラベル]** – 必要に応じて、タイトルとして使用するテキストを入力します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。

8.9 値の列の構成

以下の例のように、一般的なスコアカードには数値を表示する列があります。

Product	Revenue
Candy	\$128.56
Cereal	\$47.41
Dairy	\$90.46
Fruit	\$2170.99
Pasta	\$1361.59
Seafood	\$3128.21
Snack	\$4787.35
Vegetable	\$964.17
	\$12678.74

このような列を作成するには、列を[追加](#)し、以下のオプションを使用してその列を[構成](#)します。

- ・ **[表示]** – **[値]** をクリックします。これが既定の設定です。
- ・ **[値]** – 表示する値を指定します。[データ・ソース](#)のプロパティを選択するか、値または[数式](#)を入力します。
- ・ **[ラベル]** – 列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ **[ターゲット値]** – 必要に応じて、指定されたデータ値との比較に使用するターゲット値を指定します。[データ・ソース](#)のプロパティを選択するか、値または[数式](#)を入力します。
- ・ **[表示対象]** – “[スコアカードの列の構成](#)” で説明した任意のオプションを使用します。
- ・ **[書式]** – 必要に応じて、[形式文字列](#)を指定します。

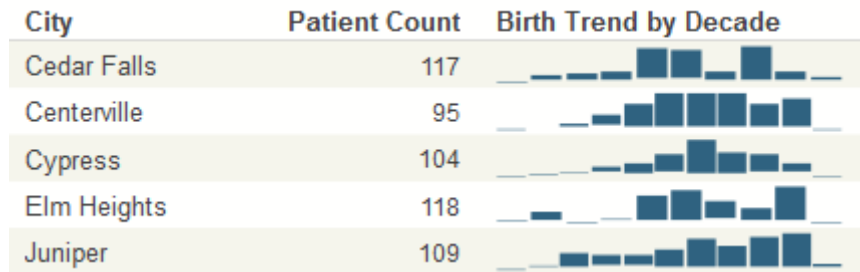
行の値が必要なカスタム・アクションを構成する場合にのみ、**[値列]** を使用します。“[行の値の指定](#)” を参照してください。

8.10 トレンド・ラインとトレンド・バーの構成

スコアカードの列には、トレンド・ラインまたはトレンド・バーを表示できます。以下にトレンド・ラインの例を示します。

Product	Revenue	History	Target
Bagels (dozen)	166		148
Bundt Cake	2,101		1,367
Calamari (frozen)	3,128		3,041
Cheerios (box)	47		39
Donuts (dozen)	208		273
Free-range Donuts (dozen)	1,610		1,350

以下にトレンド・バーの例を示します。



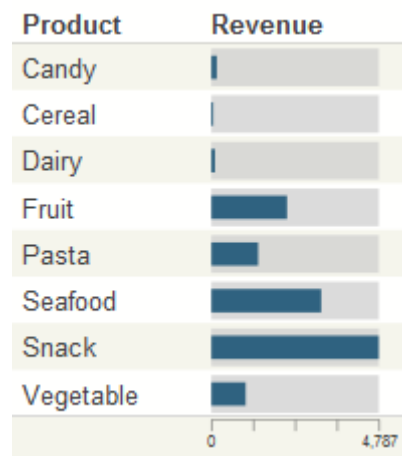
このような列を作成するには、列を追加し、以下のオプションを使用してその列を構成します。

- ・ **[表示]** – **[トレンド・ライン]** または **[トレンド・バー]** をクリックします。
- ・ **[値]** – トレンド・ラインまたはトレンド・バーに表示する値を指定します。コンマで区切られた値のリストが含まれている **データ・ソース** プロパティを選択します。
あるいは、コンマで区切られた値のリストを入力します。
- ・ **[ラベル]** – 列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ **[表示対象]** – **[値]** をクリックします。

Tip ヒントトレンド・ラインとトレンド・バーは KPI の場合にのみ表示できます。これは、コンマで区切られた値の列を扱うことができるのは KPI のみであるからです。MDX ベースの KPI では、**%LIST** 関数を使用してコンマで区切られたリストを作成できます。

8.11 プロット・ボックスの構成

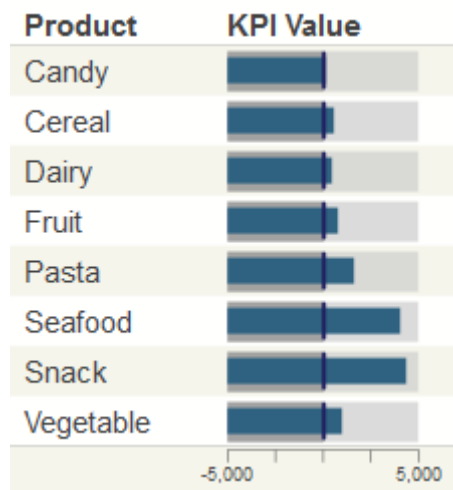
以下の例のように、スコアカードの列にはプロット・ボックスを表示できます。



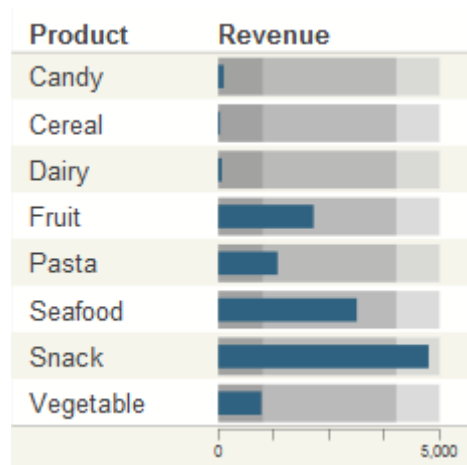
このような列を作成するには、列を追加し、以下のオプションを使用してその列を構成します。

- ・ **[表示]** – **[プロット・ボックス]** をクリックします。
- ・ **[値]** – プロット・ボックスに表示する値を指定します。データ・ソースのプロパティを選択するか、値または数式を入力します。
- ・ **[ラベル]** – 列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ **[最小値]** – 必要に応じて、プロット・ボックスに表示する最小の値を指定します。既定値は 0 です。

以下の例では、[最小値] の値は -5000 で、[最大値] の値は 5000 です。



- ・ **[最大値]** – 必要に応じて、プロット・ボックスに表示する最大の値を指定します。既定値は、列に表示されている最大の値です。前の例を参照してください。
- ・ **[下限]** – 必要に応じて、ボックスを下限バンドと中間バンドに分割するための値を指定します。以下の例では、**[下限]** の値は 1000、**[上限]** の値は 4000 です。これらのオプションによって、プロット・ボックス内に、下限バンド (1000 未満)、中間バンド (1000 ~ 4000)、および上限バンド (4000 以上) の 3 つのバンドが定義されます。



- ・ **[上限]** – 必要に応じて、ボックスを中間バンドと上限バンドに分割するための値を指定します。前の例を参照してください。
- ・ **[ターゲット値]** – 必要に応じて、指定されたデータ値との比較に使用するターゲット値を指定します。既定は 0 です。**データ・ソース**のプロパティを選択するか、値または**数式**を入力します。
プロット・ボックスには、以下のようにターゲット値を示す縦線が追加されます。



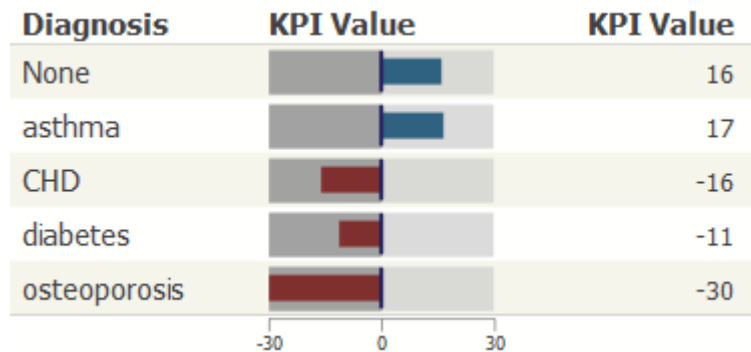
これらの縦線を削除するには、**[ターゲット値]** にプロット・ボックスの範囲にない値を設定します。

比較値を使用する別の方法については、**[ベース値]** オプションも参照してください。

- ・ **[ベース値]** – 必要に応じて、プロット・ボックス内に視覚的な境界線を作成するための値を指定します。ベース値は以下のように使用されます。

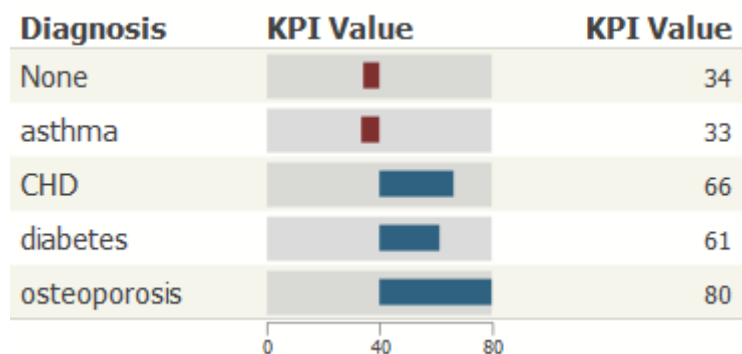
- 実際の列値がベース値を下回る場合、棒は他の部分に対してコントラストのある色 (既定では赤色) で表示されます。
- いずれの場合も、棒は実際の列値とベース値の間に描画されます。

ベース値が 0 の例を以下に示します。この例には、プロット・ボックスで使用する実際の値を表示する追加の列が含まれています。



このプロット・ボックスには、値 0 の位置に縦線があります。これらの線が描画されているのは、[ターゲット値] の値が 0 (既定値) であるためです。

ベース値を 40 とした別の例を以下に示します。



8.12 矢印の構成

以下の例に示すように、スコアカードの列に三角形の矢印を表示できます。

Product	Revenue	Revenue
Candy	▼	●
Cereal	▲	●
Dairy	▼	●
Fruit	▼	●
Pasta	▲	●

矢印により、指定された値が目的の範囲内のどこにあるかを迅速に確認する方法が提供されます。以下のように機能します。

- ・ これらは**データ・ソース**のプロパティ (または定数) をソース値として使用します。
- ・ **[最小値]** 設定がゼロ未満の場合、以下ようになります。
 - － ソース値が負の場合、矢印は下向きの三角形として表示されます。
 - － ソース値がゼロの場合、矢印は表示されません。
 - － ソース値が正の場合、矢印は上向きの三角形として表示されます。
- ・ **[最小値]** 設定がゼロ以上の場合、以下ようになります。
 - － ソース値が**[最小値]** 未満の場合、矢印は下向きの三角形として表示されます。
 - － ソース値が**[最小値]** と等しい場合、矢印は表示されません。
 - － ソース値が**[最小値]** より大きい場合、矢印は上向きの三角形として表示されます。

このような列を作成するには、列を**追加**し、以下のオプションを使用してその列を**構成**します。

- ・ **[表示]** – **[矢印]** を選択します。
- ・ **[値]** – 矢印に表示する値を指定します。**データ・ソース**のプロパティを選択するか、値または**数式**を入力します。
- ・ **[ラベル]** – 列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ **[表示対象]** – “**スコアカードの列の構成**” で説明した任意の値を使用します。
- ・ **[最小値]** – 前述のように矢印の向きを制御する値を指定します。

8.13 ランプの構成

以下の例に示すように、スコアカードの列に円形ランプを表示できます。

Product	Revenue	Revenue
Candy	▼	●
Cereal	▲	●
Dairy	▼	●
Fruit	▼	●
Pasta	▲	●

ランプにより、指定された値が目的の範囲内のどこにあるかを迅速に確認する方法が提供されます。以下のように機能します。

- ・ これらは**データ・ソース**のプロパティ (または定数) をソース値として使用します。
- ・ ソース値が負の場合、ランプは赤い円として表示されます。
- ・ ソース値がゼロの場合、ランプは表示されません。
- ・ ソース値が正の場合、ランプは緑の円として表示されます。
- ・ 円の不透明度は、ソース値の絶対値を**[最大値]** の絶対値で除算することによって決まります。**[最大値]** が指定されていない場合、ランプは列の最大値を使用します。

このような列を作成するには、列を**追加**し、以下のオプションを使用してその列を**構成**します。

- ・ [表示] – [ランプ] または [値付きランプ] を選択します。
- ・ [値] – ランプに表示する値を指定します。データ・ソースのプロパティを選択するか、値または数式を入力します。
- ・ [ラベル] – 列ヘッダとして使用するテキストを指定します。\\n を含めると、このラベルで強制改行ができます。
- ・ [表示対象] – “スコアカードの列の構成” で説明した任意の値を使用します。
- ・ [最大値] – 前述のようにランプの不透明度を制御する最大値を指定します。

8.14 スコアカード・ウィジェットの外観のカスタマイズ

スコアカード・ウィジェットの外観のカスタマイズに使用できるオプションが豊富に用意されています。これらのオプションにアクセスするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“ウィジェットの再構成” の説明に従ってウィジェットを選択して、[スコアカード] セクションのオプションを表示します。

- ・ [スコアカード]→[サイズと外観] – スコアカード全体を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [スコアカード]→[タイトル] – スコアカード内のタイトルのテキストとフォーマット設定を制御するためのオプションを提供します。
- ・ [スコアカード]→[色とスタイル] – スコアカード内の色と線のスタイルを制御するためのオプションを提供します。

以下のサブセクションで詳細を説明します。

注釈 ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。これについては、“テーマの定義と使用” で説明します。テーマでは、以降のサブセクションで説明するオプションの多くを使用します。

8.14.1 サイズと外観のオプション

スコアカードの全体的なサイズと外観をカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“ウィジェットの再構成” の説明に従ってウィジェットを選択して、[スコアカード]→[サイズと外観] をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ [サイズ] – スコアカードのサイズを選択します ([標準] または [大])。
- ・ [タイトルを表示] – このオプションを使用して、スコアカードのタイトルを表示または非表示にします。
- ・ [ヘッダ表示] – このオプションを使用して、スコアカードのヘッダを表示または非表示にします。
- ・ [フッタを表示] – このオプションを使用して、スコアカードのフッタを表示または非表示にします。
- ・ [行の高さ] – このオプションを使用して、スコアカードの行の高さを制御します。
- ・ [矢印のサイズ] – このオプションを使用して、スコアカード内の矢印の高さを制御します。この設定と以下の設定は、スコアカードの列ごとに別々の設定にすることができます。
- ・ [ランプのサイズ] – このオプションを使用して、スコアカード内のランプの高さを制御します。
- ・ [トレンド・ラインの高さ] – このオプションを使用して、スコアカード内のトレンド・ラインの高さを制御します。
- ・ [トレンド・バーの高さ] – このオプションを使用して、スコアカード内のトレンド・バーの高さを制御します。
- ・ [プロット・ボックスの高さ] – このオプションを使用して、スコアカード内のプロット・ボックスの高さを制御します。以下の例では、プロット・ボックスは既定よりやや高くなっています。

Product	KPI Value
Candy	<div><div></div></div>
Cereal	<div><div></div></div>
Dairy	<div><div></div></div>

この例では、値ボックスの高さを制御する[プロット・ボックスの値]も使用しています(値ボックスは既定よりやや低く表示されています)。

- ・ [プロット・ボックスの値] – このオプションを使用して、スコアカードの**プロット・ボックス**内の値ボックスの高さを制御します。前の例を参照してください。
- ・ [1カラム]、[2カラム]、[3カラム] など – これらのオプションを使用して、それぞれの列の幅を制御します。ダッシュボード・エディタの[スコアカード]→[列] **メニュー**で列の幅を変更することもできます。

8.14.2 タイトルのオプション

スコアカード内のタイトルをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[スコアカード]→[タイトル]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ [タイトル] – このオプションを使用して、スコアカード内に表示されるオプションのタイトルを指定します。
- ・ [タイトルのスタイル] – このサブメニューを使用して、スコアカードのタイトルのスタイルを制御します。
“[グラフのテキスト・スタイルの指定](#)”を参照してください。
- ・ [サブタイトル] – このオプションを使用して、スコアカード内に表示されるオプションのサブタイトルを指定します。
- ・ [サブタイトルのスタイル] – このサブメニューを使用して、スコアカードのサブタイトルのスタイルを制御します。
“[グラフのテキスト・スタイルの指定](#)”を参照してください。
- ・ [タイトルの文字位置] – このオプションを使用して、タイトルとサブタイトルの配置を制御します。これらのタイトルは、左揃え、中央揃え、または右揃えに配置できます。
- ・ [タイトル・ボックス] – このサブメニューを使用して、タイトルとサブタイトルを囲むオプションのボックスを追加します。
“[線のスタイルの指定](#)”を参照してください。
- ・ [タイトル・イメージ] – このオプションを使用して、タイトルにオプションのイメージを追加します。
- ・ [イメージの幅]、[イメージの高さ]、[イメージを上]、および[イメージを左] – これらのオプションを使用して、オプションのタイトル・イメージのサイズと位置を制御します。

グラフには、類似したオプションのセットがあります。例は、“[タイトルとラベル](#)”を参照してください。

8.14.3 色とスタイルのオプション

スコアカード内の色と線のスタイルをカスタマイズするには、ダッシュボード・エディタにアクセスし、“[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従ってウィジェットを選択して、[スコアカード]→[色とスタイル]をクリックし、そこに表示されているオプションを使用します。以下のオプションを使用できます。

- ・ [バックグラウンド] – このサブメニューを使用して、スコアカードを囲む背景の**スタイル**を制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02
Fruit	\$783.48
Pasta	\$1646.22
Seafood	\$4048.52
Snack	\$4335.66
Vegetable	\$962.93
\$12985.36	

- ・ **[ストライプ]** – このサブメニューを使用して、スコアカード内のストライプのスタイルを制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02
Fruit	\$783.48
Pasta	\$1646.22
Seafood	\$4048.52
Snack	\$4335.66
Vegetable	\$962.93
\$12985.36	

- ・ **[セパレータ]** – このサブメニューを使用して、スコアカードとヘッダおよびフッタとの間のセパレータのスタイルを制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02
Fruit	\$783.48
Pasta	\$1646.22
Seafood	\$4048.52
Snack	\$4335.66
Vegetable	\$962.93
\$12985.36	

- ・ **【ラベルのスタイル】**—このサブメニューを使用して、スコアカード内の**ラベル**の**テキスト・スタイル**を制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02
Fruit	\$783.48
Pasta	\$1646.22
Seafood	\$4048.52
Snack	\$4335.66
Vegetable	\$962.93
	\$12985.36

- ・ **【値のスタイル】**—このサブメニューを使用して、スコアカード内の**値**の**テキスト・スタイル**を制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02
Fruit	\$783.48
Pasta	\$1646.22
Seafood	\$4048.52
Snack	\$4335.66
Vegetable	\$962.93
	\$12985.36

- ・ **【セルキャプションのスタイル】**—このサブメニューを使用して、スコアカード内のセル・キャプションの**テキスト・スタイル**を制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94 Cell Caption
Cereal	\$592.59 Cell Caption
Dairy	\$457.02 Cell Caption

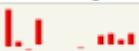


- ・ **【ヘッダ】**—このサブメニューを使用して、スコアカード内の列ヘッダの**テキスト・スタイル**を制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	\$158.94
Cereal	\$592.59
Dairy	\$457.02




- ・ [トレンド・ライン] – このサブメニューを使用して、スコアカード内のトレンド・ラインのスタイルを制御します。以下はその例です。

Product	History
Candy	
Cereal	
Dairy	






- ・ [トレンドバーのスタイル] – このサブメニューを使用して、スコアカード内のトレンド・バーのスタイルを制御します。以下はその例です。

Product	History
Candy	
Cereal	
Dairy	

- ・ [矢印のスタイル] – このサブメニューを使用して、スコアカード内の矢印のスタイルを制御します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	
Cereal	
Dairy	

- ・ [ランプの色] – このオプションを使用して、スコアカードの中で、値が正の場合にランプに表示する色を指定します。以下はその例です。

Product	Revenue
Candy	
Cereal	
Dairy	
Fruit	
Pasta	

- ・ [ランプの色 (負の値用)] – このオプションを使用して、スコアカードの中で、値が負の場合にランプに表示する色を指定します。前の例を参照してください。
- ・ [ランプの値のスタイル] – このサブメニューを使用して、スコアカード内のランプの値のテキスト・スタイルを制御します。以下はその例です。

Product	KPI Value
Candy	4
Cereal	5
Dairy	
Fruit	-1
Pasta	-1

- ・ [プロットボックス]→[値のスタイル]ー このサブメニューを使用して、スコアカードの**プロット・ボックス**内の値の**スタイル**を制御します。以下の例では、値が青色のボックスとして表示されています。

Product	Revenue
Candy	
Cereal	
Dairy	

- ・ [プロットボックス]→[ベース以下のスタイル]ー このサブメニューを使用して、スコアカードの**プロット・ボックス**に構成された [ベースの値] を下回る値の**スタイル**を制御します。以下の例では、[ベース値] は 0 で、[ベース値未満の値のスタイル] は鮮やかな赤です。

Diagnosis	KPI Value	KPI Value
None		16
asthma		17
CHD		-16
diabetes		-11
osteoporosis		-30
	-30 0 30	

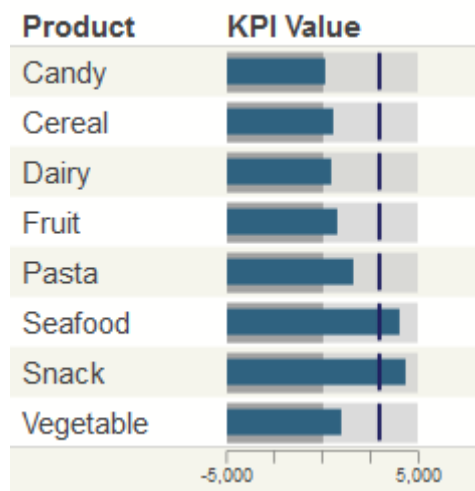
- ・ [プロットボックス]→[ボックス・スタイル]ー このサブメニューを使用して、スコアカード内の**プロット・ボックス**の囲みボックスの**スタイル**を制御します。以下の例では、ボックスは既定のグレーではなく紫色になっています。

Product	Revenue
Candy	
Cereal	
Dairy	

- ・ [プロットボックス]→[低い方のスタイル]ー このサブメニューを使用して、スコアカードの**プロット・ボックス**にオプションで指定する下限バンドの**スタイル**を制御します。下限バンドは、指定された [下限のしきい値] を下回る値を示します。以下の例では、下限バンドは赤で、中間バンドは緑です。

Product	Revenue
Candy	
Cereal	
Dairy	

- ・ [プロット・ボックス]→[中間のスタイル]—このサブメニューを使用して、スコアカードの**プロット・ボックス**にオプションで指定する中間バンドのスタイルを制御します。中間バンドは、指定された**[下限のしきい値]**を上回るが、**[上限のしきい値]**は下回る値を示します。前の例を参照してください。
- ・ [プロットボックス]→[ターゲットのスタイル]—スコアカードの**プロット・ボックス**にターゲット線を指定している場合に、このサブメニューを使用してターゲット線の**スタイル**を制御します。以下はその例です。



ターゲット線の位置は、**[ターゲット値]** オプションで制御します。

9

その他のウィジェットの追加

ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)にその他の種類のウィジェットを追加する方法を説明します。

ダッシュボード・エディタには[ワークシート] オプションもありますが、このオプションに関する文書による説明はありません。ワークシートは非推奨になりました。

9.1 カレンダー・ウィジェットの追加

ダッシュボードには、以下のようなカレンダー・ウィジェットを含めることができます。

«	Day	Week	Month	»		
May 2011						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

カレンダー・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. 左の領域で [カレンダー]、[カレンダー] の順にクリックします。
3. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)” の説明に従って基本設定を指定します。
4. [OK] をクリックします。

ダッシュボードを開くと、このウィジェットでは情報提供のために現在の月が表示されます。

9.2 マップ・ウィジェットの追加

キューブに緯度と経度のデータが含まれている場合、ダッシュボードに以下のようなマップ・ウィジェットを含めることができます。



重要 このウィジェットでは Google Maps API が使用されます。この API が利用条件 (Terms of Use) に従って使用されていることを確認してください。利用条件には、上図のウィジェット内のリンクからアクセスできます。

マップ・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. Google Maps API のキーを取得して入力します。詳細は、“[基本設定の指定](#)”を参照してください。
2. オプションとして、アナライザで、Latitude 列および Longitude 列 (大文字と小文字は区別されません) を含むピボット・テーブルを定義します。

これらの列には、緯度と経度が 10 進形式で格納されている必要があります (度/分/秒の形式ではありません)。

ピボット・テーブルの作成方法の詳細は、“[アナライザの使用法](#)”を参照してください。

マップ・ウィジェットのデータ・ソースを指定する必要はありません。データ・ソースを指定しない場合、ウィジェットはピンなしで表示されます。

3. ダッシュボードを表示します。
4. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
5. 左の領域で [マップ]、[マップ] の順にクリックします。
6. [データソース] では、前の手順で定義したピボット・テーブルを選択します。
7. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)”の説明に従って基本設定を指定します。
8. [OK] をクリックします。
9. 必要に応じて、以下のようにウィジェットをさらに詳細に構成します。
 - a. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ウィジェットを選択します。
 - b. [ウィジェット設定] をクリックします。
 - c. 以下の追加オプションを指定します。
 - ・ [ズーム] – 使用するズームの初期設定。数値を大きくするほど、表示が拡大されます。
 - ・ [初期の緯度] – 表示される初期の緯度 (単位 : 度)。
 - ・ [初期の経度] – 表示される初期の経度 (単位 : 度)。

- ・ [ドラッグ可能マーカ] – マップ・マーカをドラッグ可能にするかどうかを制御します。

9.2.1 infoWindow ポップアップの構成

基礎となるピボット・テーブルに、緯度と経度に加えてデータがあると、マップ・ウィジェットを構成して、そのデータを表示できます。ユーザーがマップ・ウィジェットでピンをクリックすると、ウィジェットにはポップアップ・ウィンドウが表示され、追加情報が示されます。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [データのプロパティ] をクリックします。

このマップ・ウィジェットに対して定義されたプロパティのリストが表示されます。

3. プラス記号 (+) ボタンをクリックします。

プロパティを指定するダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 以下のオプションを指定します。

- ・ [ラベル] – 必要に応じて、列ヘッダとして使用するテキストを指定します。(このラベルでは強制改行ができません。)
- ・ [データ値] – 表示する値を指定します。[データ・ソース](#)のプロパティを選択します。このシナリオでは、静的な値や数式は使用できません。
- ・ [書式] – 必要に応じて、[形式文字列](#)を指定します。

5. [OK] をクリックします。

9.3 ポートレットを使用するウィジェットの追加

カスタム・ポートレットを使用するウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。


1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。
2. 左の領域にある[ポートレット]をクリックします。リストが展開され、選択肢リストが表示されます。このリストには、このネームスペースのコンパイルされたすべてのポートレットの短いクラス名が表示されます。
3. 追加するポートレットの名前をクリックします。
4. 必要に応じて、“[ダッシュボードへのウィジェットの追加](#)”の説明に従って基本設定を指定します。
5. [OK] をクリックします。

ポートレットの作成方法の詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。

9.4 コントロール・ウィジェットの追加

コントロール・ウィジェットを追加する手順は以下のとおりです。

1. [メニュー]→[新規ウィジェット追加...] をクリックします。

2. 左の領域にある **[コントロール・ウィジェット]** をクリックします。リストが展開され、選択肢リストが表示されます。追加するコントロール・ウィジェットのタイプをクリックします。
3. **[データソース]** で、以下のいずれかを実行します。
 - ・ 検索ボタン  をクリックし、**データ・ソース** を選択します。
 - ・ **[リンク先]** ドロップダウン・リストを使用して、同じダッシュボードの別のウィジェットを選択します。
4. 必要に応じて、“**ダッシュボードへのウィジェットの追加**” の説明に従って基本設定を指定します。
5. **[OK]** をクリックします。
6. 必要に応じて、このページの残りの部分での説明に従ってウィジェットをさらに詳細に構成します。
7. 必要に応じて、“**ウィジェット・コントロールの追加**” の説明に従って、コントロールを追加します。

コントロール・ウィジェットのツールバーは非表示にできません。

10

テーマの定義と使用

Business Intelligence ダッシュボードの外観を体系的に変更する最も簡単な方法は、テーマを定義して使用することです。ここでは、その方法を説明します。

10.1 テーマの概要

ダッシュボードの外観を体系的にカスタマイズするには、各ダッシュボードにあるウィジェットごとに一連のオプションを指定するか、各ウィジェットで使用するテーマを指定します。テーマを使用する方法では、テーマを定義するときにスタイルのオプションを 1 回指定するだけですみます。

1 つのテーマで、ピボット・テーブル・セルのサイズ、プロット線の色とサイズ、背景色の色と境界線などを指定できます。以下のテーブルは、テーマの仕組みをまとめたものです。

ウィジェットのタイプ	適用するテーマによって指定するオプション
テーブル形式のピボット・テーブル・ウィジェット	[テーブルの設定] のすべてのオプション。“ ピボット・テーブルの外観のカスタマイズ ” を参照してください。
グラフ形式のピボット・テーブル・ウィジェット	[グラフの設定]→[タイトルとラベル]、[グラフの設定]→[色とスタイル]、および [グラフの設定]→[系列の詳細] のほとんどのオプション*。“ グラフ・ウィジェットの外観のカスタマイズ ” を参照してください。
速度計	速度計に適用可能なほとんどのオプション*。“ 速度計のカスタマイズ ” を参照してください。
テキスト・メータ	テキスト・メータに適用可能なほとんどのオプション*。“ テキスト・メータのカスタマイズ ” を参照してください。
燃料計	燃料計に適用可能なほとんどのオプション*。“ 燃料計のカスタマイズ ” を参照してください。
信号機	信号機に適用可能なほとんどのオプション*。“ 信号機のカスタマイズ ” を参照してください。
ライト・バー	ライト・バーに適用可能なほとんどのオプション*。“ ライト・バーのカスタマイズ ” を参照してください。
スマイリー	スマイリーに適用可能なほとんどのオプション*。“ スマイリーのカスタマイズ ” を参照してください。
スコアカード	[スコアカード] セクションのほとんどのオプション*。“ スコアカード・ウィジェットの外観のカスタマイズ ” を参照してください。

ウィジェットのタイプ	適用するテーマによって指定するオプション
その他のタイプ	テーマは作用しません。

* 一般に、数値を指定するオプション（メータの「範囲の上限」や「範囲の下限」など）およびタイトルは例外となります。

10.2 新しいテーマ定義の作成

新しいテーマ定義を作成する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
テーマに使用するスタイルと同じスタイルを持つウィジェットがダッシュボードにある場合は、そのウィジェットを選択します。テーマに使用するスタイルと同じスタイルを持つウィジェットがない場合は、任意のウィジェットを選択します。
2. [メニュー]→[ウィジェットをテーマに保存...]を選択します。
3. [新しいテーマ]に、テーマの名前を入力します。
4. [OK]をクリックします。

テーマが作成され、保存されます。ウィジェットからコピーしたスタイル設定があれば、テーマにはそのスタイルが格納されます。また、テーマは、ローカルのスタイル設定を削除して代わりにテーマを使用するようにウィジェットを更新し、ダッシュボードを保存します。ダッシュボードが再表示されます。

10.3 テーマへのスタイル情報の追加

テーマにスタイル情報を追加する手順は以下のとおりです。

1. ダッシュボード・エディタにアクセスして、使用するスタイルを含んでいるウィジェットを選択します。
2. [メニュー]→[ウィジェットをテーマに保存...]を選択します。
3. [既存のテーマ]で、テーマを選択します。
4. [OK]をクリックします。

ウィジェットのスタイル設定がテーマにコピーされ、テーマが保存されます。また、テーマは、ローカルのスタイル設定を削除して代わりにテーマを使用するようにウィジェットを更新し、ダッシュボードを保存します。ダッシュボードが再表示されます。

10.4 テーマの適用

テーマを他のウィジェットに適用する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [タイプとデータ・ソース]をクリックします。
3. [ウィジェットのテーマ]をクリックします。
4. テーマの名前をクリックします。

直ちにウィジェットが更新され、ダッシュボードが保存されて再表示されます。

10.5 テーマの削除

テーマを削除する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [タイプとデータ・ソース] をクリックします。
3. [ウィジェットのテーマ] をクリックします。
4. テーマの名前の横にある [X] をクリックします。
5. [OK] をクリックして、この変更を確定します。

テーマは削除されますが、ダッシュボードは変更されません。削除したテーマを使用しているダッシュボードは、既定の外観に戻ります。







11

ウィジェット・コントロールの追加


ここでは、[Business Intelligence ダッシュボード](#)内のウィジェットにコントロールを追加する方法を説明します。

コントロールの例と使用可能な場所の詳細は、“[ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法](#)”の“[ダッシュボードの案内](#)”を参照してください。

注釈 以下のボタンはコントロールではないので、このページでは説明しません。

ボタン	説明
	ミニ・アナライザでピボット・テーブルを開きます。
	ウィジェットをテーブル形式で表示します。
	ウィジェットをグラフ形式で表示します。
	現在表示しているデータを Microsoft Excel にエクスポートします。
	ディメンジョン・リストを表示します。
	階層内の下位レベルにドリル・ダウンします。

これらのボタンは、ウィジェットの設定として指定します。詳細は、“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)”の説明を参照してください。

印刷ボタン  はコントロールとして扱うことも、ウィジェット設定として指定することもできます。

11.1 コントロールの追加

ウィジェットにコントロールを追加する手順は以下のとおりです。

1. “[ウィジェットの再構成](#)”の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. [コントロール] をクリックします。
3. プラス記号 (+) ボタンをクリックします。

コントロールを指定するダイアログ・ボックスが表示されます。

4. このページの残りの部分で説明する、必要なコントロールのタイプに応じて、オプションを指定します。
5. [OK] をクリックして、コントロールを追加します。
6. 必要に応じて、ダッシュボードを保存します。

ここでは、参考として、コントロール・オプションをリストし、その使用目的について説明します。

- ・ **[場所]** – コントロールを表示する場所を指定します。
 - **[ウィジェット]** (既定値) では、ウィジェット・ツールバーにコントロールが表示されます。
 注釈 ウィジェットにコントロールを追加する場合は、ツールバーが表示されていることを確認します (ツールバーの表示は **[ツールバー]** オプションで制御します)。[“ウィジェットの再構成”](#) を参照してください。
 - **[ダッシュボード]** では、**[フィルタ]** ワークリストにコントロールが表示されます。
 ワークリストのないダッシュボードとして構成した場合、コントロールは表示されないため、**[ダッシュボード]** を使用しないでください。
 - **[onclick イベント]** では、コントロールを onclick コントロールとして構成します。コントロールは視覚的にはわかりません。
- ・ **[ターゲット]** – このコントロールが影響を及ぼすウィジェットを指定します。以下のいずれかを指定します。
 - このオプションが空欄の場合、コントロールを所有するウィジェットのみが、そのコントロールの影響を受けます。
 - このオプションが * の場合、すべてのウィジェットがコントロールの影響を受けます。
 - このオプションがウィジェット名の場合、そのウィジェットがコントロールの影響を受けます。この場合、そのウィジェットの **[ウィジェット名]** オプションで指定された値を使用します。
- ・ **[アクション]** – アクションを指定します。カスタム・アクションは、リストの末尾に表示されます。
- ・ **[データソース]** – 別のピボット・テーブルを表示するコントロールを提供できるようになります (このオプションは、コントロールを[再構成する](#)場合にのみ使用できます)。[“他のピボット・テーブルを表示するコントロールの追加”](#) を参照してください。
- ・ **[フィルタ]** – (**[アクション]** が **[フィルタ]** の場合) このコントロールで使用するフィルタを指定します。
- ・ **[タイプ]** – コントロールの視覚的な形式を指定します。
 - **[自動]** – 他の選択内容に基づいて、適切な形式が選択されます。
 - **[ドロップダウン]** – コントロールは、ドロップダウン・リストとして表示されます。
 - **[searchBox]** – コントロールは、検索可能なドロップダウン・リストとして表示されます。ユーザは値を入力してから、その入力に一致する値を検索できます。
 - **[ラジオ]** – コントロールは一連のラジオ・ボタンとして表示されます。
[ラジオ] オプションは、コントロールを[再構成する](#)場合にのみ使用できます。
 - **[ボタン]** – コントロールはボタンとして表示されます。
 - **[隠し]** – コントロールは表示されません。
 - **[カスタム]** – コントロールはカスタム・ポートレットに基づきます。
- ・ **[カスタム・コントロール]** – (**[タイプ]** が **[カスタム]** の場合) – 使用するポートレットを指定します。

- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – コントロール上に表示するテキストまたはコントロールの横に表示するアイコンを指定します。ここで使用できるアイコンの追加方法の詳細は、“InterSystems Business Intelligence の実装”の[“アイコンの作成”](#)を参照してください。
- ・ **[アクティブになるタイミング]** – このコントロールがアクティブになるタイミングを指定します。以下の値のいずれかを選択します。
 - **[常時]** – このコントロールは常にアクティブになります。
 - **[項目が選択された場合]** – このコントロールは、ユーザがピボット・テーブルでセルを 1 つ以上選択するとアクティブになります。それ以外の場合、コントロールはアクティブではありません。
 - **[リスト項目が 1 つ選択された場合]** – このコントロールは、ユーザがリストで単一の行を選択するとアクティブになります。それ以外の場合、コントロールはアクティブではありません。
 - **[リスト項目が選択された場合]** – このコントロールは、ユーザがリストで 1 つ以上の行を選択するとアクティブになります。それ以外の場合、コントロールはアクティブではありません。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを指定します。
- ・ **[コントロールのサイズ]** – コントロールの幅を指定します。
- ・ **[読み取り専用]** – このオプションが選択されていると、ユーザはこのコントロールの値を変更できません。
 この場合、このコントロールの目的は、コントロールの状態を示すことです。既定値を指定するか（該当する場合）、ダッシュボード URL を使用して値を渡します。“InterSystems Business Intelligence の実装”の[“アプリケーションからダッシュボードへのアクセス”](#)を参照してください。
- ・ **[デフォルト値]** (フィルタ・コントロールのみに適用) – 既定のフィルタ値を指定します。このページで後述する[“明示的なフィルタ・コントロールの追加”](#)を参照してください。
- ・ **[必須]** (フィルタ・コントロールのみに適用) – このオプションが有効になっている場合は、フィルタの値を指定する必要があります。このページで後述する[“明示的なフィルタ・コントロールの追加”](#)を参照してください。
 ダッシュボード側でこのフィルタの値が常に得られるように、**[デフォルト値]** も指定する必要があります。

他のウィジェットのコントロール対象となっているウィジェットには、独自のコントロールを設定しないことをお勧めします。さらに、可能な場合は、ダッシュボード上にあるさまざまな多数のウィジェットの中にコントロールを散在させないようにしてください。

これらのオプションのすべての組み合わせが適切とは限りません。ここでは、特定の種類のコントロールで推奨される構成を示します。

11.2 コントロールの再構成

ウィジェットのコントロールを再構成する手順は以下のとおりです。

1. [“ウィジェットの再構成”](#)の説明に従って、ダッシュボード・エディタにアクセスしてウィジェットを選択します。
2. **[コントロール]** をクリックします。
3. コントロール名をクリックします。
4. 必要に応じて変更します。詳細は、[前のセクション](#)を参照してください。
5. 必要に応じて、ダッシュボードを保存します。

11.3 明示的なフィルタ・コントロールの追加

1 つまたは複数のウィジェットをフィルタするコントロールを追加するには、このページの前半で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – このコントロールで自動的に表示が更新される場合、次のいずれかを実行します。
 - このウィジェットのみを更新する場合、このオプションは空白のままにします。これが既定です。
 - すべてのウィジェットを更新するには、***** を指定します。
 - 更新するウィジェットの名前を指定します (そのウィジェットの**[ウィジェット名]** オプションで指定した値を使用します)。
- ・ **[アクション]** – 以下のいずれかを選択します。
 - **[フィルタの適用]** フィルタを設定して、自動で表示を更新します。
 - **[フィルタの設定]** フィルタを設定しますが、表示は更新しません。
- ・ **[フィルタ]** – このコントロールで使用するフィルタを選択します。
 - アナライザで作成したピボット・テーブルには、同じサブジェクト領域で使用可能なすべてのレベルがリストされます。
 サブジェクト領域に名前付きフィルタがある場合、リストには **[名前付きフィルタ]** という項目が含まれます。このオプションを選択すると、ユーザはこれらの名前付きフィルタの中から任意のものを選択できます。
 - KPI の場合、KPI に定義されているすべてのフィルタがリストされます。
 - プロダクション・ビジネス・メトリックの場合、**[インスタンス]** (表示するインスタンス)、**[MaxHistory]** (AUTOHISTORY を指定するプロパティに対して表示する履歴点の数)、および **[プロパティ]** (表示するメトリック・プロパティ) がリストされます。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]**、**[ドロップダウン]**、または **[searchBox]** を選択します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロール上に表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[読み取り専用]** – 必要に応じて、これを選択して、ユーザがフィルタを変更できないようにします。この場合、フィルタの目的は、データがどのようにフィルタ処理されるかを示すことです。既定値を指定するか、ダッシュボードの URL を使用してフィルタ値を渡します。“InterSystems Business Intelligence の実装” の “[アプリケーションからダッシュボードへのアクセス](#)” を参照してください。
- ・ **[値が必要]** – ユーザがこのフィルタの値を指定する必要がある場合は、**[必須]** オプションを有効にします。ダッシュボード側でこのフィルタの値が常に得られるように、**[デフォルト値]** の値も指定してください。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.3.1 既定値の指定

必要に応じて、値を **[デフォルト値]** に入力できます。

あるいは、虫眼鏡をクリックします。以下のダイアログ・ボックスが表示されます。

次のいずれかの操作を行います。

- ・ **【フィルタ値の選択】** の下の虫眼鏡をクリックし、表示されるダイアログで値を選択します。
- ・ **【MDX キーの入力】** フィールドに値を入力します。このリストの後に示すテーブルを参照してください。
- ・ **【実行時変数の使用】** ドロップダウン・リストから値を選択します。このドロップダウン・リストには、利用可能な実行時変数がすべてリストされます。(これらの作成方法の詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。)

そして、[OK] をクリックします。

実行時変数を選択すると、先頭にアット記号 (@) が付いた状態でこの変数が **【デフォルト値】** フィールドに表示されます。

例：@DefaultZipCode

注釈 フィルタ値はメンバ名ではなくメンバ・キーであると見なされます。多くの場合、メンバ・キーとメンバ名は同じです。メンバ・キーの表示に関する詳細は、“[アナライザの使用法](#)”の“[ピボット・テーブルのフィルタ処理](#)”にある“[メンバのキーの検索](#)”を参照してください。

また、ユーザが URL を使用してダッシュボードにアクセスする場合、URL 内のフィルタ値は、このコントロールに指定された既定値より優先されます。

【MDX キーの入力】 フィールドに値を入力する場合は、以下の形式のいずれかを使用します。

シナリオ	目的の値を返す式
単一のメンバ	"&[keyval]"。keyval はメンバのキーです。“ InterSystems MDX リファレンス ”の“ キー値 ”を参照してください。
メンバの範囲	"&[keyval1]:&[keyval2]"
メンバのセット	"{&[keyval1],&[keyval2],&[keyval3]}"
指定された単一のメンバを除く、レベルのすべてのメンバ	"%NOT &[keyval]"
指定されたサブセットを除く、レベルのすべてのメンバ	"%NOT{&[keyval1],&[keyval2],&[keyval3]}"

11.4 OnClick フィルタ・コントロールの追加

注釈 onclick フィルタ・コントロールは、[データ・ソース](#)としてピボット・テーブルを使用するウィジェットでのみサポートされています。

onclick フィルタ・コントロールを追加するには、このページの前半で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

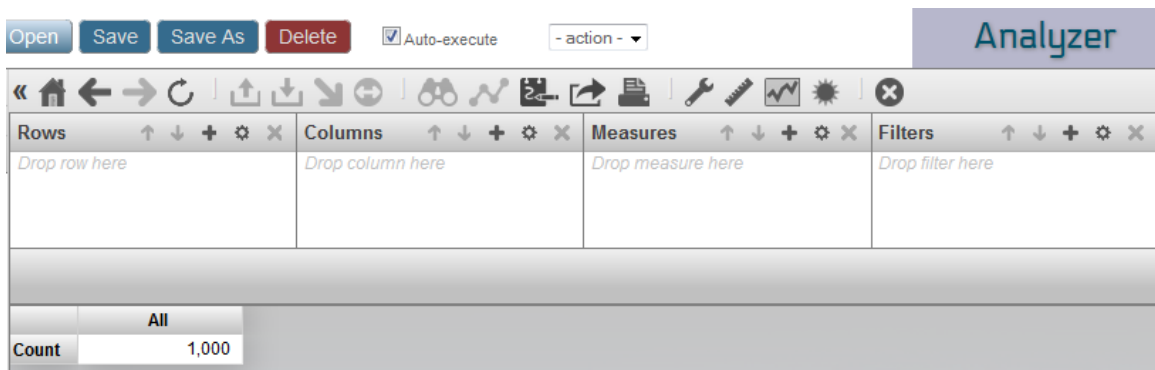
- ・ **【場所】**－ **【onclick イベント】** をクリックします。
- ・ **【ターゲット】**－ 以下のいずれかを実行します。
 - － すべてのウィジェットを更新するには、* を指定します。
 - － 更新するウィジェットの名前を指定します (そのウィジェットの **【ウィジェット名】** オプションで指定した値を使用します)。
- ・ **【アクション】**－ **【フィルタの適用】** を選択します。


注釈 適用するフィルタを選択する必要はありません。システムは、ユーザが選択する完全なコンテキストに基づいて自動的にフィルタ処理を行います。つまり、システムはウィジェットに適用されている現在アクティブなフィルタに加えて、行および列のコンテキストも考慮します。さらに、ウィジェット構成内でフィルタを指定する場合は、そのフィルタは無視されます。

11.4.1 例：OnClick フィルタを使用したリスト

例として、[サンプル](#)・ダッシュボード “OnClick フィルタを使用したリスト” を参照してください。このダッシュボードは以下のように定義されています。


- ・ ダッシュボード定義で、上側のウィジェットには、下側のウィジェットをターゲットとする onclick フィルタがあります。
- ・ 上部のウィジェットに表示されるピボット・テーブル (ダッシュボード/製品情報で使用) には、製品カテゴリが行として表示されます。
- ・ 下部のウィジェットに表示されるピボット・テーブル (ダッシュボード/HoleFoods Sales のリストで使用) は、自動実行されない、フィルタ処理されていない詳細リストとして定義されます。この方法でピボット・テーブルを定義するには、アナライザで以下を実行します。
 1. 必要なキューブを使用し、列または行の定義がなく、フィルタもないピボット・テーブルを作成します。以下に例を示します。



2. **【自動実行】** ボタンのチェックを外します。
3. リスト・ボタン  をクリックします。
ステップ 2 と 3 を実行する順序は任意です。
4. このピボット・テーブルを保存します。

11.5 更新コントロールの追加

ダッシュボードを更新するコントロール ([フィルタ](#)を設定しても、それらのフィルタを自動的に適用しないコントロールの場合に必要)を追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – 以下のいずれかを実行します。
 - このウィジェットのみを更新する場合、このオプションは空白のままにします。これが既定です。
 - すべてのウィジェットを更新するには、***** を指定します。
 - 更新するウィジェットの名前を指定します (そのウィジェットの**[ウィジェット名]** オプションで指定した値を使用します)。
- ・ **[アクション]** – **[更新]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** または **[タイマー]** を選択します。
 - **[自動]** を選択すると、コントロールは次のように表示されます : 
 - **[タイマー]** を選択した場合、値を **[時間 (秒)]** に入力します。この場合、更新コントロールは指定の間隔で自動的に実行されます。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがボタンの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

Tip **標準のアイコンではなくカスタム・ボタンを使用するには**、**[タイプ]** を **[ボタン]** と指定して、**[コントロールのラベル]** または **[アイコン]** の値を指定します。

11.6 ダッシュボードを印刷するコントロールの追加

ユーザがダッシュボードの一部または全体を印刷するためのコントロールを追加できます。出力は PDF ファイル (ブラウザ・ウィンドウで開かれます) であり、ウィジェットごとに 1 ページがあります。

そのようなコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – 印刷するウィジェットの名前のリストを指定します。このリストの最初のウィジェットによって印刷設定が決まります。

または、すべてのウィジェットを印刷するため、印刷設定を制御する必要がない場合は、***** と入力します。

[ターゲット] をそのままにした場合、現在のウィジェットのみが印刷されます。ただし、単一のウィジェットのみを印刷する必要がある場合は、単にそのウィジェットの印刷設定を有効にする方が簡単です。“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)” を参照してください。
- ・ **[アクション]** – **[ウィジェットの印刷]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – 選択したアクションに応じて、**[自動]**、**[ドロップダウン]**、または **[ボタン]** を選択します。

既定のタイプは画像付きの小さいボタンです。


- ・ **【コントロールのラベルまたはアイコン】**－必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **【コントロールのツールのヒント】**－ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

次に、ダッシュボードを保存します。

詳細および要件は、“[ウィジェットの印刷設定のカスタマイズ](#)” セクションを参照してください。

11.7 ダッシュボードを再ロードするコントロールの追加

ダッシュボードを再ロードするコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **【場所】**－**【ウィジェット】** (既定値) または **【ダッシュボード】** を選択します。
- ・ **【ターゲット】**－このオプションは無視します。すべてのコントロールが更新されます。
- ・ **【アクション】**－**【ダッシュボードの再ロード】** を選択します。
- ・ **【タイプ】**－**【自動】** または **【タイマー】** を選択します。
 - － **【自動】** を選択すると、コントロールは次のように表示されます： 
 - － **【タイマー】** を選択した場合、値を **【時間(秒)】** に入力します。この場合、再ロードのコントロールは指定の間隔で自動的に実行されます。
- ・ **【コントロールのツールのヒント】**－ユーザがボタンの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

Tip ヒン 標準のアイコンではなくカスタム・ボタンを使用するには、**【タイプ】** を **【ボタン】** と指定して、**【コントロールのラベルまたはアイコン】** の値を指定します。

11.8 表示タイプを変更するコントロールの追加

あるグラフから別のグラフに表示タイプをユーザが変更するためのコントロールを追加できます。以下の 2 種類のコントロールを追加できます。

- ・ ユーザがタイプを選択できるドロップダウン・リスト。
- ・ 異なるタイプにすばやく切り替えるためのボタン。この場合は、通常は少なくとも 2 つのボタンを追加することで、ユーザが元のタイプに簡単に戻せるようにしてください。

そのようなコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **【場所】**－**【ウィジェット】** (既定値) または **【ダッシュボード】** を選択します。
- ・ **【ターゲット】**－これは空白のままにします。このコントロールがこのダッシュボードにあるすべてのウィジェットに影響を与える場合は、* と入力します。

- ・ **[アクション]** – **[グラフ・タイプの設定]** または **[グラフ・タイプの選択]** を選択します。1 つ目のオプションでは、表示タイプを特定のタイプに設定するためのボタンが追加されます (このボタンは後で構成します)。2 つ目のオプションでは、表示タイプのドロップダウン・リストが追加されます (このドロップダウン・リストは後で構成します)。
- ・ **[タイプ]** – 選択したアクションに応じて、**[自動]**、**[ドロップダウン]**、または **[ボタン]** を選択します。
[グラフ・タイプの設定] の場合、既定のタイプは **[ドロップダウン]** です。また、**[グラフ・タイプの選択]** の場合、既定のタイプは画像付きの小さいボタンです。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

次に、コントロールを再び選択して、**[コントロール]** メニューを表示します。**[チャートタイプ:]** を選択します。これにより、グラフ・タイプのリストが表示されます (このリストにはピボット・テーブル・タイプが含まれます)。次に、以下の操作を行います。

- ・ **[アクション]** が **[グラフ・タイプの設定]** の場合は、単一のタイプをクリックします。
- ・ **[アクション]** が **[グラフ・タイプの選択]** の場合は、複数のタイプをクリックしてから **[選択内容の適用]** をクリックします。
指定したタイプを選択解除するには、そのタイプをもう一度クリックします。すべてのタイプを選択解除するには、**[選択内容のクリア]** をクリックします。

次に、ダッシュボードを保存します。

11.9 行や列の並べ替えを変更するコントロールの追加

ピボット・テーブル・ウィジェットでは、ユーザがピボット・テーブルの列ヘッダをダブルクリックすると、その列にあるデータを基準にしてピボット・テーブルが自動的に並べ替えられます。このための構成は不要です。

行や列の並べ替えに影響を与えるコントロールも追加できます。そのようなコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。このコントロールがこのダッシュボードにあるすべてのウィジェットに影響を与える場合は、***** と入力します。
- ・ **[アクション]** – **[行の並べ替え]** または **[列の並べ替え]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** (ドロップダウン・リストになります) または **[ドロップダウン]** を選択します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.10 行や列の数を変更するコントロールの追加

ピボット・テーブル・ウィジェットで、行または列の数を変更するコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。このコントロールがこのダッシュボードにあるすべてのウィジェットに影響を与える場合は、* と入力します。
- ・ **[アクション]** – **[行数]** または **[列数]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** (入力ボックスになります) または **[ドロップダウン]** を選択します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.11 行や列の仕様を変更するコントロールの追加

ピボット・テーブル (これ以外の[データ・ソース](#)では不可) を表示するウィジェットの場合、ユーザがピボット・テーブルの行または列の仕様を変更できるようにするコントロールを追加できます。そのようなコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。このコントロールがこのダッシュボードにあるすべてのウィジェットに影響を与える場合は、* と入力します。
- ・ **[アクション]** – **[行仕様の設定]** または **[列仕様の設定]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** (コントロールはボタンになります) または **[ボタン]** を選択します。
- ・ **[行仕様]** または **[列仕様]** (それぞれ該当する場合。このオプションはコントロールを[再構成](#)する場合にのみ使用可能) – MDX セット式を指定します。以下はその例です。

```
[gend].[h1].[gender].MEMBERS
```

別の例を示します。

```
{MEASURES.[avg test score],MEASURES.[avg allergy count]}
```

キーワード NON EMPTY は使用しないでください。また、セット式には ON ROWS や ON COLUMNS を含めない点に注意してください。

詳細は、“InterSystems MDX リファレンス” の “[セット式](#)” を参照してください。

この設定が空の文字列である場合、その仕様は無視され、元のデータ・ソースで定義されている仕様を使用されます。

- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。

- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

注釈 この種類のコントロールは、**データ・ソース**としてピボット・テーブルを使用するウィジェットでのみサポートされています。また、メータやスコアカードで **[列仕様の設定]** や **[列仕様の選択]** ([サブセクション](#)を参照) を使用することは実際的ではありません。それは、これらのオプションによってデータ・ソースのプロパティ名が変更されるからです。

11.11.1 バリエーション：選択肢リストの提供

上記に類似のコントロールとして、行または列の仕様に選択肢リストを提供するコントロールを用意する手順は以下のとおりです。

1. 選択肢を保持する条件リストを作成します。

条件リストの項目ごとに、**[キー]** を仕様の名前として指定し、**[値]** を MDX セット式として指定します。以下はその例です。

Terms		
	Key	Value
1	Allergies	[allerd].[h1].[allergies].MEMBERS
2	Cities	[homed].[h1].[city].MEMBERS
3	Colors	[colord].[h1].[favorite color].MEMBERS

2. 前述の手順を以下のように変更して実行します。

- ・ **[アクション]** – **[行仕様の選択]** または **[列仕様の選択]** を選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** (コントロールはドロップダウン・リストになります)、**[ドロップダウン]**、または **[ラジオ]** (選択肢の数が少ない場合) を選択します。**[ラジオ]** オプションは、コントロールを**再構成**する場合にのみ使用できます。
- ・ **[行仕様リスト]** または **[列仕様の選択]** (それぞれ該当する場合。このオプションはコントロールを**再構成**する場合にのみ使用可能) – この目的で作成した条件リストを選択します。

11.12 ピボット変数を設定するためのコントロールの追加

ピボット変数は、エンド・ユーザがダッシュボードと対話するための別の方法を提供します。基礎となるクエリがクエリの選択部分でピボット変数を使用するようにピボット・テーブルを定義できます (同様に、MDX ベースの KPI も同じようにピボット変数を使用できます)。ダッシュボードにこのピボット・テーブルを含める場合は、そのダッシュボードにピボット変数コントロールを含めることができ、ユーザはこれを使用して対応するピボット変数の値を変更できます。システムは単に指定された値をクエリに代入し、クエリを実行してから、再度ピボット・テーブルを表示します。

ピボット変数を設定するコントロールを追加するには、[このページで前述](#)した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[アクション]** – **[ピボット変数の適用]** を選択します。
- ・ **[ピボット変数]** – ピボット変数を選択します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。

- ・ [コントロールのツールのヒント] – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

このコントロールは、ウィジェットのデータ・ソースが指定のピボット変数を使用する場合にのみ有効です。

11.13 他のピボット・テーブルを表示するコントロールの追加

ピボット・テーブル・ウィジェットでは、データ・ソースとして他のピボット・テーブルを表示するコントロールを提供できます。元のデータ・ソースがピボット・テーブルである必要はありません。ウィジェットに特定のピボット・テーブルを表示するコントロールを追加するには、このページの前半で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ [場所] – [ウィジェット] (既定値) または [ダッシュボード] を選択します。
- ・ [ターゲット] – これは空白のままにします。
- ・ [アクション] – [データ・ソースの設定] を選択します。
- ・ [データ・ソース] (このオプションは、コントロールを再構成する場合にのみ使用可能) – ピボット・テーブルを選択します。
- ・ [タイプ] – [自動] または [ボタン] を選択します。
- ・ [コントロールのツールのヒント] – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

注釈 この種類のコントロールは、ピボット・テーブル・ウィジェットでのみサポートされています。

11.13.1 バリエーション：選択肢リストの提供

上記に類似のコントロールとして、選択肢リストを提供するコントロールを用意する手順は以下のとおりです。

1. 選択肢を保持する条件リストを作成します。

条件リストの項目ごとに、[キー] に仕様の名前を指定し、[値] にピボット・テーブルの名前 (.pivot で終わる名前) を指定します。

以下はその例です。

Terms		
	Key	Value
1	Pivot 1	Pivot Features/Members Sorted by Measure Value.pivot
2	Pivot 2	Use in Dashboards/For Cities Scorecard.pivot
3	Pivot 3	D2IMPActions/alternateDataSource.pivot

2. 前述の手順を以下のように変更して実行します。

- ・ [アクション] – [データ・ソースの選択] を選択します。
- ・ [タイプ] – [自動] (コントロールはドロップダウン・リストになります)、[ドロップダウン]、または [ラジオ] (選択肢の数が少ない場合) を選択します。
- ・ [データ・ソース・リスト] (このオプションは、コントロールを再構成する場合にのみ使用可能) – この目的で作成した条件リストを選択します。

11.14 リストを表示するコントロールの追加

どのピボット・テーブル・ウィジェットからも、リストを表示できます。リストは、その[データ・ソース](#)によって定義されます。

重要 マップ・リストでは Google Maps API が使用されます。この API が利用条件 (Terms of Use) に従って使用されていることを確認してください。利用条件には、このリストに表示されているリンクからアクセスできます。

Google Maps API を使用するには、API キーを取得する必要があることに注意してください。詳細は、“InterSystems Business Intelligence の実装” の“[基本設定の指定](#)”を参照してください。

リストを表示するコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。
- ・ **[アクション]** – **[リストの表示]** または **[地理リストの表示]** (マップ・リストが表示されます) を選択します。
右側のドロップダウン・リストからリストを選択します。
- ・ **[タイプ]** – **[自動]** を選択します。

標準のリストの場合、このコントロールは次のように表示されます：



マップ・リストの場合、このコントロールは次のように表示されます：



- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

Tip 標準のアイコンではなくカスタム・ボタンを使用するには、**[タイプ]** を **[ボタン]** と指定して、**[コントロールのラベル またはアイコン]** の値を指定します。

11.15 [ピボット分析] ウィンドウを表示するコントロールの追加


ピボット・テーブルを表示するウィジェットでは、**[ピボット分析]** ウィンドウを表示するコントロールを追加できます。そのようなコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。
- ・ **[アクション]** – **[ピボット分析]** を選択します。
- ・ **[分析]** – 表示する分析オプションを以下から選択します。
 - **[クラスタ]** – [クラスタ分析](#)を実行します。
 - **[分布]** – [分布分析](#)を実行します。
 - **[回帰]** – [回帰分析](#)を実行します。

- [コンテンツ分析] – [Text Analytics コンテンツ分析](#)を実行します。構造化されていないデータが含まれるサブジェクト領域にピボット・テーブルに基づいている場合にのみ、このオプションは使用できます。
- [エンティティ分析] – [Text Analytics エンティティ分析](#)を実行します。構造化されていないデータが含まれるサブジェクト領域にピボット・テーブルに基づいている場合にのみ、このオプションは使用できます。

これらのオプションの詳細は、“ダッシュボードとユーザ・ポータルの使用法”の“[\[ピボット分析\] ウィンドウの使用](#)”を参照してください。


オプションを選択していない場合、ユーザはどのオプションでも選択できます。オプションを選択した場合は、そのオプションのみが表示されます。

[タイプ] – [自動] (この場合、 ボタンとして表示されます) を選択します。

[コントロールのツールのヒント] – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.16 別のダッシュボードを表示するコントロールの追加

別のダッシュボードを表示するコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ [場所] – [ウィジェット] (既定値) または [ダッシュボード] を選択します。
- ・ [ターゲット] – これは空白のままにします。
- ・ [アクション] – [ダッシュボードの表示] を選択します。
- ・ [ダッシュボード] – 検索ボタン  をクリックし、ダッシュボードをクリックして、[OK] をクリックします。
- ・ [タイプ] – [ボタン] または [自動] (この場合、ボタンとして表示されます) を選択します。
- ・ [コントロールのラベルまたはアイコン] – 必要に応じて、コントロールに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ [コントロールのツールのヒント] – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

注釈 セルをダブルクリックして別のダッシュボードにドリルできるようにピボット・テーブル・ウィジェットを構成することもできます。“[ピボット・テーブル・ウィジェットの追加](#)”を参照してください。

11.16.1 値を渡す方法

ダッシュボードから Web ページに値を渡すには、URL に以下のトークンを含めます。

\$\$\$VALUELIST

このトークンは、以下のようにウィジェットの選択された行のコンマ区切りの値セットに置換されます。

- ・ スコアカード・ウィジェットでは、値は [値列] で構成されているプロパティから取得されます。
- ・ リストを表示しているピボット・テーブル・ウィジェットでは、値はリスト ID から取得されます。
- ・ KPI を表示しているピボット・テーブル・ウィジェットでは、[値列] で構成されているプロパティがあればそのプロパティから値が取得されます。それ以外は、値は最初の列から取得されます。

- ・ 他のシナリオの場合、`$$$VALUELIST` には値がありません。

値にはコンマが含まれていないものとします。

簡単な例として、URL は以下ようになります。

```
http://www.google.com/search?q=$$$VALUELIST
```

\$\$\$CURRVALUE

このトークンは、以下のようにウィジェットの現在の値に置換されます。

- ・ スコアカード・ウィジェットでは、値は **[値列]** で構成されているプロパティから取得されます。
- ・ [詳細リスト](#) を表示しているピボット・テーブル・ウィジェットでは、値はリスト表示前に表示されていた最初の選択セルから取得されます。
- ・ 他のピボット・テーブル・ウィジェットでは、値は最初の選択セルから取得されます。
- ・ 他のシナリオの場合、`$$$CURRVALUE` には値がありません。

注釈 `$$$VALUELIST` と `$$$CURRVALUE` は、マクロではありません。これらは、コンパイル時ではなく、実行時に置換されます。

11.17 Web ページを表示するコントロールの追加

Web ページを表示するコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値) または **[ダッシュボード]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。
- ・ **[アクション]** – **[移動]** を選択します。
- ・ **[URL]** – URL を入力します。
- ・ **[タイプ]** – **[ボタン]** または **[自動]** (この場合、ボタンとして表示されます) を選択します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、ボタンに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.18 カスタム・アクションを実行するコントロールの追加

カスタム・アクションを実行するコントロールを追加するには、[このページの前半](#)で示した説明に従ってコントロールを追加し、そのコントロールを以下のように構成します。

- ・ **[場所]** – **[ウィジェット]** (既定値)、**[ダッシュボード]**、または **[onclick イベント]** を選択します。
- ・ **[ターゲット]** – これは空白のままにします。
- ・ **[アクション]** – カスタム・アクションを選択します。カスタム・アクションは、このリストの末尾にあります。

カスタム・アクションの作成方法の詳細は、“[InterSystems Business Intelligence の実装](#)”を参照してください。

- ・ **[タイプ]** – オプションを以下のように選択します。
 - **[場所]** が **[ウィジェット]** または **[ダッシュボード]** の場合、**[ボタン]** または **[自動]** (この場合、ボタンとして表示されます) を選択します。
 - それ以外の場合、**[タイプ]** は無視します。
- ・ **[コントロールのラベルまたはアイコン]** – 必要に応じて、ボタンに表示するテキストを入力します。または、コントロールの横に表示するアイコンを選択します。
- ・ **[コントロールのツールのヒント]** – ユーザがコントロールの上にカーソルを置いたときに表示するツールのヒントを必要に応じて入力します。

11.18.1 行の値の指定

カスタム・アクションでコンテキストに関する情報 (つまり、アクションを実行する前にユーザが選択した行) が必要な場合があります (他のアクションは、コンテキストに関係なく、同様に機能します)。カスタム・アクションを使用する場合、このコンテキストが必要かどうかを必ず確認してください。

カスタム・アクションでコンテキストが必要な場合、以下を実行して、アクションに渡す値のある列を指定します。

1. 値として使用する**列**または**プロパティ**を特定します。
2. その列またはプロパティを再構成して、**[値列]** オプションを選択します。

同じウィジェットにある複数のプロパティまたは列で **[値列]** オプションを選択しないでください。複数選択すると、結果は不確定になります。

11.19 コントロールの非表示

場合によっては、コントロールを追加して、既定値を指定し、そのコントロールを非表示にすると便利ことがあります。コントロールを非表示にするには、**[タイプ]** で **[隠し]** を選択します。